さかづき　おほさかづき　大杯

は、前條の場合に於て、若し頭音が有聲音に變ずるときは、中•尾の有聲音は無聲音に變ずる。

か行の例

ひーかげる　ひーがける　日蔭
いはーくぐる　いはーぐくる　岩潜
せーくぐまる　せーぐくまる　背屈
たにーくぐ　たにーぐく　谷蟆
よーくだち　よーぐたち　夜降

さ行の例

あとーしざり　あとーじさり　後退

た行の例

うまーたぎゆきて　うまーだきゆきて　馬を牽く

は行の例

とーぼぞ　とーぼそ　戸臍　樞

又第二語の頭音を濁る場合に第一語の中にある濁音の清音に轉ずるものもある。

か行の例

かづらーき　かつらーぎ　葛城
みさざーき　みささーぎ

さ行の例

ぜんーさい　せんーざい
みそーさざい　おほささーぎ

按、**さざ**は**さざれいし**の**さざ**でもあり、**いささかのささ**でもあるやうである。

又**さ**行•**た**行には一語の中の清濁が前後おきかへられるものもある

くしび　くじひ
くしぶる　くじふる
いたづく　いたつがはし

左の諸語は分解すれば分解し得る語で、連濁とな

るやうであるけれども、國語としては連濁とならないが、方言としては鼻にかゝらぬ純粋の濁音となる。他地方の人には珍しい例であらう。

方言濁音の例

但普通語には連濁とならざるもの

えるーが（市）　ゐるーか　居るか
みーがん（平）　みーかん　蜜柑
やーが1（山）　やっーかい　厄介
がーぎ（西馬）　がーぎ（子供）餓鬼
そーご（角）　そーこ　其處
たんーず（北）　たんーす（戸棚）　簞笥
おーじゃ（市）　おーちゃ　御茶
きーじゅー（市）　きーちょう　忌中
おーでら（市）　おーてら　御寺
えーどー（市）いーとう　伊藤
せーーどー　せいたう　政黨

ぱ行音の聞かれるは、必しも鼻母音や無聲母音に先立たれる場合のみに限られないやうである。けれども其の他如何なる事情の下に無聲音に變ずるのか、未研究の結果を發表するに至らないのを遺憾とする。

あんがり一ぱ　あがりば　上場
うらぱし（鹿）　木梢
うわぱら　上方
うわぱり　うはばり　上張
おぱ　をは　尾羽
おち一ぱ　おちば　落葉
かす一ぱげ　かすはげ
かてぱずす　かてはづし
くち一ぱし　くちばし　嘴
けぱる　きばる　氣張
し一ぱる　ひっぱる　引張

しーばちょり　しりばしょり　尻端
しみばれ　凍傷！
すーぱさみ〔鹿〕　端折
すーぱる　ひこぱる　引張
でば　でば　反歯
とびばし　とびばし　鳶觜（鳶口）
なすーぱ　なすば　茄子齒
ねぎばな　ねぎばな（あをばな）
はなばし　はなさき
ひぱる　ひっぱる　引張
ふたば　ふたば　二葉
ぶらばげもの
まつーぱ　まつぱ　松葉
よくーぱり　よくはり　慾張
よぱり　よふかし
えぴーこ　蝦、指

おぴーかわ　帶革
くーぴた　首
くーぴと　同
それんぴた　僅少
たぴかた　足袋型
はらぴり　赤痢
あぶる　あびる　浴
かぶーきもん　かぶきもん　冠木門、衡門
かんぷけ　かびけ　黴
かんぷける　かびける　同
かぷけん　かぶけん　株券
けんぷてぁ　けぶたい
ねばる　ねばる　粘
ねんぷか　ねぶか　葱
ねんぷかぎ　ねぶかけ　坐睡
ねぷーた　ねむのきつ　合歡木

ねぷてぁ　催眠
はぷーかけ　はぶかけ　斷崖
まつーぷてぁ〔本〕　まばゆい　眩
まぷーす　まぶしい　眩
うらぺ　末梢
かさぺねぁ
かちゃぺねぁ
こぺたげる
してぺ　頂
あぺぁ〔河〕　飲料水（小）
あぺぁこ〔市、南〕　水（小）
なかぺろ　ながひろ
ほぺた　ほゝへた
ほぺだ　同
まちぺ〔山〕　眩
うらぽえ　末梢

かかぽい　眩
からぽねやみ　物臭
ごでぁぽね
すわぽ　しはっぽ　吝嗇
しゃろぽ　さより　鱧
たちーぽし　心細い
たちーぽしねぁ〔市、五〕　同
たじぽそねぁ　同
まんつーぽい〔湯〕
まんつーぽえ〔雄〕
あぺぁ　飲料水（小）
あぺぁこ　水（小）
きゃぺぁ　男根
そぺぁ　しほはゆい　鹹
しぺぁ　同　同
まじぺぁ　まばゆい　眩

撥聲語には左の如きものもある。

がぱ　駒下駄
ぱぱ　煙管
ぴぴ　笛
ぷぷく　豆腐
ぺろぺろ　索麵
ぽこ　火
ぽぽ　同

◎拾　遺

長音を二重母音に言ふもので珍しいのがある。例へば

すいがく　すうがく　數學
ついしん　つうしん　通信

の如くである。これは「う」と「い」との單母音が結合して一音節をなし、「い」は非音節母音で、「う」は音節母音である。そして上の「う」の方が強くて下の「い」が弱いのであるから、下降的二重母音といふべきものである。

發音變化の原因に關する諸說

言語組織の音韻は何故に變化するか。國民、民族の發音は如何なる理由の下に變遷して行くか。

先哲の諸說を概括して表示すれば、大約左の如きものであらう。

- 發音變化
  - 歷史的
    - 內因＝傳承の不完全
      - 發音機關＝運轉の變化による
        - 自然的（模倣說）
        - 人爲的（便宜說）
      - 聽音機關＝音の動搖性による
    - 外因＝外國との交通による（文明說）
  - 地理的＝氣候並に四圍の事情による（風土說）

第二編　語法

第二編　方言の語法的考察

凡例

一、本篇は、秋田縣地方に行はれる方言訛語に對して、各品詞毎に考察研究をなし、その語法を記述したものである。

二、方言訛語の本質上、縣內各地方に行はれるもの悉く同一である事は、勿論出來得ないことであるから、その共通的法則を索めると甚だ少いものとなるか、或は不可能に終るかも知れない。けれども本篇は方言の除去、訛音の矯正に資しようとするのであるから、嚴密な意義に於ける文典學的研究を避けて、成るべく常識的考察の結果を記載したのである。

三、考察資料として蒐集された語彙は、全縣的のものと觀るを得るや否やは多少顧慮を要することゝ考へられるが、とにかくに集つたものと、編者の日常見聞しつゝある方言訛語とによつて記述したのである。

特に資料として、又編纂方法として、左記各篇は、編者に多大な參考の便利を與へられてゐる。記して感謝の意を表する。

湯澤幸吉郎氏　語法上から見た秋田方言、
佐賀藤松氏　方言矯正資料の研究
細谷則理氏　平鹿郡方言
大山　宏氏　秋田縣方言音韻及口語法

四、音勢(Accent)に就いては、各地方に依つて非常に相違があり、その相違が微妙なる心情の表現を特殊化しつゝあるを以て、有らゆる種類を擧例するを可とするけれども、この點に於ては資料

蒐集も及ばないことであり、又研究の時日も許さない所であるから、編者の經驗と、前の第三項記載の各資料とを參考として、比較的廣く行はれると思はれる音勢を擧げるに止めたのである。

五、本縣の方言は、地方によつて語彙が違ひ殆んど統一すべくもない程である。

それ故に、之が語法をもとめ、全縣方言の共通的法則としての考察は或は到底不可能であるかも知れない。しかしながら、或一地方に於ての語法と思はれるものでも、大率かやうな法則が先づ擧げ得ると思はれる程度のものを採つたのだから、必ずしも全縣共通の語法とは觀られないものが少くないことを諒とされたい。

昭和四年一月

第二編　方言の語法的考察

目次

凡例……一
語の部
第一章　序説……七
第二章　名詞……七
固有名詞……七
普通名詞……七
第三章　代名詞……九
人代名詞……九
自稱代名詞……九
對稱代名詞……九
他稱代名詞……九
不定稱代名詞……一〇
指示代名詞……一〇
物事代名詞……一〇
場所代名詞……一〇
方角代名詞……一一
第四章　數詞……一一
國語の數詞……一二
漢語の數詞……一二
第五章　動詞……一三
自動詞……一三
他動詞……一三
動詞の種類と活用形……一三
五段活用……一三
上一段活用……一四
下一段活用……一四
か行變格活用……一五
さ行變格活用……一六

将然形……一六
命令形……一七
連用形……一八
假体言……二〇
音　便……二一
促音便……二一
撥音便……二三
い音便……二四
第六章　形容詞……二四
形容詞……二四
形容動詞……二七
指示形容詞……二九
第七章　助動詞……二九
受身の助動詞……二九
可　能……三〇
使　役……三一
希　望……三二
推　量……三二
打　消……三三
過　去……三四
敬　譲……三五
指　定……三九
比　況……四〇
第八章　副　詞……四一
第九章　接續詞……四一
第十章　助　詞……四二
第一類の助詞……四二
か　かい　が　から　くらゐ　ぐらゐ
こそ　さ　さへ　しか　と　どころ
どこ　なら　なり　に　の　ばかり
ほか　ほど　まで　やら　より
は(わ)　でも　ながら　など

(以上に相當するもの)
第二類の助詞……四九
が　から　けれども　ぜ　ぞ　さう
と　とも　に　の　ものなら　やう
たって　たっても　たら　たり　て　とこ・
ろが　(で)　ば　のに
(以上に相當するもの)
第三類の助詞……五四
へ　づつ　と　を
(以上に相當するもの)
第四類の助詞……五四
な　なあ　ね　ねぇ　な　わね　よ　まゝ
(以上に相當するもの)
第十一章　感動詞……五六
一般的のもの……五六
人を呼ぶ時のもの……五六
應答の時使ふもの……五六
打消して答へる時のもの……五六
第十二章　詞の組立……五七
接頭語……五七
接尾語……五七
第十三章　敬譲語……五七

目次　終

第二編　方言の語法的考察

第一章　序　説

一音又は二音以上を以て或意味をあらはすものを「語」といひ、「語」を語法の上から分類したものを品詞といふ。

品詞を次の通り十種に分ける。

名詞　代名詞　數詞　動詞　形容詞　助動詞
副詞　接續詞　助詞　感動詞

第二章　名　詞

名詞の方言は澤山あるが、例として左の十數語を擧げる。

固有名詞

かねじゃ（金澤）　**てぁふぇざん**（太平山）
えもか（芋川）　**たろっこ**（太郎）
さんぺ（女の名―おさん）

普通名詞

あぐと（踵）　**おんちゃ**（次男）
きるこ（煙管）　**こんにゃ**（今夜）
じっこ（老爺）　**だんぶり**（蜻蛉）
でぇ（父）　**さげのよ**（鮭）
なんずぎ（額）　**ねっちよ**（執念）

（一）同じ名詞を重ねること。

とごんどこ（所々）　**はしんばし**（橋々）

などあるが、多くは普通語法のやうに連濁を生ずることが、かみがみ（神々）すみずみ（隅々）などゝ等しい。

（二）名詞の下に接尾語をつけること。

「**こ**」の用い方は必ずしも一様ではない。即ち次のやうである。

(1)小少または親愛の意味をもつもの。

うしろの小山**こ**　(親愛)**さ**、**ほなーこ**(親愛)**おるー に**。　川**こ**(小)　**このひとこ**(小少)

水**こ**(少)　**たっこ**　(少ー田地)

(2)他を蔑ろにする意味をもつもの

はだぎ(畑)**こ**(少)の一ー町歩**こばりこ**(許り)**もてだて**(持っても)**なーだけな**　(誇ろに足らない)

中學校**さ**五年**ばりこふぇぁーたって**(入ったつて)

がぐしゃずらこして(學者顏して)　**なーだけな**　(何んと言ふわけかな)

(3)親愛から轉じて謙遜の意味を持つもの

このふなこ、**わずかばりこだども**、**ける**。(呉れる)

よーよ　(漸く)卒業**こぁ**　**でぎだんしてぁ**。　(卒業が出來ましたよ)

このてこさー、**ちこーしけでたんへ**。(少し下さい)

ちょと(一寸)相談**こに**來**たーんし**(來ました)

「**だ**」たちの意味をもつ。

んがだ(お前だち)**なーにしてる**。

あーんにゃだ(兄達)**ざこ**(雜魚)**おじぁだど**　(弟達と)　**えーっぺぁとた**(澤山捕つた)

「**ど**」どの　(殿)の意味をもつ。

太郎兵**どあ**　**さげ**(酒)**よた**。(醉うた)

あーんちゃど、**たご**(凧)　**けら**(與へようから)

こちゃけー。(こちらへ來い)

「**ばら**」　たちのやうに複數の意味をもつ。

んーがばらなーんしに來**た**。(汝等何用で來た)

がぎばらまるぐたごどさねぁ。(よいことをしない)

「びら」「ばら」に同じい。

けぁーずんびらくり(栗)**みなまぐらた**。(悉く食つた)

せぁずーんびらのしたごど(した事)**にそえーねぁ**。(相違がない)

第三章　代名詞

人代名詞

(一)自稱　**おれ**　**おれぁ**　**わーぁ**　**おらー**　の類

(二)對稱　**んが**　**おめーぁ**　**わーぁ**　の類

(三)他稱　**けぁーず**　**えぁず**　**せぁず**　の類

(四)不定稱　**どーねぁ**　**だーぁ**　**でぁーず**　の類

複數を表す場合には前章の「だ」「ばら」「びら」等をつける。

更に細說すれば

(一)自稱代名詞

單數　**おれ**　**おれぁ**　**おら**　**わーぁ**

複數　**おれぁがだ**　**おらだ**　**おらんだ**

(二)對稱代名詞

單數　**んが**　**おめーぁ**　**わーぁ**　**きさん**　**わねぁ**

や　**やゝこ**

複數　**んがだ**　**んーがばら**　**おめぁーだ**　**おめぁだ**

ず　**わぁーだ**　**わぁーがだ**　**きさんがだ**　**き**

さんだ　**わねぁんびら**　**わねぁんだ**

おめぁーは多少敬意を含み、**んが**は多く同輩以下に用ひられるがまれに同輩以上にも、**わぁ**は對手を蔑視する場合に、**きさん**は多く士族階級の同輩以下を呼ぶに用ひられる。**わねぁ**は僻地に用ひられる。**や**は親愛の意味を含み、**やゝこ**は兒童を呼ぶに用ひられる。

(三)他稱代名詞

單數　**けぁず**　**えぁず**　**せぁず**

複數　**けぁずかだ**　**けーぁずぁだ**　**えーぁずがだ**　**えーぁ**

ずぁだ せぁずぁだ せぁずびら せぁずんびら
えぁずんびら
けぁず は多く同輩以下又は蔑視の時に、**えぁず、せぁず**は同輩以下に用ひるもまれに同輩以上にも用ひることもある。

（四）不定稱代名詞

單數 **どねぁ だぁ でぁず どなだ**
複數 **どねぁだ だぁだ でぁずばら でぁずんびら**

以上は同輩以下に用ひる、**でぁず**は對手を蔑視する時に用ひられる。

指示代名詞

（一）物事 **これぁ それぁ あれぁ どれぁ** の類
（二）場所 **こゞ そご あこ あっこ どご** の類
（三）方角 **こっちゃ そっちゃ あっちゃ どっちゃ**の類

助詞の「さ」につゞける時は、**こさ、そさ、ど**

さ、など用ひ、「**こごらだり**」「**そごらあだり**」などの「**らだり**」「**らあだり**」を附けることがある。

又「**こっちとら**」「**そっちとら**」のように「**とら**」をつけることもある。

更に細說すれば

（一）物事代名詞

近稱 **これぁ**
中稱 **それぁ**
遠稱 **あれぁ**
不定稱 **どれぁ**

（二）場所代名詞

近稱 **こゞ こっちとら、こごらあだり、ここらだり、**
中稱 **そご そっちとら そごらあだり、そごらだり、**

遠稱 **あこ あっこ あこらあだり、あこらだり、**
不定稱 **どご どごらあだり、どごらだり、**

（三）方角代名詞

近稱 **こつちゃ こっちのほ、こっちとら**
（時に尊大又は卑下する時の自稱代名詞に用ひられることがある）
中稱 **そっちゃ そっちのほ そっちとら**
（時に尊大又は卑下する時の對稱代名詞に用ひられることがある）
遠稱 **あっちゃ あっちのほ、あっち、あっちらだり、あっちらあだり**
不定稱 **どっちゃ どっちのほ、**
（この二語は場所と混同して用ひられる）

注意 各種の代名詞が他の品詞と融合して諸種の語形を造ることは音韻篇又は語彙篇に讓る。

第四章 數詞

國語の數詞

しゅとつ（ひとつ） **しゅたつ**（ふたつ） **えずゞ**（いつゝ） **なんぼなんぼつ**（何程）は多く用ひられる。

漢語の數詞

ふぃぉぐ又は**ふぇぉぐ、ひぉぐ**（百）**にぇぉぐ、にぇぉぐ**（二百） **おぐ**（億）「二」は鼻音なるに單に口腔のみ用ひて發音することが多い。

以下いろ〳〵のとなへ方について述べる。

（一）月をかぞへるに、一ぐわつ、二ぐわつ、といふのを改まつた場合に一**げつ**、二**げつ**といふものが多い。

（二）薪、青物の束ねたもの、又は鳥兎や頁などをかぞへるに、いちは（一把一羽）、ろくは（六把六羽）、はちは（八把八羽）、はち**ぺーじ**といふ

のをいっぱ、ろっぱ、はっぱ はっぺーじといふやうに促音にする。

(三)年齢をかぞへるに、「二十歳」をにんじゅ、「三十歳」をさんじゅ と唱へる。

(四)回數をあらはすに「げぁり」と唱えて しゅと(ひと)げぁり、ふと(ひと)げぁり、(以上一回(ひとかへり)の意)しゅた(ふた)げぁり(二回の意)などゝいふ。又船などをいっぺぁ(一艘)烏賊などを二へぁ(二尾)袴をかぞへるに具が「ごー」となつてえずごー(一具)などゝ唱へる。

(五)貨幣の稱に、厘をもん(文)一錢を十もん、十錢をふぇぁぐ(百)、十五錢をふぇぁぐごんじゅ(百五十)圓をくゎん(貫)又はりよー(兩)といひ、五十錢を二ぶ(二分)又は二んぶ(二分)などゝいふ。

(六)醤油、酒などの一合五勺を いっぺぁといひ、一升五合をかだがだ(片々)と 山間などの老人は今でもいふ。

(七)一般に濁音の多いのは特色ではあるが ろぐ(六) すず(七) えず(一) はず(八)などは數詞の訛りである。但し數詞に「お」を冠らせて「おいくつ」「お十三」などゝいふことは絶對にない。

第五章 動詞

有樣存在又はひとりでする性質の動作をあらはす動詞を自動詞といふ。

枝ぁえんごぐ (枝が動く)
子供ぁあすぶ (子供が遊ぶ)
大雪にぁどでんまぐる (大雪に吃驚する)

ほかの物事にかゝる動作をあらはす動詞を他動詞といふ。

炭の火ちょす (炭火をいぢる)

泥のだぐる (泥をなすりつける)
犬ぶなぐる (犬を打つ)

動詞の種類とその活用形

(一)五段活用特有のものばかりを擧げて、普通語法と同一のものをば省略する。以下各活用皆同じい。

語	第一活用形	第二活用形	第三活用形	第四活用形	第五活用形	第六活用形
書	が	ぎ	ぐ	げ	ごー	げ ご
勝	だ	ぢ	づ	で	どー	で ど
撓(しな)	ら	り	る	れ	ろー	れ ろ

注意一 「ら」行活用の「おぢゃる」の第四活用形「おぢゃれ」から轉訛したと思はれる所の

おんざえ(じゃえ) (いらっしゃい)
おじゃえ おじゃへ (いらっしゃい)

がある。が單に此の命令形だけ固定的に現存するばかりで他の活用形がない。又

たんへ たんえ (下さい、たまへ)

の二つは「たまふ」の第四活用形「たまへ」の意味と思はれるが、これも固定的になつてゐる。

注意二 第三活用形が次の様に轉訛することがある其のうぇはわ行のゑの音である。

「た」行で うじぇ (打て)
かじぇ (勝て)
たじぇ (立て)
「わ」行で かうぇ (買へ)
すうぇ (吸へ)
とうぇ (問へ)

注意三 「ら」行活用の第一活用形が打消の助動詞「ない」につゞく場合には語尾の「ら」が省略される。

きない (切らない)
とない (取らない)

(二)上一段活用

語	第一活用形	第二活用形	第三活用形	第四活用形	第五活用形	第六活用形
起	ぎ	ぎ	ぎる	ぎる	ぎれ	ぎれ ろー
過	ぎ	ぎ	ぎる	ぎる	ぎれ	ぎれ ろー
落	ぢ	ぢ	ぢる	ぢれ	ぢれ	ぢれ ろー

注意一　おりる(降)こりる(懲)かりる(借)たりる(足)は上一段活用であるが、秋田地方では下一段に活用させる。

おれーねぁ　(おりない)

これーねぁ　(懲りない)

かれでこい(借りて來い)

たれーねぁ　(足りない)

注意二　「**懲れる**」「**飽ぎる**」は一旦は名詞(假体言)となして更に「**さ**」行變格活用にはたらかせるのが多い。

これーした　(懲りた)

これーさねぁ　(懲りない)

あぎーしねぁ　(飽ぎない)

あぎーしぇばだめんだ　(飽きればだめだ)

(三)下一段活用

語	第一活用形	第二活用形	第三活用形	第四活用形	第五活用形	第六活用形
受	げ	げ	げる	げれ	げよー	げれ ろー
中	で	で	でる	でれ	でよー	でれ ろー
煮	れ	れ	れる	れゝ	れよー	れゝ ろー
懲	れ	れ	れる	れゝ	れよー	れゝ ろー

注意一　「**さ**」行活用の「**せ**」は一般に「**しぇ**」又は「**へ**」と訛る。

あしぇ(へ)る　(合はせる)

かだしぇ(へ)る　(加入させる)

注意二　右の「**せ**」は又「**ちぇ**」と發音することがある。子供の言葉に多い。

くちぇる　(食はせる)

はちぇる　(走せる)

のちぇる　(乘せる)

注意三　「**ら**」行活用の「**くれる**」(呉れる)は一般に「**ける**」といふ。この時は、「**か**」行活用となる。

けだものよぐしぇ(へ)ー(呉れたものをよこせ)

ける　(くれる)

注意四　「**あ**」行活用の「**こしらえる**」は「**こしぇぁる**」「**こたえる**」は「**こでぁる**」と轉訛することが多い。

注意五　文語の「**わ**」行下二段活用の「**かつう**」(飢)も「**ら**」行下一段活用にして

かずれしぬ　(飢れ死ぬ)

かずれるほどだ　(飢れる程だ)など用ひる。

注意六　「**が**」行下一段活用に於て「**か**」に發音される語もまれにはある。「**しらける**」(惡戯する)「**ばがける**」(馬鹿眞似する)などはその例である。

(四)**か**行變格活用

語	第一活用形	第二活用形	第三活用形	第四活用形	第五活用形	第六活用形
來	こ	き	くる	こえ け	こー け	こえ け

第一　二三活用形までは普通用法と同じ、けれども第四と、第五活用とがちがふ。

はやぐこーえばえーなぁ　(早く來ればいゝな)

はやぐけーばほめでやる　(早く來ればほめる)

こちゃこーー(こちらへこよう)(命令にも用いることがある。)

こっちゃーけ　(こちらへこい)

注意　第一活用形「**こ**」(來)に打消の助動詞「**ない**」がつく時には、「**ねぁ**」に訛つて

こえねぁ（來られない、來れない）

けねぁ（同　上）となつてしまふ。

（五）さ行變格活用

語	第一活用形	第二活用形	第三活用形	第四活用形	第五活用形	第六活用形
爲	さ	し	する	すれ　せ	そー	すれ　せ
爲	じ	じ	じる	じれ	ぞー	じれ

あまりしんぺぁさねぁほえ（餘り心配しない方がよい）

くすりこ煎じでのめへ（**しぇ**）（藥を煎じて飲みなさい）

これせばあどこねぁ（懲りれば後には來ない）

ちこしおめぁこりそー（少しお前は懲りしようやうだ）

注意一　第四第六活用形は實際には「**せ**」「**じ**」のみ多く用ひる。「**せ**」の發音の仕方は「**しぇ**」「**へ**」で「**じれ**」のは「**ずれ**」に近いやうだ）

注意二　この活用は漢語、熟語、外來語と合成して動詞を造ることが出來るが教育のないも

のはあまり用ひない。）

活用形に於いては大體に就いて普通の口語法と異なることがないが、その著しいものを擧げて見よう。

（一）將然形

普通口語では

五段活用は　第五活用形（**お**列の音）を長く延いた音、例へば「きれいに書こー」「ていねいに讀もー」「正しく言おー」となるけれども秋田方言では「書**かぁ**」「讀**まぁ**」「言**わぁ**」となる。

上一段活用では　第一活用形（**い**列の音）に「よー」をつけた音、例へば「早く起きよー」「柿も落ちよー」「花も見よー」となるけれども、方言では「起**ぎらぁ**」「**落ぢらぁ**」「見**らぁ**」となる。

下一段活用では第一活用形（**え**列の音）に「よー」をつけた音、例へば「毬を受けよー」「なぞを中てよー」「糸を延べよー」となるけれども、方言では受「**けらぁ**」「中**てらぁ**」「延**べらぁ**」となる。

か行變格活用では　第一活用形（**お**列の音）に「よー」をつけた音、例へば「明日はこよー」となるけれども、方言では「**くらぁ**」となる。またれに「**こらぁ**」ともいふ。

さ行變格活用では、第二活用形（**い**列の音）に「よー」をつけた音、例へば「これから勉強しよー」となるけれども、方言では「勉强**さぁ**」「勉强**すらぁ**」となる。

注意一　大體以上記述する形を取るが、所に依つては

きれーに書ぐ（五段活用）

はやぐ起ぎる（上一段活用）

明日來**る**（**か**行變格活用）

勉强**する**（**さ**行變格活用）

と言うてゐるが、殆んど將然形を缺いてゐるとも思はれる。

注意二　ごくまれではあるが、「私も東京に行こー」といふ時に「**おれも東京さ行ぐべ**」と「**べ**」を用ゐることもある。

（二）命令形

五段活用は第四活用形そのまゝ又は「よ」がそはるが、秋田方言では「よ」がつくことがない。例へば「**かげあしに勝で**」「**本を讀め**」である。但し婦女子など兒童に向つては、親愛の情を罩める時に**なんでかんで**（ぜひとも）勝**でよ**」「本を讀**めよ**」といふこともあ

る。

其の他の四つの活用では、第六活用形をそのまゝに用ゐる。

例へば、

うんて勝**で、きれーに**書**ご**（五段）

よぐ見**れ、はやぐ**過**ぎれ**（上一）

盆**に**載**せれ、**糸**を**延**べれ**（下一）

おそぐけ、こっちゃこえ（か變）

勝手**にせ、なんぼも**樂**すれ**（さ變）

（三）連用形

助動詞の「だ」「だら」「だり」助詞の「で」等に接續する時は一種の變形をなすか、語尾が省略されるかする。

（イ）五段活用についていへば、

字**をきぁだ**（字を書いた）

よぐきでけれ（よく聞いて呉れ）

（ん）だ）

くせぁにおえかんだらむねぁわり（臭いにほひを嗅い（ん）だら胸がわるい）

などゝも言ふし、体言ではあるが、その語尾が「ら」行音であると、やはり同様の轉訛を見る。

どんでりつぱだ（道理で立派だ）

そごにえだものぁだんだ（そこに居たものは誰だ）

だんだらだんだとゆえ（誰だら誰だと言へ）

注意　「だ」行音は鼻にかけて發音するからしてうに聞える。但し無聲音（淸音）の有聲音（濁音）に訛つた場合は鼻音とならない。例へば「**まだが**」（又か）の「**だ**」、「**きえだが**」（聞いたか）の「**だ**」のやうなものである。

はものとんだらよぐきれる（刃物を研いだら良く切れる）

めぁんだりほごしたり（巻いたり解いたり）

てぁでしまえ（たいてしまへ）

（ロ）「か」行五段活用では第二活用形の「ぎ」が「ん」となる。

急んではしぇだ（急いで走つた）

研んだらよぐきれる（研いだら良く切れる）

泳んだりあがたりした（泳いだり上つたりした）

皮はんでしまえ（皮を剝いでしまへ）

中には「ん」が省略されて

いそではしぇだ（急いで走つた）

よぐおよだりはしぇだり（能く泳いんだり走つたり）

きれるようにとた（切れるやうに研い

又語幹の末尾の音が「あ」列である場合には、次のやうに訛る。

さゐぁだらおごれぁだ（騒いだら叱られた）

べごつねぁでおげ（牛をつないで置け）

まなぐふせぁだりした（眼を塞いだりした）

（ハ）「た」行五段活用では第二活用形が「て」「た」につゞく場合は「勝って」「打って」と促音にいふが、「待って」に於いては、

くるがどまぢでだらこねぁ（來るかと待つてゐたが來ない。）

折角**まぢだ**（折角待つた）

まぢだりまぢだり（待つたり待つたり）

まぢだらくるだろ（待つたら來るだらう）

の如く促音とならぬ。但しこの「ぢ」は「ぢ」ともつかず「づ」にもつかない音である。

（ニ）ら行五段活用では、第二活用形の「り」が落ちて「居つて」「乘つたり」といふやうに音の中止が起るのであるが方言には

すもーぁよぐとた（角力を良くとつた）

かざたらえーべ（飾つたら善いだらう）

くもたりはれだり（曇つたり晴れたり）

じよーずにおどてえだ（上手に踊つてゐた）

とすることが少からずある。

（ホ）わ行五段活用では、第二活用形が「言つて」「願つた」といふやうに促音即ち音の中止を起すべきを

ぺんこかてきた（鉛筆買つて來た）

きさんうーそゆたな（お前うそを言うたね）

かなたらおみぎあげる（叶つたら御神酒を上げよう）

ゆたりわらたり（言つたり笑つたり）

とすることも少くない。

（四）假体言を成す時に普通は動詞の第二活用形を用ひるけれども、方言では第三活用形を用ひる。

木切るにえった（木を切りに行つた）（五段活用）

角力見るにえぐ（角力を見に行く）（上一段活用）

土捨てるにきた（土を捨てに來た）（下一段活用）

勉強するにけぁった（勉強しに歸つた）（さ行變格活用）

但し「**か**」行變格活用に於いては、

まだ來るにこまた（又來るに困つた）

の様に普通の用法をする。これは前の例とは語法上違ひはあれど。

或は「**木切んに**」「**角力見んに**」「**土捨てんに**」「**勉強すんに**」と撥音便として用ひることもあるが、正しく第三活用形を用ひる地方もある云々。

音　便

音便には方言的特色を有するものが多い。

（一）促音便

（イ）五段活用の「ら」行第三活用形が、語頭に「た」行音を有する体言若くは疑問の助詞「か」につゞく時に生ずる。

機織っとごだ（機を織るところだ）

密柑有ったげたべだ（密柑を有るだけ食べた）

走っときつまづだ（走る時つまづいた）

機織っかー（機を織るか）

密柑有っかー（密柑が有るか）

又走っか（又走るか）

（ロ）下一段活用の「ら」行第一活用形が助詞「で」「だ」「だり」「だら」につゞく時に

かぐっだらつかめれ（隠れたらつかまへよ）

忘っでしまた（忘れてしまつた）

家のめぁかくっだ（家の前をかくれた）

めだりかぐったり（見えたり隠れたり）

（ハ）下一段活用の「あ」行第一活用形が、助詞「で」「だ」「だら」「たり」につゞく時に

おべっでえれー（覺えてゐれ）

おめぁの心おべっだ（お前の心が解つた）

おべっだらわすれねゃ（覺えたなら忘れない）

おべっだりわすれだり（覺えたり忘れたり）

(二) 撥音便

(イ)五段活用の「な」行第三活用形に方言の助動詞「べ」がつゞく時撥音便となる。

ぬの織んべ (布を織るだらう)

ぜんが有んべ (錢があるだらう)

ねごこぁ死んべ (猫が死ぬだらう)

「な」行第三活用形は「た」「だ」行音につゞく時も同樣である。

死んだたてやめられねゃ (死ぬとも止められない。)

もちこして死んどごだった (もう少しで死ぬところであつた)

(ロ)上一段活用が「べ」につゞく時、

えま起ぎんべ (今起きるだらう)

十時過ぎんべ (十時過ぎるだらう)

(ハ)下一段活用が「べ」につゞく時、

よぐ覺べんべ (良く覺えるだらう)

くたびれて寢んべ (くたびれて寢るだらう)

(ニ)「か」行變格活用が「べ」につゞく時

あさて來んべ (明後日來るだらう)

(ホ)「さ」行變格活用が「べ」につゞく時、

えまに爲んべ (今に爲るだらう)

(ヘ)「ら」行五段活用の第三活用形と、上下一段及び「か」「さ」變格活用の第三活用形に、助詞「な」「に」がつゞく時、

公園の花とんな (公園の花取るな)(五段)

ざこ取んにえぐ (魚を取るに行く)(五段)

これ見んなよ (之を見るなよ)(上一)

「活動」見んにえた (活動見るに行つた)(上一)

ぴっき負げんな (蛙負るな) (下一)

負げんにえった (負るに行つた) (下一)

たえで來んな (絶えて來るな) (か變)

今來んにさぁ (今來るになあ) (か變)

そんなごどすんな (その樣なことをするな)(さ變)

何爲んに來た (何を爲るに來た)

(ト)すべて用言の受身の第三活用形が助詞「な」「に」につゞく時、

そんたご書かれんねぁ (そんな事は書かれるな) (五段)

自分を書かれんにえつたよだもんだ (自分を書かれるに行つたやうなものだ)(五段)

色々だごど見られんな (色々なことを見られるな)(上一段)(この類はごく少い)

自分な見られんにえつた (自分が見られるに行つた) (上一段)

之ぁ調べられんな (之は調べられるな)(下一段) (此の如きはごく少ない)

僕ぁ調べられんに來た (僕は調べられるに來た) (下一段)

調べられんにえつたらだめだつた (調べられるに行つたらだめであつた)(下一段)

明日彼に來られんな (明日彼に來られるな) (か變) (この如きはごく少ない)

來られんに極つてる (來られるに極つてゐる) (か變)

てぁでばがん爲れんな (絶えて馬鹿にされるな) (さ變)

ばがえされんに來た (馬鹿に爲れるに來た) (さ變)

(チ)すべて動詞に可能の助動詞の第一活用形が接續して、更に助動詞「ない」につゞく時、

中々**書がんねぁ** (なか〳〵書かれない)

（五段）

東京でねぁば見らんねぁ　（東京でなければ見られない）（上一）

自分あ調べらんねぁ　（自分が調べられない）（下一）

明日だば來らんねぁ　（明日なれば來られない）（か變）

それあどうもさんねぁ　（それはどうもされない）（さ變）

（リ）「か」行五段活用の第二活用形に「で」「だ」「だら」「だり」のつゞく時は「い」が「ん」となることがある。

劔研んだらしゅかた　（劔を研いだらひかつた）

船漕んだり水およんだり　（船を漕いだり水を泳いだり）

つた）

この海ぁふけぁ　（此の海は深い）

この川ぁふけぁぐねぁ　（此の川は深くない）

なんぼもつれぁ目にあう　（幾度も辛い目に逢ふ）

めでてぁぐ卒業した　（目出度卒業した）

米の値ぁたげぁば買はねぁ　（米の値が高ければ買はない）

こちゃはえぁげこえ　（こちらへ早く來い）

ようえぁねはぎだしたな　（弱い音を吐き出したな）

右の例の様に、語尾に「ぐ」のつゞく場合には、普通の形容詞の様に副詞的修飾の職分をつとめるし、「ぐ」のつかない場合には、体言と連つて連體形の職分をつとめる。

注意　「ふけぁぐ」は「ふかく」の「か」が「けぁ」となり「はえぁく」は「はやく」の「や」が「えぁ」となつたものである。

（ロ）「う」列の音に「い」のついたものゝ中でその

（ヌ）「い」音便

五段活用の中「ば」行の第二活用形に「で」「だ」「だら」「だり」のつゞく時には「い」音便となる。

鳶ぁといだ　（鳶が飛び（ん）だ）

凧ぁといでおもしれ　（凧が飛び（ん）でおもしろい）

第六章　形容詞

（一）形容詞は、大概次の様な語法をなしてゐる。

（イ）「あい」の「えぁ」となるもの

げぁんげぁたげぁ山だ　（非常に高い山だ）

うんとふけぁぐ掘れ　（大いに深く掘れ）

「まんつあげぁ着物だごど　（まあ赤い着物だ）

くせぁかしてこまた　（臭い香がして困つた）

あぶねぁぐ死ぬどごだった　（危く死ぬ所であ

「い」が省略されることが多い。

あづ（あつ）湯だごど　（熱い湯であること）

この墨ぁげぁんげぁうす　（此の墨は非常に薄い）

これぁやす筆だ　（これは安い筆だ）

ずんじょ秋田ぁさみだろー　（必ず秋田は寒いだらう）

又「う」列の音に「い」のついたものゝ中に次の様に語尾の縮約されることがある。但しこれも母音の無聲化と見られないでもない

これぁしゅぎ机だ　（これは低い机だ）

おばこぁみにぎつらだ　（おばこはみにくい面だ）

あのじぎぁわりがた　（彼の時悪いかつた）

この机ぁしゅぎ（しゅぐぇ）　（此の机は低い）

中々さび日だ　（中々寒い日だ）

そして「しゅぎぐ」「さびく」のやうに言ふ場合には、前例に同じく用ひられる。但し「か

ゆい」(痒)は「**けぁ**」と云ふが「**ぐ**」のつく時
「**けぁぐ**」も同樣である。

(ハ)母音の「**おい**」が縮約されて「**え**」となるもの
しれくれもわがらねぁ(白い黑いも解らない)
けぁずはふてもんだ(此奴は太いものだ)
ほんとにつえ人でえー(本當に强い人で善い)
そして「**くれぐ**」「**ふてぐ**」なども、前例に同じく用ひられる。但し「とほい」(遠)だけは「**とぎ**」とも「**とえ**」とも言ふ。
ずいぶんとぎどごだ(隨分遠い所だ)
とえどごさなんしにえた(遠いところに何故に行つた)

(ニ)活用形に第四活用形が缺けてゐる。
例へば、
「**さびぐ**」「**さび**」があるが「**さびけれ**」がない。されど助詞の「ば」「ども」につゞけられる時は次の樣な言いあらはしかたをする。
やすば買う(安ければ買ふ)
たげぁばやめる(高ければやめよう)
あだらしばえなー(新らしければよいな)
うすどもじょーぶだ(薄けれども、丈夫だ)
しれどもえぐねぁ(白いけれども善くない)
又「ければ」「けれども」の場合、語根と語尾との間に「**え**」を挿入して、
ふるえければ(ども)買う(古ければ—ども—買ふ)
おもしろえければ(ども)えがない(面白ければ—ども—行かない)
のやうに打消の時など、第三活用(終止形)に「けれども」を接續したものと同型となるが故に、意味に於ても混合を來すことがある。

(ホ)助動詞の「**ねぁ**」「**ねぁがた**」を接續する

場合には、「**ぐ**」のつく形からする。
おもしれぐねぁー(面白くない)
ふけぁぐねぁがた(深くなかつた)

(ヘ)名詞のやうに用ひる時も「**ぐ**」のつく形からする。
おしぇぐまではたれぁだ(遲くまで働いた)
はえゃぐがら來てえだ(早くから來て居た)

(ト)第三活用形(終止形)の職分をなす場合、
このかわぁふけぇ(此の川は深い)
きょぉうれし(今日は嬉しい)
となる。

(チ)助動詞の「**べ**」(推量)をつゞける場合も第三活用形からする。
うんときたねぁべ(非常にきたなからう)
今だらまだあだらしべ(今なら未だ新らしいだらう)

(リ)助詞「て」につゞける第二活用形(連用形)の語尾は、「**ふ**」に轉訛することがある。
つよふてあわねぁ(强くてかなはない)
ふけゃふてふーぇぁられねぁ(深くてはいられない)
うれしふてたまらねぁ(嬉しくて堪へられない)
まづしふてこまた(貧しくて困つた)
中には第三活用形(終止形/連体形)に轉じて更に、「**し**」を添へて用いることもある。
ふけぁしてふーぇぁられねぁ(深くてはいられない)
つうぇしてあわねぁ(强くてかなはない)
あたらしぇしてえー(新らしくて善い)

(二)形容動詞
(イ)第二活用形(連用形)の語尾「**ぐ**」(「**なげぁぐ**」「**うれしぐ**」)と動詞の「**あり**」と融合して出來たと見られるものは、「**がら**」「**がっ**」の二つがある。

さびがらきものきれー　（寒ければ着物を着よ）

「**がらば**」と「**ば**」をつけて言ふこともある。

おがしがらわらえー　（をかしければ笑へ）

「**ば**」をつけることもある。

又この「**がら**」は用ひ方によつて「から」（故に）の意味にもなることがある。ごく稀れに「**がら**」の「**ら**」をながめて、

ずーぶんなげーぁがろー　（隨分長からう）

そーとーおがしーがろー　（相當をかしからう）

「**がつ**」は「**たり**」「**た**」「**たら**」をつゞける時の語尾となる。

あしぇぁがたらふぇぁれ　（淺からばはひれ）

ほんとにおかしがっ　た　（ほんたうにをかしかつた）

さびがたりのぎがたり　（寒かつたり暖かつたり）

（**ロ**）第三活用形（連体形）の「な」は終止形の「だ」に轉じて連体形の職分をなす。

ずーぶんおぎだ犬**だな**　（隨分大きな犬だ）

よっぽどにぎゃがだ町**だ**　（餘ほど賑やかな町だ）

（**ハ**）第四活用形（假定形）の「なら」「なれ」は「**だら**」「**だれ**」と轉じ、更に助詞「**ば**」をつけると「**だんば**」「**だば**」と訛る。

やんだらやんだといぅーぇ（**ゆえー**）　（否やなら否と言へ）

静**かだればえーな**　（靜かなれば善いな）

ばがだばなおかわぇ　（馬鹿だつたら何かはゆい）

波ぁ靜**がだんば**船**だす**　（波が靜かなら船を出さう）

（三）指示形容詞

「こんなもの」「そんな本」「あんな机」「どんな米」などの「な」を「**た**」又は「**だ**」と轉訛する。

こんた物**なんーだ**　（こんなものなんだ）

そんだ花見**だーぐねぁ**　（そんな花見たくない）

あんた机**こだめだ**　（あんな机だめだ）

どんだ（どだ）つらだ　（どんな面だ）

時に「**どんだ**」を「**なんた**」と言ふこともある。

あの嫁ぁ**なんたつらだ**　（あの嫁はどんな面だ）

なんた本見**でだ**　（どんな本を見てゐた）

又物事を指示して罵る場合には、次の様な言葉を用ひることがある。

けぁずぎだ（けぁつげぁた）もの見**だーぐねぁ**　（之なくだらないもの見たくない）

せぁずぎだ（せぁずきた）事**なんでもねぁ**　【そんなくだらない事は何んでもない）

えぁずぎだ（えぁずきた）ものばがくしぇぁ　（あんなくだらないものは馬鹿臭い）

又意味は右と同じだが、次の言葉を用ひることもある。

こんつくたもの＝こつくたもの

そんつくたもの＝そつくたもの

あんつくたもの＝あつくたもの

第七章　助　動　詞

（一）受身の助動詞

第六活用形（命令形）が普通の用法と違つてゐる。即ち五段活用形の動詞には「**れ**ぇ」がつく。

山**さえって**瀧**にうだれぇー**　（山に行つて瀧に打たれよ）

五段活用以外の動詞では「**られぃ**」がつく。

人に上品に見られぃ（人に上品に見られろ）

悪人に捨てられぃ（悪人には捨てられよ）

こでぁて嘲弄せら（さ）れぃ　忍んで嘲弄せられろ）

（二）可能の助動詞

動詞の第一活用形に「れる」「られる」が接續するのであるが、打消の助動詞「ない」の方言たる「**ねぁ**」が更に接續する時は、種々の方言的特色を表はすのである。

字**かゞれねぁ**（**かゞんねぁ**）（字を書かれない）

袷も着られねぁ（**着らんねぁ**）（袷も着られない）

車にも乗せられねぁ（**乗せらんねぁ**）（車にも乗せられない）

なんとしても來られねぁ（來らんねぁ）（どうしても來られない）

とても見はりされねぁ（**さんねぁ**）（とても見張りをされない）

肯定の時には、「だ」を用いて普通の用法の終止形とほゞ同一の型をとる。

字ぁ**よく書げだ**（字がよく書かれた）

あすぁほんとに早ぐ起ぎれだ（明日は本當に早く起きられる）

三人位ぁ**車に乗せれだ**（三人位は車に乗せられる）

えぎぁ（ゆぎぁ）降っても來えだ（雪が降っても來られる）

やがましぐても安眠せだ（やかましくとも安眠される）

又「…**にえ**」と言ふ言葉を、第三活用形（終止形）に接續して用ひることもある。

字ぁ**よく書ぐにえ**（字をよく書かれる）

車に乗せるにえ（車に乗せられる）

えぎぁ（ゆぎぁ）降っても來るにえ（雪が降っても來られる）

まめになって安眠するにえ（健康になつたら安眠される）

なんぼも早ぐ起ぎるにえ（幾らも早く起きられる）

「**げぁ**」といふ疑問の助詞が五段活用動詞に「れる」がつき下一段活用の動詞となる時、その第三活用形（終止形）に接續する際には

あの人と逢えるげぁ（彼の人と逢ひ得るか）

この本讀めるげぁ（此の本を讀み得るか）

と言ひ、「**ねぁ**」が五段活用の第四活用形に接續する時には、不可能の意を表出することがある。

あの人と逢えねぁ（彼の人と逢ひ得ない）

とても死ねぃぁ（とても死に得ない）

このこぁ立でねぁ（此の子が立ち得ない）

（三）使役の助動詞

「**せる**」を用ひる。「五段」と「**さ變**」とに接續する時には普通の用法に等しい。

きっと東京にえがせる（きつと東京に行かせる）

きっと勉強させる（きつと勉強させる）

この時の「**せ**」はほとんど「**へ**」に近い發音であることは注意を要する。併し一般に正しい「**せ**」の發音はない。多くは「**へ**」か「**しぇ**」に近い音である。

（**さ**變の第一活用形には「**さ**」を用ひる）

上下一段「さ」變「か」變活用の助動詞としての使役相は、「させる」を「**らせる**」に訛らせる。

わがぜを早ぐ起ぎらせる（若勢を早く起きさせる）

おばこを車に乗せらせる　(末娘を車に乗せさせる)

次郎にまるこもて來らせる　(次郎に毬をもつて來させる)

命令形は、「せれ」「らせれ」である。

本を讀ませれ　(本を讀ませ(よ/ろ))

ころんだから起ぎらせれ　(ころんだから起きさせ(よ/ろ))

(四)希望の助動詞

「でぁ」又は「てぁ」である。動詞及び助動詞の第二活用形(連用形)に接續する。

早ぐ行ぎでぁ　(早く行きたい)

よぐ飾ってぁ　(善く飾りたい)

山がら下りでぁ　(山から下りたい)

本を覺えでぁ　(本を覺えたい)

すぐに來てぁ　(直に來たい)

卒業してぁ　(卒業したい)

「てぁ」は必ず促音の下に接續する。

(五)推量の助動詞

「だらう」の代りに次の樣な言葉を用ひる。

きっと來るべ　(きつと來るだらう)

おれぁえがれねぁべもの　(私は行かれないだらう)(もののつく時は「だらうさ」位の感情がくはゝる)

この「べもの」の種類に「べおの」「べおん」「べおな」「べせぁ」「ごでぁ」などがある。

又或地方では「だんでろ」「だでぁろ」又「でろ」を用ひる。

あれも今度は合格するでぁろ(でろ)　(あれも今度は合格するだらう)

普通語の「らしい」は「らしぐ」「らし」の二つで

上品らしぐかめぁでる　(上品らしく構へてゐる)

あれも大分金をためだらし　(あれも大分金を溜めたらしい)

この「らしい」の代りに「やうだ」の約轉であると見られる、「えんた」「えんだ」を用ひることがある

えぎぁふるえんた(えんだ)　(雪が降るらしい)

又「といふことだ」といふ形勢を推量する意味の言葉に、「でごた」「でお」「でおな」がある。

但し、單に或物事を傳達する意味にのみ用ひられる地方もある。

おんちゃ來るでごった　(弟も來るといふことだ)

あにゃも來るでお　(兄も來るといふことだ)

あねちゃも來るでおな　(姉御も來るといふことだ)

(六)打消の助動詞

「ない」は「ねぁ」に訛つている。その活用形は「ねぁぐ」「ねぁ」である。

そんだものけねぁぐてもえ　(そんなものくれなくともよい)

ながながつかめぁられねぁ　(中々捕へられない)

よぐきがねぁば解らねぁ　(善く聞かないと(又はなければ)解らない)

推量して打消すに用ひる。「まい」は「めぁ」と發音する。動詞の第三活用形(終止形)に接續するやうである。

まさが死ぬめぁ　(まさか死ぬまい)

こんなごどに懲れるめぁ　(これ位のことに懲りるまい)

そんたに隔でるめぁ　(そんなに隔てまい)

にどゝ來るめぁ　(二度と來るまい)

ばがだごじするめーぁ (馬鹿なこと爲るまい)

但し地方によつては「**さ**」變の第二活用形につゞけて、

勉強しめぁもの (勉强しまいもの)

などゝもいひ、又「**か**」變は第三活用形の「る」を省略して、

まだくめぁもの (未だ來まいもの)

などゝいふ。

(七)過去の助動詞

「た」「だ」であるが、これに「ば」「ども」を接續して。「…たれば」「…」たれども」の意味を表はすに異なる所がある。

けぁつたば日ぁくれだ
けぁつたんば日ぁくれだ
た (歸つたれば日がくれた)

あんまり遲ぐ起ぎだば心もずぁわり (餘り遲く起きたれば心もちがわるい)

あんまり遲ぐ起ぎだんば…(同上意)

いろいろあったども買わねぁで來た (色々あつたけれども買はないで來た)

あめぁやめだば(だんば)きもずぁえー (雨がやんだれば氣持が良い)

えぎぁけだどもまださびー (雪が消えたれども未だ寒い)

右の外に「**てぁった**」「**でぁこた**」(又は「**つ**」を省く)といふ言葉がある。「**た**」「**だ**」よりは時日の過ぎ去り方の多い意味か、强く指定する意味かを表はすに用ひられる。

ちょねーんも公園さえってぁったた (去年も公園に行つた)

あの活動ぁちょねーんも見でぁったた (見でぁた) (あの活動は去年も見た)

きのーの會さ高橋ぁ來てぁったが (來てぁたが)

(昨日の會に高橋は來たか)

敵の球ぁうめぁぐ受げでぁったな (受げでぁたな)

(敵の球をうまく受けたな)

又「…**て**(**で**)**あつた**」の場合の轉訛は、多く次のやうである。

きんな來てぁったた (來てぁた、來たゝ) (昨日來た)

書物讀んでぁったた (讀んでぁた、讀んだゝ)

(書物を讀んだ)

(八)敬讓の助動詞

「れる」「られる」「お…申す」「お…になる」「なさる」「ます」などの普通の敬讓的助動詞は用ひられないで次のやうな敬語がある。

(イ)**す**、普通語の「ます」に似てゐるが、活用はない。唯時に「**すぁ**」となり、更に「**さ**」と約轉されることは、婦女子の言葉に多く聞く所である。

無論この發音は、「**す**」にも「し」にもあらざる、その中間の音に聞える。動詞と動詞的活用の助動詞の第二(連用形)第三(終止形 連体形)活用形に接續する

おれもいっしよにえぐす (えぎす、えぐんす) (私も一所に行きます)

おめぁもはやぐおぎるすかー (おぎすかー、おぎるんすかー) (お前も早く起きますか)

よぐおべるすべせーぁ (おべんすべせーぁ、おべすべせーぁ) (よく覺えませう)

ぜしゅとも來るすべせーぁ (くすべせーぁ、くるんすべせーぁ) (是非とも來ませう)

「**す**」の活用とも見るべきか、或地方では、「**おれも行ぎんす**」を「**行ぎんさねぁ**」「**行ぎんした**」「**行ぎんす**」「**行ぎぁんせ**」「**行ぎぁんそー**」と五段活用の形をなすものある。但し第四活用形は命令の意味のみに用ひる。

わりごどするすな（しすな、するんすな）（わるい事しますな）

おれも會にえげるすか（えげんすか、えげすか）（私も會に行けますか）

おめぁも活動見だすか（見だんすか、見すたか）（お前も活動を見ましたか）

（ロ）がす、「ございます」程度の言葉で、形容詞及び形容詞的活用の助動詞の第二活用形（連用形）に接續する。

このかみぁあげぁがす（此の紙は赤うございます）

おめぁもうれしがすべ（お前もうれしうございませう）

あしたえぐにえがすか（明日行くにようございますか）

おれだばえがねぁがす（私なれば行きません、「えがんねぁがす」の時は「行けません」）

「がす」の代りに、「す」を用いることもある。

（ハ）「だす」「でぁす」「であんす」「でぁりんす」「でおんざる」「なだす」「なでぁす」「なでぁんす」は「です」「のです」に當る。先づ「だす」「であす」「であんす」「でありんす」「でおんざる」は體言とある種類の助詞に接續する。

やすみぁ七日までだす　「でぁす、であんす、でありんす、でおんざる）（休は七日までです）

こゞは十日町だす（同上）（此處は十日町です）

尚「であんす」は用言の第三活用形（終止連体形）にも接續することがある。

この品ぁあたらしであんす（此の品は新らしいです）

ねだんは高ぐねぁであんす（値段は高くないです）

あれによぐ聞かせるであんす（あれによく聞かせるのです）

次に「なだす」「なでぁす」「なであんす」は用言の第三活用形（終止連体形）に接續する。

これぁいまなげるなだす（なでぁす、なでぁんす）（之は今投げるのです）

おれぁえたほぁえなだす（同上）（私は行た方善いがのです）

この机ぁだれでも使わせるなだす（同上）（此の机は誰にでも使はせるのです）

此の方は、前の「だす」等に較べて語意も違ふが、或地方では叮嚀な言ひ方として用ひることもある、又、助詞「か」「べ」「を」も接續させる。

あれは田口さんであんすか（彼は田口さんですか）

みんなに笑われるなでぁんすべ（皆に笑はれるのでせう）

（ニ）「たんえ」「たんしぇ」「たもれ」「けれ」は動詞又は、動詞的活用の助動詞に、「て」「で」を接續したものにつゞけるので、希望の意味をもつてゐる。

よぐ聞えでたんえ（たんしぇ、たもれ、けれ）（よく聞いて下さい）

ちこし笑わせでたんえ（同上）（少し笑はせて下さい）

てねに寫してたんえ（同上）（叮嚀に寫して下さい）

この「たんえ」「たもれ」は「くれ」（吳れ）から轉

じたもので、一層叮嚀な言ひ方をなしたものと思はれる。それゆえ、「下さい」にも通じ、人からものをもらふ時などにも使はれるのであらう。

その筆こたんえー（**たもれ、けれ、**）（その筆を下さい）

（**ホ**）「**やる**」は「なさる」の意味を有するが、接續する上の動詞を融合して、五段活用と等しい活用をなす。

早ぐ起ぎゃらんであぎれた（早く起きなさらないであきれた）

早ぐ起ぎゃつ(り)た（早く起きなさつた）

早ぐ起ぎゃる（早く起きなさる）

早ぐ起ぎゃればえーな（早く起きなさればよいな）「起ぎゃえ」とも言う。これは「れ」の父音の脱落したものとも思われる）

早ぐ起ぎゃれ（起ぎゃえ）（早く起きなさい命令）

あしたから早ぐ起ぎゃろー（明日から早く起きなさるだらう—推量、未來）

（**ヘ**）「**みしゃる**」は「召さる」の轉と思はれるが、他人の動作を敬ひ表はすに用ひられる。動詞の第二活用形（連用形）と接續する。

まだ讀みゝしゃらねぁがすべー（未だ讀みなさらないでせう）

二階から下りみしゃった（屋根から下りなさつた）

よぐ勤めみしゃる方でぁーんすな（能く勤めなさる方ですな）

早ぐ來みしゃればえがんすが（早く來なされば良いですが）

熱心に**しみしゃれ**（**みしゃえ**）、「**れ**」が「**え**」となること「**やる**」に等しい）（熱心に爲なさい—命令）

熱心に**しみしゃろー**（熱心に爲るでせう—推量、未來）

尙「**みしゃらねぁ**」は、「**ら**」を省略して「**みしゃねぁ**」となし、「**みしゃる**」は「**す**」にもつゞいて、「**みしゃすー**」となすこともある。

（**ト**）「**しゃあ**」「**とれぁ**」は命令希望等の意味を有する動詞の第二活用形（連用形）に多くは接續する。

庖丁を研ぎ(げ)しゃあ（研ぎとれぁ）（庖丁を研ぎなさい）

早ぐ起ぎ(れ)しゃあ（起ぎどれぁ）（早く起きなさい）

よぐ中で(れ)しゃあ（中でとれぁ）（能くあてなさい）

ばんげき(け)しぁあ（きとれぁ）（晩に來なさい）

しごどし(せ)しゃあ（**しとれぁ**）（仕事を爲なさい）

「**しゃあ**」の場合はやゝ敬讓の意味を含めてゐる。

（九）指定の助動詞

（**イ**）「**だら**」「**でやっ**」「**だ**」は「**だ**」の三活用と見るべきである。大體動詞の第二活用形（連用形）と體言及び或種の助詞に接續すると見てよい。

書えだらよぐできべー（書いたらよく出來よう）

きのー見たなゝそれであった（昨日見たのはそれであつた）

こればかしだどもできねぁ（これぱかりだけれど出來ない）

この本一圓だら賣ら（此の本一圓なら賣ら

う）

よぐ見だら三助でぁった　（能く見たなら三助であつた）

これだげだどもなんぎした　（これだけだけれども難儀した）

（ロ）「**なだら**」「**なでぁ**」「**なだ**」は、「のだ」の轉訛で「**なだ**」の三活用と見る。多く用言の第三活用形（連體形）に接續する。

死ぬなだらしかだねーぁべ　（死ぬのなら仕方がないだらう）

あすくるなでぁたどもきよーきた　（明日來るのであつたけれども今日來た）

それでえーなだ　（それでよいのだ）

なんども起ぎで見でぁなだべ　（何度でも起きて見たいのだらう）

（九）比況の助動詞

（イ）「**えんだ**」は、「やうだ」の訛りであらう。活用は「**えんだら**」「**えんでぁっ**」「**えんだ**」と三段である。

用言の第三活用形（終止連體形）に接續する。

つかうえんだら本やら　（使ふやうだら本をやらう）

まるで人くーえんでぁった　（全く人を食ふやうであつた）

水の流れるえんだ　（水の流れるやうだ）

あまりうすえんだな　（あまりうすいやうだな）

あだらしえんだ紙だ　（新らしいやうな紙だ）

ふけぁぐねぁえんだ川だな　（深くないやうな川だな）

（ロ）「**みでぁんだ**」は「見たやうだ」の融合して出來たのだらう。活用は（**イ**）と同じく三段である。

普通語では「のやうだ」となる。體言に接續する。

猿みでぁんだ人だ　（猿のやうだ人だ）

花みでぁんだらきれだべ　（花のやうだならきれいだらう）

おばこぁ花みでぁんでぁった　（末娘は花のやうであつた）

第八章　副　詞

副詞は、言語上の特徴を最も地方的に表現されたものと見てよいが、その中多いのは擬聲的又は擬態的の疊語である。當地方々言の語法上の特色は、普通に助詞「と」を添へない場合にも、之を添へるし、その「と」が更に「て」に轉訛して用ひられるにある。

まることーん〳〵とつぐ　（毬をとん〳〵つく）

かねぁかーん〳〵となる　（かねがかん〳〵鳴る）

よちゃ〳〵とあるぐ　（よちゃ〳〵歩く）

栗ーうんてしゅるった　（栗をたくさん拾つた）

猫にゃん〳〵てねぁだ　（猫がにやん〳〵とないた）

よたぷらてあるてだ　（よたぷらと歩いてゐた）

「**と**」は「**ど**」に濁ることもある。

どーどとえってしまた　（さつさと行つてしまつた）

やぐどそいった　（わざとさう言つた）

第九章　接　續　詞

日常つかはれるものは割合に少い。

境さえって、それから和田さ來た　（境に行つてそれから和田に來た）

干柿のすんだしーたんばおごれぁだ　（干柿盜

んださうしたら叱られた）

山のだけ言われだ、しだゝてしょじされねぁ（山ほど言はれた、さうだつて承知されない）

第十章　助　詞

助詞には轉訛が頗る多い。そして他の品詞の正訛に拘はらず相當接續するによつて、その品詞の正訛に拘はらず或は縮約され、或は添加され、或は脫落されて方言的特色を濃厚にするが、その分類の仕方も種々あるだらうけれども、大體國語調査會編纂の「口語法」に從つて記さう。

第一類　體言、用言又は他の助詞に附くもの。

（イ）か　かい　問や疑の意味の時は、「が」「げぁ」又は「けぁ」を用いる。

今呼んだなおめぁがー（げー今呼んだのはお前か）

それでえがー（それでいゝか）

だれも知らねぁがー（げぁー）（誰も知りませんか）

演習ぁえずがらがー（げぁー）（演習は何時からか）

用言につく時は、その第三活用形（終止連體形）からするのが、普通だが、上下一段活用の動詞助動詞には、第二活用形（連用形）にもつゞくことがある。

おめぁもあれさ似かー（げぁー）（お前も彼に似るか）（にますか）

あれを求めかー（けぁー）（彼品を求めるか）

まだ打だれかー（けぁー）（又打たれるか）

もうかえっけぁー（かー）（もうかへるのか）

用ひ方によつては反語にもなる。

だまつてえられるがー（げぁー）（だまつて居られようか）

「げぁ」「けゃ」の方は敬ひ又は親しみの意味をもつてゐる。

この「が」に「も」を加へて、「がも」として不定の意味を表はすことがある。

一圓ぐれぁだがもしれねぁ（一圓位かも知れない）

「げぁ」を「て」に續けさせて「てげぁ」をも用いる。「のですか」と略々同じい意味である。

ほんとにそーだてげぁー（ほんたうにさうですか）

もうえぐてげぁー（もう行くんですか）

（ロ）が　主語の下につくのだが多くの場合には之を省略する。「か°」の音である。

風吹ぐ（風が吹く）

この二つ、まじがてる（この二つがまちがつてゐる）

水のみでぁー（水が飲みたい）

この「か°」の父音が脫落して「あ」となつて接續することも亦多い。

花ぁさぐ（花が咲く）

「か」が、はねる音の下に接續する場合には「な」に轉訛する。

あれぁ運なわり男だ（彼は運がわるい男だ）

こゞに本なあるなあ（此處に本があるなあ）

こゝに金な三匁ある（こゝに金が三匁ある）

この紋な五三の桐だ（此の紋が五三の桐だ）

（ハ）から、　動作の起因又は範圍を示す場合のは「がら」である。

朝がら晩まではだらぐ（朝から晩まで働く）

おれがら始めろー（己から始めよう）

から又は「はんて」「えんて」の二語もあつて「ので」の意味も併有する。

達者だはんて（えんて）安心せ（達者だか

ら安心せよ）
寒びえんて（はんて）綿入きれ　（寒いから綿入を着よ）

（ニ）くらゐ、ぐらゐ、比較しながら程度をおほよそあらはすので、「**くれぁ**」と訛る。
みっつぐれぁのごればえ　（三つぐらゐのこればいゝ）
あれっくれぁ言ってだゝに　（あれぐらゐ言つてゐたのに）
ちとばこいでぁぐれぁがまんせ　（ちとばかり痛いぐらゐがまんしろ）
このぐれぁ（くれぁ）の厚さだ　（このぐらゐの厚さだ）

（ホ）こそ　意味をつよめて言ふのには「**ごそ**」「**ごす**」「**ごすか**」と轉ずる
それごそ大變だ　（それこそ大變だ）

雨ごすか降らねぁどもやだ天氣だ　（雨こそ降らないけれどもいやな天氣だ）
それでごす本當の男だ　（それでこそ本當の男だ）

（ヘ）さ　輕く言ひはなす意味の場合には、「**せぁ**」「**えす**」「**えぁ**」となる。
それわどーでもえせぁ　（それはどうでもいゝさ）
そのまゝにしておぐ（おぐぁ）えす　（そのまゝにしておくさ）（主に婦女の語）
おれだて讀めるってえぁ　（己だつて讀めるってさ）

（ト）さへ
(1)一事物を擧げて他を推量させるのは、「**せぁ**」となる。
水せぁのどさとらねぁ　（水さへ喉に通らない）

死ぬとせぁも思つた　（死ぬとさへ思つた）
(2)「だけ」の意味に用いるもの。
筆せぁもあればけぁでやる　（筆さへもあれば書いてやらう）

（チ）しか、限る意味の時は、「**しきぁ**」「**はんて**」となる。
あやまるしきゃ（はんて）しかだねぁ　（謝るしかしかたない）
やすほぁ五つしきぁ（はんて）ねぁ　（安い方は五つしかない）
これんばりしきゃ（はんて）ねぁ　（之ばかりしかない）

（リ）と　並立にも指定にも用る場合、多くは「**ど**」「**って**」「**とな**」となる。
君ど僕ど二人でえぐ　（君と僕と二人で行く）
知らねぁなどゝ言わせねぁ　（知らないなどゝ言はせない）

あさってもくるって言った　（明後日も來ると言つた）
學生もえぐとな　（學生も行くとさ）
上濱って村ぁ漁村だ　（上濱と言ふ村は漁村だ）

（ヌ）どころ、どこ、物事を擧示して、それよりも強い事情のものがあるとの場合に用ひる。
「**こ**」が「**ご**」になる。
わろーどごろ（どご）の騒ぎでねぁ　（笑ふどころ（どこ）の騒ぎでない）

（ル）なら、條件を表はすに用ひる時、「**だら**」となる。場合によつて「**だごったら**」を使ふ。
さげだらなんぼものまぁ　（酒なら何程も飲まう）
これがらだごったらおそぐねぁ　（これから

ならおそくない）

又「**んだんば**」「**んだら**」「**えんだら**」をも用ひる。

おめぁにんだんば（**んだら**）勝**だれねぁ**（お前になら勝たれない）

このぐれぁんだら（**んだんば**）**だれもできる**（この位なら誰でも出來よう）

とるにえーんだら（**んだら**）取**てけー**（取るにいゝなら取って來い）

（**ヲ**）なり、「そのまゝ」「でも」の意味に用ひるが前者は「**まずら**」「**がらみ**」「**なりぎ**」を使ふし、後者はまれに用ひる。

皮まずら食ってしまた（皮なり食ってしまった）

骨がらみのんでやった（骨なり呑んでやった）

人ぁ**ゆーなりぎになてる**（人が言ふなりになつてゐる）

（**ワ**）に、所を指示する意味や相手動作等をいふ言葉につく。「**さ**」が多く用いられる。

學校さふぇる（學校にはひろ）

國さけぁる（國にかへる）

相手が人又は動物なる時は、「**どさ**」を用いる。

仁助**どさ**知**らせれー**（仁助に知らせろ）

猫ぁ**どーさくわせる**（猫に食はせる）

語尾に「**ち**」のつく言葉に「**さ**」が接續する時には、「**ちゃ**」となる。

輕**いかごこぁあっちゃ**（**さ**）**えげ**（かるい籠はあちらへ行け）

犬ぁ**どちゃ**（**さ**）**えた**（犬はどっちに行った）

まっちゃ（**さ**）**えてくる**（町に行て來る）

更に轉じたのであらう、

おれぁちゃ（**さ**）**もてこい**（己の方にもて來い）

（**カ**）の　物事をならべて言ふ時に、「**でぁの**」を用いる。

五十**でぁの**百**でぁのどそんだにねーぁ**（五十の百のとそんなにない）

（**ヨ**）ばかり　物事を限って言ふ時には、「**ばり**」「**ばし**」を用ひる。

氣ぁ**つよいばり**（**ばし**）**でなーんにもできねぁ**（氣がつよいばかりで何も出來ない）

尚「**ばこ**」「**ばっこ**」「**ばんこ**」も用ひられるが、「**ばりこ**」の音便は「**ばっこ**」「**ばんこ**」で省略は「**ばこ**」か。

一人**ばこ**（**ばっこ、ばんこ**）**でぁなーにもならねぁ**（一人ばかりでは何もならない）

そのほか「**んばり**」「**んばし**」「**んばこ**」があるが、「ばかり」の轉訛であらう。

見**だんばり**（**んばし、んばこ**）**で、もらわねぁ**

（見だばかりでもらはない）

一升**んばんこ**（**んばり、んばし**）**なんでもねぁ**（一升ばかり何んでもない）

（**タ**）ほか　ある物事を擧げて、そのほかのものをとりのける意味のは、「**おが**」「**おっか**」「**よが**」「**よっか**」を用ひる。

この店**にぁ**古**れものおが**（**おっか、よが、よっか**）**ねぁ**（此の店には古いものほかない）

（**レ**）ほど　程度の大概を示したり、事柄をくらべたりする時には、「**ほんど**」とんを入れる。

山**ほんど**積**んである、**（山ほど積んである）

聞**げば**聞**ぐほんどお**氣**の**毒**だ**（聞けば聞くほどお氣の毒だ）

（**ソ**）まで　事情の至り及ぶことや、限定や、程度を表はす時は「**まんで**」を用ひる。

追**い**出**されるまんで**動**がねぁ**（追ひ出される

まで動かない）

なんぼまんでまげるげぁ「（何程までまけますか）

死のーとまんで思てぁった（死ならとまで思ってあった）

（**ツ**）ツやら　並べたり疑を表はしたりする時に、「**でぁら**」を用ひる。「だやら」の縮轉であらう。

十人でぁら二十人でぁらあづばてる（十人やら二十人やら集まって居る）

犬でぁら狼でぁらわがらねぁ（犬やら狼やらわからない）

「だやら」「だが」は常に結合して「やら」の意味に用ひられる。

これが「**んだやら**」「**んだが**」と訛って使はれる。

（梅）**んだやら**（桃）**んだやらみんなせぁだ**（梅やら桃やら皆咲いた）

（白）**んだが**（黒）**んだがてんでぁわがらねぁ**（白やら黒やら全然わからない）

（**ネ**）より　比較や限定を示すものに、「**おが**」「**よが**」「**おっか**」「**よっか**」を用ひる。「よりか」の轉訛であらう。「より」に「か」「は」の附いたものは「**よりぁ**」と縮轉する。同じく「かも」の附いたものは、そのまゝに添へて言ふ。

おれおが（よが、よっか、おっか、よっかも）よぐあれぁ出來る（己より能く彼は出來る）

けぁより（おっかも、よっかも）いでぁ（かゆいより｛は、か、かも、も、｝痛い）

卵**よが（おが、よっか、おっか）**今日**わねぁ**（卵より（ほか、しか）今日はない）

（**ナ**）は、（**わ**）とり立てゝ物事を言ふ時に、父音の脱落して母音が上の音と融合すること「**か**」に等しい。

みぎぁ海でひだりぁ山だ（右は海で左は山だ）

（**ラ**）でも　物事を大概に示す意味の時は、普通の用法であるが、動詞の第三活用形に接續して次のやうに言ふ。

値段引ぐでもしたら買わ（値段を引きでもしたら買はう）

（**ム**）ながら「そのまゝ」の意味を表はす時には、ヲの「なり」に等しい。

なげぁまずらきねぁ（長いながら切らない）

（**ウ**）など　物事の大概と、その類になるものを含めてとの言ひ表はし方には、「**んだの**」を用ひる。

こゞんだのぜぁごどしゅとずだ（此處など田舎と同じだ）

見だり聞えたりんだのした（見たり聞いたりなどした）

第二類　用言だけに附くもの

（**イ**）が　上下の接續假定の條件の意味を言ひあらはす時に、「**ども**」「**んども**」を用ひる。

山ぁ**たげぁども（んども）**樹ぁ一本**もねぁ**（山は高いが樹は一本もない）

そごもゆでぁども（んども）こゞもゆでぁ（そこも痛いがこゝも痛い）

きみぁゆーども（んども）きがれねぁ（君が言ふが聽かれない）

（**ロ**）から　上の語句の意味を受けて下に接續する意味の時には、「**がら**」と訛る。

勉強**するがら**學問ぁ**すゝむ**（勉強するから學問はすゝむ）

「からに」の「ら」を省略して「て」に接續する**時**に、「**がに**」となる。

多人類集っ**てがに話すべ**（多人數集つて

からに話さう)

これぁてぎでがに休もー　(これが出來てからに休まう)

(ハ)けれども　上の語句の反對の意味を表はす時に、「**ども**」「**んども**」を用ひる。

苦しども(んども)やって見だ　(苦しいけれどもやつて見た)

氣分ぁわりども(んども)えぐ　(氣分わるけれども行く)

(ニ)ぜ　ぞ　意味を强める場合に、「**ど**」「**でぁ**」「**てぁ**」を用ひる。

こゞにも澤山あるど(でぁ)　(此處にも澤山あるぞ(ぜ))

こゞから投げってぁ　(此處から投げるぜ(ぞ))

(ホ)そー　推量の意味を表はす時、「**そ**」と短くすることが多い。

みんな馬に引がせるそ|だ　(皆馬に引かせるさうだ)

(ヘ)と　條件を表はす時や、事柄の落ちあふ意味を言ふ場合に、ごくまれに「**ど**」又は「**どゝ**」「**でど**」「**づど**」を使ふ。

目ぁめねぁど不自由だ　(目が見えないと不自由だ)

内さふぇぁるど人ぁよぶに來た　(内にはひると人は呼びに來た)

(ト)とも　假定條件を言ふ時には、「**ても**」を用ひる。

どごさえぐても心のまゝだ　(何處に行くとも心のまゝだ)

(チ)に　動作事情の場合を指す時、「は」を下に附けて言ふ時、「**にぁ**」「**ね**」となる。

えぐにぁえぐがつれぁねぁが　(行くには行く

が連れはないか)

おめぁねぜんこける　(お前に錢をくれる)

動作の目的を指示する場合に普通は第二活用形に接續するが、方言では第三活用形に接續する。尤も「下一」、「**さ變**」は普通用法に從ふ。

内さ告げるにけぁった　(内へ告げに歸つた)

着物よそさ、ぬわせるにやった　(着物を餘處へ縫はせにやった)

ね(寢)に行ぐ　(下一段活用)

なん(何)しに來た(さ變活用)

受身の文で動作の相手を表はすに「**にかって**」「**にかて**」「**にかって**」「**にかて**」を用ひる。

この筆にかって(にかて、にがって、にかて)

字書がされた　(此の筆のために字を書かされた)

僕にかて(にかって、にがって、にかて)**しゅで**

めにあった　(僕のためにひどい目に逢はされた)

原因になる事を指示する時にも亦之を用ひる。

蚊にかて(にかって、にがって、にかて)　ねらんねぁ　(蚊のために寢られない)

らぐでぁ(落第)したにかて(にかって、にがって、にかて)ちからぁおじだ　(落第したゝめに力が落ちた)

(リ)の　體言のやうになる時のは、「**な**」「**なゝ**」「**がな**」「**がん**」を用ひる。

おめぁのな(なゝ、がな)もおれぁのなも似でる　(お前のゝも私のゝも似て居る)

おめぁのがん(な、なゝ、がな)でもおれぁのがんでもねぁ　(お前のゝでも私のゝでもない)

まじでるなつれぁ　(待つてゐるのはつらい)

なげぁなゝのほえ　(長いのゝ方はいゝ)

しかりゃがな一番やだ （叱られるのは一番いやだ）

あげぁがんとしれがんとせぁだ （赤いのと白いのと咲いた）

花だば公園のな（なゝ）え （花なら公園のゝがいゝ）

（**ヌ**）ものなら 「なら」のやうな意味に用ひる。「**もんだら**」となる。

そんたごどするもんだらしかりゃるべ （そんな事するものなら叱られるだらう。）

（**ル**）よう 推量の意味を表はすので「**よ**」「**よん**」を用ひる。用言の第三活用形に接續する。

何がおどするよ（よん） （何か音するよーだ）

ちこしたげぁよんた（だ）から買わねぁ （少し高いやうだから買はない）

又或代名詞にもついて

このよんた（だ）やすものぁねぁ （このやうな安いものはない）

あのよだきれだものほし （あの様なきれいなものを欲しい）

（**ヲ**）たつて たつても 上の語句を受けて反對の語句につゞく時に、「**だって**」「**だっても**」と濁る。但し促音につゞく場合は濁らない

見だ てつまらねぁ （見たってつまらない）

子供にもだせだっても だめだ （子供に持たせたってもだめだ）

（**ワ**）たら 假設及び既定の條件を言ふ時に、用ひる。「**だら**」と濁る。但し促音を受ける時は普通用法の通りである。

水**のませだらおじずぐべ** （水をのませたらおちつくだらう）

あの人さきで見だらそだった （彼の人に聞いて見たらさうであつた）

（**カ**）たり さまざまになることを並べて言ふ場合に用ひる。これも「**だり**」と濁るが、促音につゞく時は濁らない

ねだり食たりしてる （寢たり食うたりして居る）

又 「など」の意味をもつこともある。

人に笑われだりすがらやめれ （人に笑はれたりするからやめろ）

（**ヨ**）て 事柄の續け方、その他「から」「ながら」「のに」の意味を表はすに用ひる。これも「**で**」と濁る。但し促音につゞく時は濁らない

子供ぁ**泣えでる** （子供が泣いて居る）

役所**さよばれでしらべりゃだ** （役所へ呼ばれて調べられた）

橋ぁ**おじでえがれねぁ** （橋が落ちて行かれない）

人さ言わせで自分ぁ言わねぁ （人に言はせて自分は言はない）

又「も」がついて「とも」の意味に用ひられる。

やんぼ聞でもすぐにわすれる （何程聞いても直に忘れる）

（**タ**）ところが （で）くひちがひ、又は上下の句を結びつけるに用ひる。「**とごろが**」と濁る。

今ごろ來たとごろが間にゃわねぁ （今頃來たところが間に合はない）

（**レ**）ば 色々の意味に用ひられるが、「**んば**」となつてゐる。

たぐさん取れゝんばえ （澤山取れるといゝ）

叱られゝんばねじける （叱られゝばすねる）

（**ソ**）のに 上の語句の意味に關係のないことを下

に言ふ時に用ひる。「**に**」とする。

よぶもしねぁに勝手に來た　（呼びもしないに勝手に來た）

第三類　體言又は他の助動詞に附くもの。

（**イ**）へ（え）　方角場所相手を指す第一類の「に」に同じく、「**さ**」を用ひる。唯「え」の用ひられない所には、「**さ**」を使はないで「に」とする。

おれぁ今秋田市にえる　（私は今秋田市にゐる。）

（**ロ**）づつ　數を言ひ表はす言葉について、割り當をいふのに用ひられる。「**ずゝ**」と訛つて發音される。

三圓**ずゝでよがんべ**　（三圓づつてよからう）

（**ハ**）と　動作を共にするものを指すに用ひる。「**ど**」と濁る。

友だちど約束した　（友達と約束した）

（**ニ**）を　動作の目的を表はすに用ひる。多くは「を」を省略して上の語の母音を延ばす。

すみーする　（墨をする）

みせがらさげー（酒）**かう**　（店から酒を買ふ）

第四類　用言又は他の助詞につくもの。

（**イ**）な、なあ、ね、ねえ、念を推して言つたり強く指定したりするに用ひる。「**せぁ**」「**や**」「**え**」「**がらぁ**」「**ねす**」「**えす**」「**てぁ**」となつて使はれる。

動詞、形容詞、助動詞の第三活用形にも他の助詞にもつく。

澤山**にある**
かなり重え（い）
忙しぐねぁ
誰も知らねぁがら

せぁ　**や**
え、　**がらぁ**
ねす、**えす**、
てぁ

右左**どっちでも**――

何れも用言の第三活用形に接續する。其の中

せぁ　は強く言ひ放す心持で「さ」に似てる。

えす　對話の時叮嚀な言葉として婦女子の間によく用ひられる。「ね」に似てる。

がらぁ　は婦女子によく用ひられる。

ねす　は「**ねぁす**」とも發音され、又「**ねさ**」ともなる。親愛の意を表はすに用ひられる。

でゃ　は強く指定するか、反抗の意を表はす。「**れぁ**」ともいふことがある。

おらぁえさえぐでぁ（**れぁ**）　（己は家に行くぞよ）

（**ロ**）な　動詞の第三活用形に接續して、命令や禁止の意味を表はすに用ひられるが、命令には「へ」（せに近い）「**しゃ**」を使ふ。禁止には「な」は普通語法通りではあるけれども、上下一段活用には第二活用形につゞけるし、「か」變「**さ**」變では文語のやうに用ひる。

はやぐ起ぎへ（**しゃ**）　（早く起きよ）

すぐに植えへ（**しゃ**）　（直に植ゑよ）

さっさと書げへ（**しゃ**）　（さっさとかけ）

上手**に煮**（**れ**）**へ**（**しゃ**）　上手に煮よ）

おれぁどごうらみな　（己れを恨みるな）

なんでも受げな　（なんでも受けるな）

こんどがら來な　（今度から來るな）

そだごとすな　（そんなこと爲るな）

注意　「明日はやくお起きな」のやうな「な」の用ひ方は全くない。

（**ハ**）わね　物事を取り立てゝ言ひ決意を示す場合に用ひるが、「**えせぁ**」「**は**」「**ふぁ**」などを以て之を表はす。

何んどでも勝手だえせぁ　（どうでも勝手だ

わね）

おらぁやめるぁは（ふぁ）（已等は止めるわね）

（ニ）よ　念を推し感歎の意味を含めた言葉であるが「や」を使ふ。

おめぁのあにゃがらきだや（お前の兄から聞いたよ）

（ホ）まゝ　有様のよくわからない時に用ひる。「まんま」と撥ねる。

そのまんましておげ（そのまゝにしておけ）

袋のまんまやらぁ（袋のまゝ遣らう）

第十一章　感動詞

凝聲が多いのは自然に近い原始的あの言葉でる爲であらう。

（イ）一般的のもの「あえー」「さーさ」「まんつ」等が多く用ひられる。

あえーかわぇそーだ（あら可愛想だ）（婦女子が多く使ふ）

さーさこまた（さあ困つた）

あぎれだなまんつ（あきれたなまあ）

（ロ）人を呼ぶ時のもの「あでぁ」「あのせぁ」等が多く用ひられる。

あでぁ、んがぁ（おいどうした、お前は）

あのせぁ、おめぁだ（あのねお前達）

（ハ）應答の時使ふもの。

「なぁ」「あえぁあえぁ」等を多く用ひる。

「なぁ、しよじした（はい承知しました）

此の時「なぁなぁ」と重ねる場合もある。

「あえぁあえぁほんとだ（さうとも〱本當だ）

（ニ）打消して答へる時のもの「んにゃ」「んにゃ〱」を多く用ひる。

んにゃそでねぁ（いゝえさうでない）

んにゃんにゃそれぁでぎねぁ（いやいやそれはならない）

第十二章　詞の組立

種々の詞は接頭語、又は接尾語で組み立てられる。

(1)接頭語

ふんざま見ろ（ぶ様見ろ）（有様をけなして言ふ）

(2)接尾語

ほせ川こ（細い川）（細小をあらはす時）

きぐの花こ（菊の花）（親愛の意をあらはす時）

後の小山こ（後の小山）（謙遜して言ふ時）

木挽んど（木挽どの）（對等以下に用ひるが以上の者にも用ひる所がある

手ずでぁっと（手傳人）（人のひが省かれたもの）

山えど（山稼達）（達、衆の意を表はす）

がぎんびら（餓鬼ばら）（ばらがびらと轉訛）

せやみこぐ（なまける）（するの意を表はす）

きずたげる（短氣する）（同上）

やじまげる（しくじる又は困る）（同上）

大損(おーそん)はんじぐ（大損する）（同上）

第十三章　敬讓語

原始的語彙としてその種類頗る少い。

んが（常には對等又は以下のものに用ひるが、上下親疎の區別なく用ひる地方がある。）

おめぁ（んがより少し上品な言葉として用ひられる）

動詞でも、助動詞でも、敬意を含んでゐるもの

は殆んど用ひない。動詞をば活用形そのまゝ第三者は勿論、對者の如何なる地位の人たるに構はず之を使ふ。接頭語、接尾語も敬意ある。「お……ございます」「ごさかんな」「おまえがた」などは教育あるものゝ外は使はない。

血族關係でも、「**おど**」(お父さん)「**おが**」(お母さん)などは、苟も兒女をまうけた者には誰にでも用ひる。弟妹より兄姉を呼ぶにも、その本名(太郎とか花とか)をそのまゝ呼稱する地方がある。随つて自分の父が他人から「**あにゃ**」と呼ばれると、そのまゝ父を呼ぶ言葉とするやうな地方もある。

秋田地方　**方言の語法的考察**　終

第三編　語　彙

語彙の整理に就いて

一、語彙は地方より集まつたカードを尊重して、其の儘に取入れたものが多いので、此の語はいかがと打傾かれるものがないでもない。

一、拗音とエ母音の廣きものとが判然しないものがある。例へば「びゃこ」の如きは表記の通り拗音に發するものか、又は「べぁこ」とエの廣き母音にいふものか疑を容るべき餘地がある。

一、長音とエ母音の廣きものとが判然しないものがある。即カードによればア列の字の右側下にあ字を添へたものと、エ列の字の右側下にエ字を添へたものとがあるが、これはア列エ列を半音丈延き伸して發音するものか、又は共にエの母音の廣きものにいふのか判然しない。半音丈延き伸したものと見倣して、右側下に―を添へて置いたものもあるが實は判然しないのである。

ざぁご 田舍（在郷の字音）　**さらうげぇっこ** 競走

一、清濁の判然しないものもある。

きかねぁ（湯、平、河、北、鹿）　**きがねぁ**（由）　**あきねぁ**（平）　**あぎねぁ―**（南）

てぁくつ（角）　**てぁぐつ**（山、花）　**ご―ける**（西馬）　**ごげる**（本、由）

でぁ―どころ（平、湯）　**でぁどごろ**（湯、平、角）　**ねたつ**（西成、平）　**ねだつ**（鹿）

目　次

まちこい（北）　**まぢこえ**（西馬）　**ねだつ**（鹿）　**ねだづ**（横、花）

てろっと（五）　**でろっと**（市）　**ちやっちやと**　**ちやっちやど**（雄、河、市）

一、濁音と鼻濁音との區別が確かならぬものもある。例へば「さむぎ」の如きは、普通語さむけ（寒氣）なれば、方言の通則に隨へば「さむぎ」でなければならぬ。又「ざぁご」の如きも「ぜぁご」でなければならないやうに思はれるのに、カードには「ざぁご」とあるのである。

一、サ行にはサとシャと兩樣の音を備へて居るが、左の如き語は果して地方によつてさる別が實際にあるのか、或は表記法に精粗の差があるのか判然しない。

せげ（雄、平）　**しぇげ**（由、仙）　溝（小川）　**ぜぁぐ**（河）　**じぇぁぐ**（仙）　牝馬

一、ハ行にもハとファと兩樣の音があるにはあるが、左の如き表記法は果して其の地方の正確な音を寫したのであらうか。

では る（由、雄、平、仙、河、南、鹿）　**でふぉる**（雄、河、南）　出張

へら（壹圓）　**ふぇら**（由）　飯杓子

一、アクセントは極めて小範圍に於てもかはり易きものであるから、郡と郡と、村と村とで違つて居ても、敢へて異とすべきではないが、果して表記の如くであらうか、なほ吟味の餘地が存するであらう。

あくれる（西成）　**あぐれる**（湯）　溢　**でぉところ**（湯）　**でぉどころ**（平）　臺所

第三編　語彙

目次

あの部……一
いの部……一八
うの部……二〇
えの部……二四
おの部……二七
かの部……五一
きの部……六五
くの部……七〇
けの部……七六
この部……八三
さの部……九五
しの部……一〇二
すの部……一二六
せの部……一三六
その部……一四一
たの部……一五一
ちの部……一六〇
つの部……一六五
ての部……一七〇
との部……一七六
なの部……一八九
にの部……一九六
ぬの部……一九八
ねの部……二〇〇
のの部……二〇四

目次

はの部……二〇八
ひの部……二一五
ふの部……二二一
への部……二二九
ほの部……二八四
まの部……二四一
みの部……二四九
むの部……二五三
めの部……二五五
もの部……二五九
やの部……二六四
ゆの部……二七一
よの部……二七四
らの部……二七八
りの部……二七九
れの部……二七九
ろの部……二七九
わの部……二八〇
んの部……二八三

第三編　語彙

◆あ　の　部

あー（感）（河、平）　はい。
母『太郎ゐるか。』　太『あー。』

あいのよ（名）（平）　鮎。

あいまち（名）（由）　あやまち、怪我。

あえ（名）（南、河）　鮎。

あえ（感）（山）　さうです。
甲『昨日山に行つたか。』　乙『あえ。』

あんえ（感）（北）　あゝ、おや。
「あんえ、仕方ない。」

あえー（感）（市、河、平）　あー、あれー。
「あえー、嫌だ。」

あーえぉ（感）（河、南）　さうです。
甲『賛成だらうな。』　乙『あーえぉ。』

あえこ（名）（南、河、雄）　おあひ（獻盃）。
「あえこ一つやる。あえこ一つたのむ。あえこしてあげんす。」

あえこ（名）（北）　酒を勸める場合、其の人が否む時に、一時他人が代つて飲むこと。
「あえこ取つてあげる。」

あえこする（動さ變）（南）　接待する、盃をあげる。
「そこにゐてあえこすれ。」

あえし（感）（由）　さうです。
甲『面白かつたか。』　乙『あえし。』

あえする（動さ變）（平）　あやす。
「赤子をあえする。」

あえず（代名）（南）　あの奴。

あえんでけれ〔連〕〔平、雄〕 あるいて呉れ。
「俺と一所にあえんでけれ。」

あえのかじぇ〔名〕〔山、南、河〕 北西風。

あえまず〔名〕〔南、河、由〕 あやまち、怪我。

あえまだせぁ〔連〕〔山〕 勿論其の通り。
甲『今日も亦怠けてゐるな。』乙『あえまだせぁ。』

あおがら〔名〕〔平〕 芋の莖。

あおにけぁる〔動四〕〔市〕 あふにかへる（仰に反る）
「雪道に足をすべらしてあおにけぁる。」

あおのし〔名〕〔南〕 あをだいしやう。

あおのろし〔名〕〔市、河、仙、平、雄、由〕 あをだいしやう。

あおびっき〔名〕〔南、仙、雄〕 雨蛙。

あが〔名〕〔南〕 四人。

あがぎり〔名〕〔雄〕 あかぎれ。

あがし〔名〕〔鹿、南、市、平、由〕 燈火。

あがたんせ〔連〕〔平、雄〕 めしあがりください。
「うまくないが、あがたんせ。」

あがつぐ〔動四〕〔北〕 甘える。
「あがつぐ小供だな。」

あがてくなんせ〔連〕〔鹿〕 お上り下さい。
「遠慮なくあがてくなんせ。」

あがどり〔名〕〔北、山、仙、由〕 敷布。

あがにんがこ〔名〕〔河〕 あかんぼ、あかちゃん。

あがはっぴ〔名〕〔南、市、仙〕 四人。

あがはら〔名〕〔北、山、南、市、平、由〕 赤痢。

あがんぼ〔名〕〔由〕 あかちやん。

あがらわんせ〔連〕〔由〕 召し上つて下さい。
「吸物をあがらはんせ。」

あかり〔形〕〔雄、〕 明るい。

「あかりうちに早く家に歸れ。」

あがり〔名〕〔由〕 ともしび。

あがり〔形〕〔市、由〕 明るい。
「今夜はあがり。」

あがりさがり〔名〕〔平、雄〕 かげろふ（昆虫の一種）

あがりぱ〔名〕〔北、河〕 上り口。

あがりっぱ〔名〕〔鹿、山〕 上り口。

あぎあんず〔名〕〔南、平〕 年内の鹽鮭。

あぎえだ〔連〕〔南〕 あきれた。
「今年はあぎえだ年だ。」

あぎする〔動さ變〕〔河〕 あきあきする。
「あの事では、本當にあぎする。」

あぎねぁ〔名〕〔南、平〕 商ひ。

あぎんび〔名〕〔鹿、北、平、雄、由〕 あけび（木通）

あぐ〔名〕〔鹿、山、南、市、仙、平〕 はひ（灰）

あぐ〔動四〕〔北、山、南、河、仙〕 歩く。
「餘り速くあぐな。」

あぐこ〔名〕〔由〕 踵。

あくしょ〔名〕〔雄〕 くしゃみ。

あくせん〔名〕〔鹿、仙、平、雄〕 くしやみ。

あんくたらばっこ〔連〕〔山〕 あんなに少しばかり。
「あんくたらばっこ よこしたのか。」

あぐだれ〔名〕〔鹿、南〕 わんぱく者。（腕白）

あぐだれもの〔名〕〔山、南、仙、由〕 亂暴者、惡者。

あぐだれる〔動下一〕〔鹿、南、平〕 亂暴する。あばれる。
「よくあぐだれる兒だ。」

あぐで〔名〕〔山〕 惡口。
「あぐでばかりついて。」

あぐでぁ〔名〕〔南、市、河、仙、平、雄、由〕 惡口。

あぐでぁつぐ〔動四〕〔南、平、雄、由〕 惡口を吐く。

「よくあぐでぁつぐ男だ。」

あくど〔名〕〔雄〕 踵。

あぐど〔名〕〔鹿、山、南、市、河、仙、平、雄、由〕 踵。

あぐとす〔名〕〔平〕 灰篩。

あぐねもじ〔名〕〔河〕 てあまし(手餘し)。

「ロむづかしい姑一人をあぐねもじしてゐる。

あんな計算問題一つをあぐねもじしてゐる。」

あぐび〔名〕〔平〕 そでなし(袖無)

あぐんび〔名〕〔山、南、仙、平、雄、由〕 あけび(木通)

あぐんび〔名〕〔河〕 あけび(木通)

あぐらがみ〔名〕〔平〕 いてふがへし(銀杏返)

あぐれる〔動下一〕〔市、河、平、雄〕 溢れる。

「米が俵からあぐれた」。

あげ〔名〕〔南〕 あぶらむし。

あげぁ〔形〕〔山、南、仙、平、雄、由〕 赤い。

「あげぁ着物を着る。」

あけぁねぁ〔形〕〔平〕 もろい、はかない、張合なし。

「あけぁねぁ命だもんだ。」

あげじ〔名〕〔平、雄〕 とんぼ。

あげず〔名〕〔平、雄〕 とんぼ。

あけのみょーど〔名〕〔由〕 曉の明星。

あける〔動下一〕〔平〕 注ぎ入れる。

「樽から酒をあける。」

あげる〔動下一〕〔雄〕 嘔吐する。

「腹工合が惡くてあげた。」

あこ〔代名〕〔鹿、平〕 あそこ。

あごぎ〔名〕〔河、仙〕 顎、上り口。

あごくた〔連〕〔市〕 失敗した。

「勝つ氣で行つたら、あごくた。」

あこねある〔連〕〔山〕 あそこにある。

「それ、あこねあるよ。」

あごわがれ〔名〕〔平〕 訣別。

「あんごわがれの酒飲した。」

あんざ〔名〕〔雄〕 ほくろ(黒子)

「當地にはあざとほくろと混同し、ほくろの名稱なし」

あさすらげ〔名〕〔雄〕 はこべ。

あさっぱら〔名〕〔平、雄〕 朝、早朝。

「朝っぱらから酒飲む。」

あさねこぎ〔名〕〔雄〕 朝寢坊。

あさんびざっこ〔名〕〔仙〕 目高。

あさま〔名〕〔鹿、北、山、南、仙、平、雄、由〕 朝。

あさみし〔名〕〔由〕 あさめし(朝飯)

あじー〔形〕〔市〕 厚い。

「あじー板だ。」

あじぁ〔名〕〔仙〕 處女。

あんじうり〔名〕〔雄〕 まくはうり(眞桑瓜)

あしぇぁ〔形〕〔平、雄〕 淺い。

「河はあしぇぁな。」

あじがう〔動四〕〔山、南〕 やしなふ。

「長い間親をあじがつた。」

あんじぎまこ〔名〕〔雄〕 赤飯。

あしんだが〔名〕〔南、河、雄、由〕 短き草履。

あんじだす〔動四〕〔雄〕 思ひ出す。

「あのこと今あんじだした。」

あしなが〔名〕〔由〕 短い草履。

あしねこい〔連〕〔山〕 遊びに來い。

「僕のところにあしねこい。」

あしのふぇら〔名〕〔南、平〕 足の甲。

あしのへら〔名〕〔雄〕 足の甲。

あしのべら〔名〕〔平〕 足の甲。

あじんばる〈動四〉〈由〉集る。
「子供があじんばる。」

あしんび〈名〉〈仙〉あそび(遊)

あしんぶ〈動四〉〈鹿、山、仙、平、由〉遊ぶ。
「かるたをあしんぶ。」

あじんべる〈動下一〉〈平〉あつめる。
「役場の金あじんべる人來た。」

あじゃ〈名〉〈山、南、河、由〉子守及び下女。

あじゃ〈名〉〈仙、由〉子守、若い女中。

あじゃ〈名〉〈平〉父。

あんじゃ〈名〉〈鹿、山、南〉あざ、ほくろ。

あじゃ〈名〉〈平、雄〉主婦。

あじゃこ〈名〉〈河、由〉姉さん、子守(主として小兒用語)

あんじゃける〈動下一〉〈河〉ふざける、不眞面目にする。

「よくあんじゃける兒だ。」

あんじゃみ〈名〉〈鹿〉あざみ。

あんじゃらけ〈名〉〈雄〉そこつ　粗忽。

あんじゃらける〈動下一〉〈雄、平〉ふざける。
「あんじゃらけて仕事をするな。」

あしゅ〈名〉〈北〉あひる。

あんじゅーり〈名〉〈平〉眞桑瓜。

あず〈代名〉〈由〉彼奴。

あずがう〈動四〉〈南、河、仙、平、雄〉看護する、飼ふ。
「病人をあずがふ。鶏をあずがふ。」

あずがう〈動四〉〈平〉預ける。
「金をあずがう。」

あずがわれこ〈名〉〈平〉さとこ(里子)

あずがる〈動四〉〈鹿〉飼ふ。
「雞をあずがる。」

あんずこど〈名〉〈仙〉心配事。

あすんだが〈名〉〈平〉短い草履。

あずんばる〈動四〉〈雄〉あつまる(集まる)
「早くあずんばれ。」

あすびざっこ〈名〉〈平〉めだか。

あすんぶ〈動四〉〈南、市、河、平、雄、由〉あそぶ。
「あすんぶに行く。」

あずんべる〈動下一〉〈南、河、平、雄、由〉あつめる(集める)
「紙屑をみんなあずんべれ。」

あずらえる〈動下一〉〈平〉預ける。
「本を一寸あずらえる。」

あずらぐ〈動四〉〈仙〉あづかる。
「錢をあずらぐ。」

あそんびざっこ〈名〉〈平〉目高。

あせぁ〈形〉〈全縣〉淺い。

あーせぁ〈感〉〈市〉さうです。
甲『祭みたか』乙『あーせぁ』
「あせぁ河だ。」

あせる〈動下一〉〈鹿、河、平、雄〉合せる。
「糸をあせる。」

あんだ〈代〉〈市〉あなた(貴方)

あんたおの〈連〉〈平〉あんなもの。

あだこ〈名〉〈鹿、北〉こもり。下女。

あんたんだに〈副〉〈平〉あんなに。
「あんたんだに騒いではいけない。」

あんたんだもの〈連〉〈平〉あんな物。
「あんたんだ物書いたか。」

あんだでゃこんだでぁ〈連〉〈平〉あーだこーだ。
「あんだでぁこんだでぁというて困る。」

あんたに〈副〉〈平〉あんなに。
「あんたにすると駄目だ。」

あんたばこ（副）〈平〉 あればかり。
「あんたばこ喰つてもだめだ。」

あんだべ（連）〈山、南〉 あゝだらう。
「屹度あんだべ。」

あだまのさらこ（名）〈雄〉 頭蓋。

あちぇぁ（形）〈鹿〉 赤い、うつくしい。
「あちぇぁ着物きた。」

あんちくたもの（連）〈南、仙、平〉 あんなもの（罵りて云ふ）
「あんちくたものを相手にするな」。

あんちこと（名）鹿、山、平、雄〉 しんぱい（心配）

あんちこど（名）〈南、市、河、由〉 心配。

あちゃ（名）〈北〉 父様、母様。

あちゃ（名）〈平〉 父。

あちゃ（代名）〈平、雄、由〉 あちらへ。
「あちゃ行った。」

あちゃこちゃだ（連）〈鹿、山、南、仙〉 反對だ。
「仕事の仕方があちゃこちゃだ。」

あつ（形）〈雄〉 あつい。（暑い）
「あつ日だな。」

あんつきだもの（連）〈河〉 あんなもの。
「あんつきだものなどとてもだめだ。」

あんつくたもの（連）〈雄〉 あんなもの。
「あんつくたものだめだ。」

あっけねぁ（形）〈雄〉 物足りない。
「先日の話はあつけねぁ話だつた。」

あっけわらし（名）〈鹿〉 わるいこ（悪い子）

あっこ（名）〈山、南、仙〉 水 （小兒語）

あっこ（名）〈市、河、平〉 ゆ又はみづ（小兒語）

あっこ（代名）〈雄、平〉 あそこ。

あんつこ（名）〈平〉 杏子。

あっしぇ（感）〈南〉 その通りです。あゝ左様。

「お前柔道でかつたか。あっしぇ。」

あっしゃ（感）〈鹿、仙〉 あら。
「あっしゃ。この人いやな人だこと。」

あっしゃ（感）〈平〉 あー。
「あっしゃ。面白くないなー。」

あったもの（名）〈雄〉 あんなもの。

あっちたば（連）〈平〉 あついよこれ。
「火のそばに行けばあっちたば。」

あっちゃ（連）〈鹿、南、仙、雄〉 あちらへ。
「あっちゃ行け。」

あっちゃ（名）〈河、仙、雄〉 ねいさん（姉さん）

あっつ（形）〈南〉 あつい（熱い）
「あっつ湯呉れ。」

あっつぁ（名）〈平、雄〉 處女、姉さん。

あっとさま（名っ）〈北、南〉 月、神、佛。

あっぱ（名）〈鹿、北〉 はゝ （母）

あっぷあっぷする（動さ變）〈平〉 おぼれる（溺れる）
「深い川に落ちてあぷあっぷした。」

あっぺ（名）〈平〉 女兒の陰部。

あっぺぁ（形）〈鹿、北〉 きたない（小兒語）
「それなめればあっぺぁ。」

あっぽなし（名）〈平〉 あほう、馬鹿。

あでぁ（感）〈平〉 おいどうした。
「あでぁ何處へ行く。」

あんでぁせ（連）〈北〉 參りませう。
「一緒にあんでぁんせ。」

あできぶじ（名）〈雄、平〉 ろぶち（爐ぶち）

あでぐぶじ（名）〈平〉 ゐろりぶち。

あでこ（名）〈南、市、河、、仙、平〉 腹當。

あでんず（名）〈北、南、由〉 方面。

あでずっぽー（名）〈平〉 豫想。

あでもねぁ（連）（南、平） とんでもない、途方もない。
「あでもねぁ事云ふ。」
あと（名）（由） 客。
あと（名）（河） 佛様、神様。
あどかが（名）（仙） 後妻。
あどがに（副）（鹿） 後に。
「又あどがに遊ばう。」
あどご（名）（仙） ありか、（有處）
あとさま（名）（山、南、市、河） ほとけさま。神様、（主として小兒語）
あとさん（名）（仙） 神様、佛様。
あどさん（名）（由） 月或は坊主。
あとちき（名）（由） 先月。
あどど（名）（由） 佛又は月。
あどんば（連）（平） あとは（後は）
「あどんば止めた。」
あどふぎ（名）（平） あとしまひの宴會。
あどぺぁり（名）（雄） 入夫、後妻。
あな（名）（鹿） ちゝ（父）
あな（名）（北） 兄。
あな（名）（北） 下男、若者。
あなれ（名）（由） あられ。
あに（名）（平、雄） 若き男、婿。
あね（名）（南） 結婚したる農家の女。
あね（名）（河） 長女の年少時の稱。
あね（名）（平） 下女。
あね（名）（鹿、雄） 兄の妻、下女。
あね（名）（山） 下女及び子守。
あね（名）（河） 嫁（中流以下に用ふ）
あね（名）（平） 處女。
あねー（名）（平） 若き女。

あねこ（名）（山、南、仙、平、由） ねいさん、中、下流の娘さん。
あねこ（名）（平） 姉さん。
あねこ（名）（鹿） 處女。
あねこ（名）（仙） 下女。
あねこ（名）（雄） 姉、若き女、女中。
あねこ（名）（平） 女郎。
あねさ（名）（由） 姉さま。
あねさん（名）（市、平、雄） 處女 嫁。
あねちゃ（名）（山、南、仙、平） 姉様、嫁。
あねちゃ（名）（鹿、北、市、由） 姉さん。
あねつぁ（名）（仙、平、雄） 若主婦、姉、處女。
あねっちゃ（名）（雄） 姉さん。
あねっつぁ（名）（仙） ねえさん。
あねま（名）（由） 女郎。
あのえす（連）（南） あのね。
「あのえす今に祭みにこいど。」
あのごろ（副）（平） あれ位。
「あのごろ言つても分らないか。」
あのしぇ（連）（山） あのね。
「あのしぇ、早く來いと。」
あのしぇぁなんし（連）（北） あのね。
「あのしぇぁなし、早く來て呉れと。」
あのじぎ（連）（仙） あの時。
「あのじぎ始めて見た。」
あのしっせぁ（連）（雄） あのね。
「あのしっせぁ、あすこで喧嘩あつたよ。」
あのしゃ（連）（鹿、仙、平、雄） あのね。
「あのしゃ、君に用があると。」
あのせぁ（河、仙、平、由） あのね。
「あのせぁ、明日遊びに來いと。」
あのせぁなー（連）（由） あのねー。

「あのせぁなー明日遊びに來いと。」

あのんししゃ〈連〉〈雄〉 あのね。
「あのんししゃ汽車が遲れたとさ。」

あのーんす〈連〉〈雄〉 あのねー。
「あのーんす今來て下さいて‥‥。」

あのな〈連〉〈平〉 あのね。
「あのな、あの人死んだよ。」

あのなんし〈連〉〈平〉 あのね。
「あのなんし、早くきて呉れと。」

あのもしや〈連〉〈仙〉 あのね。
「あのもしや、一寸來いって。」

あは〈名〉〈平、仙〉 母。(**ははふん**)

あば〈名〉〈北、山、南、河、仙、平、雄、由〉 母、妻。

あんばー〈感〉〈河〉 左樣なら(小兒語)
「太郎さん、あんばー。」

あんばあんば〈感〉〈仙〉 左樣なら(小兒語)
「太郎さん、あんばあんば。」

あんばえ〈感〉〈鹿、山、南、市、河、仙、由〉 さやうなら(小兒語)

あんばける〈動下一〉〈平、雄〉 じゃれる、ふざける。
「これ、あんばけるな。」

あんばげる〈動下一〉〈平〉 戲れる、ふざける。
「そんなにあんばげるな。」

あばこ〈名〉〈平〉 中年以上の奉公女、乳母。

あんばずぐ〈動四〉〈平、雄〉 あまえる。
「この子は餘りあばずいて困る。」

あんばずれもの〈名〉〈由〉 莫連者。

あんばせる〈連〉〈平〉 足を運ばせる。
「何度もあんばせるな。」

あんばっせぁ〈連〉〈由〉 行きませう。
「學校にあんばっせぁ。」

あんばや〈感〉〈南、市、河〉 左樣なら。

あんばよ〈感〉〈仙〉 左樣なら。
「あんばよ、行って來るよ。」

あぶ〈名〉〈鹿、北〉 水の泡。

あんぶ〈動四〉〈平、雄〉 あゆむ(步む)
「よくあんぶ兒だ。」

あふぉ〈名〉〈平、河、仙、雄〉 妻、(主に夫より言ふ)

あふぃろ〈名〉〈平〉 あひる。

あふぇつぎる〈連〉〈市〉 愛憎がつきる。
「あの人にはあふぇつぎた。」

あんぶぐ〈名〉〈仙〉 泡。

あんぶしねぁ〈形〉〈河〉 あぶない。
「そんなあんぶしねぁ事するな。」

あんぶねぁ〈形〉〈南、仙、平〉 危い。
「火事が出る所で、あんぶねぁことした。」

あふら〈名〉〈河、雄〉 馬鈴薯。

あんぶらうる〈連〉〈平〉 怠ける。
「餘りあんぶらうるな。」

あんぶらびっき〈名〉〈雄〉 とのさまがへる。

あんぶれだ〈連〉〈平〉 失敗した。
「よくよくあんぶれだ。」

あんぶる〈動四〉〈北、南、市、仙、平、雄、由〉 泳ぐ浴びる。
「水をあんぶる。」

あへる〈動下一〉〈仙〉 あはせる(合せる)
「てをあへておがむ。」

あへぁ〈形〉〈南〉 淺い。
「その川あへぁが。」

あんべぁみ〈名〉〈鹿、北、平、由〉 あんばいみ(鹽梅味)

あんべぁわり〈連〉〈南、平、雄〉 病氣だ。
「私は二三日前からあんべぁわり。」

あんべでぁ（連）（山、南） 行かうよ。
「早くあんべでぁ。」
あま（名）〔河〕 天井（梁）又は土間の上の二階。
あまあま（名）（仙） 佛樣。
あまえ（名）（仙） あまさけ（甘酒）。
あまえこ（名）〔平〕 あまざけ（甘酒）
あまこ（名）（由） 水、湯（小兒語）
「あまこに入る。」
あんまし（副）（南） あまり（餘り）
「あんまし水飲むと腹やみするぞ。」
あんます（動四）〔南〕 吐瀉す。吐く。
「ものたべてもすぐあます。」
あまちけ（形）〔由〕 甘い。
「この菓子はあまちけ。」
あまのしゃぐ（名）〔平〕 山彦。
あまひこ（名）〔平〕 頭巾。

あまま（名）〔平〕 佛樣（主として小兒語）
あまみんぞれ（名）（由） みぞれ。
あまゆぎ（名）（鹿、南） みぞれ。
あめぁ（形）〔全縣〕 あまい（甘い）
「あめぁお菓子だこと。」
あめぁがる（動四）（由） 甘える。
「よくあめぁがる兒だ。」
あめこめ（副）（山） 時々。
「あの人はあめこめに來る。」
あめふりばんな（名）〔平〕 ひるがほ。
あめらか（名）〔河〕 まっち（燐寸）
あめらかつけぎ（名）〔平〕 燐寸。
あめる（動下一）（鹿、北、山、南、河、仙、平） （饐える）
「飯があめる。」
あも（名）〔平〕 男兒の陰部。

あや（感）〔平、仙〕 あら。
「あやびっくりした。」
あや（名）（山、南） はゝ（母）（主に下流の用語）
あや（名）（由） 兄。
あや（感）（山） さうです。
甲『及第したか』 乙『あや』
あやこ（名）（南） お手玉。
あやなー（感）〔山〕 さうですよ。
「あやなー、やつと解つた。」
あらくえんび（名）（南） ひとさし指。
あらげる（動下一）（南、由） 亂暴する、あばれる。
「この子はいつもあらげる。」
あらね（名）（鹿、北、山、南、市、河、仙、平、雄由） 霰。
あらぺ（形）（由） 粗い。

「其の沙はあらぺな。」
あらまぎ（名）〔平〕 薄鹽の鮭。
あらまんつ（感）（雄） あらまあ。
「あらまんつおかしいこと。」
ありあんす（連）（由） あります。
「お菓子は家にありあんす。」
ありがでぁ（形）（仙） 有難い。
「あの神樣はありがでぁ神樣だ。」
ありがどがんした（連）（鹿） ありがたうございました。
「毎度ありがどがんした。」
ありぐ（動四）（市、河、仙、雄、由） 歩く。
「早くありげ。」
あるかしねぁ（連）（雄） 有るか知らん。
「學校にあるかしねぁ。」
あるぐ（動四）（鹿、南） 歩く。

「早くあるぐ。」

あるべが（連）（南） 有りませうか。

「お前の家に米あるべが。」

あるべしゃ（連）（平、雄） あるでせうよ。

「あるべしゃ、赤い着物澤山に。」

あるんす（連）（平） あります。

「その切れならあるんす。」

あれぁ（形）（全縣） 粗い。荒い。

「あの子供はあれぁ。」

あれぁだ（代名）（平、雄、由） 彼等。

あれぁど（代名）（鹿） あの人達。

あれぐ（動四）（雄、平） あるく（歩く）

「君は自動車か、俺はあれぐ。」

あろんば（連）（由） あらば。

「あろんば呉れ。」

あわけねぁ（形）（北、平） はかない。

「あまりあわけなく死んだ。」

あわねぁ（連）（河、平） 叶はない。

「お前と相撲とつたつてあわねぁ。」

あわぶぐ（名）（平） 泡。

あゑ（形）（南、河、由） あをい。（青い）

あゑぁこ（名）（南、仙、平、雄） 間。

「家と家とのあゑぁこに居た。」

あゑぁに（副）（雄） たまに（偶に）

「友達があゑぁに遊びに來る。」

あんぐさん（名）（平） お孃さん（小兒語）

あんけ（名）（由） 愚人。

あんけらぽ（名）（南） うかれてゐる人。

あんこ（名）（鹿、北、山、南、河、仙、平、雄、由） 長男、兄、婿、若い男、下男。

あんこもじ（名）（雄） あんもち（餡餅）

あんころ（副）（雄） あれほど（あれ程）

「あんころ敎へたのに忘れたか。」

あんころもじ（名）（河、仙） 餡餅。

あんさま（名）（由） 若旦那、若主人。

あんさん（名）（市、平、雄、由） 兄樣、若き男。

あんじょ（名）（仙） 大便所。

あんす（連）（鹿） あります。

「これは學校であんす。」

あんせぁ（名）（平） あぢさゐ（紫陽花）

あんたんだに（副）（南） あんなに。

「あんたんだにわがまゝさせるとだめだ。」

あんたに（副）（南、由） あんなに、あの位に。

「あんたに貰つて。」

あんたもの（連）（雄） あんなもの。

あんたら（連）（鹿） あんな。

「あんたら花だめだ。」

あんちこと（名）（仙） 心配事。

あんちゃ（名）（鹿、山、南、市、仙、平、雄、由） 兄樣、若き男。

あんちゃぼ（名）（南） 息子。（上、中流）

あんちゃめ（名）（仙、平、雄） 長男、男小供。（上中流）

あんつぁ（名）（仙、平、雄） 兄、靑年、若主人。

あんつぎだもの（連）（雄） あんなもの。

あんつくたもの（連）（市） あんなもの。

あんてぁに（副）（河、仙） あんなに。

「あんてぁに働いたのに。」

あんでへ（連）（仙） いきませう（行きませう）

「芝居見にあんでへ。」

あんねぁ（連）（雄） ねばならぬ。

「繩なはねぁあんねぁ學校に行かねぁあんねぁ。」

あんば（感）（由） 左樣なら。

「大變御馳走になつた。あんば。」

あんびん（名）〔北〕大福餅。

あんびん（名）〔平〕女兒の陰部。

あんぷら（名）〔南〕馬鈴薯。

あんべ（連）〔平〕有るだらっ。

「今日授業あんべ。」

あんべぁわり（形）〔鹿、南、河、仙、平〕加減がわるい。

「母が少しあんべぁわり。」

あんまり（副）〔平〕あまり。

「あんまりひどい人だ。」

あんまりげぁに（副）〔雄〕餘りに。

「あんまりげぁに喰つたのだよ。」

◆い の 部

い（名）〔市〕湯。

いうえぁ（山、南、雄、由）祝賀　いはひ。

いがる（動四）〔平〕氾濫する。

「から雨降ればいがるな。」

いぎ（名）〔仙〕雪。

いきなる（連）〔仙〕生意氣になる。

「だまつてゐれば、いきなつて。」

いげぁる（動四）〔鹿〕行き逢ふ。

「途中でいげぁた。」

いげす（名）〔南〕いけ（池）

いげる（動下一）〔由〕はうむる（埋葬する）

「死んだ犬をいげた。」

いんじげ（名）〔平〕どぶ（溝）。

いしょばず（名）〔南〕すりばち（摺鉢）

いそんで（副）〔由〕急いで。

「いそんで來い。」

いだこ（名）〔鹿〕みこ（巫女）

いたんじ（名）〔全縣〕いたち（鼬鼠）

いたんずぎ（名）〔平〕床下。

いだのま（名）〔南、仙〕床、板の間。

いだまし（形）〔河、仙、平、雄、由〕惜しい。

「石盤こはれていだましかつた。」

いためた（連）〔平〕大切な、立派な。

「此のいためた品を拜借して。」

いためて（連）〔平〕恐縮して。

「めづらしいものもらつていためて有難う。」

いだわし（形）〔山〕惜しい。

「いだわし人をなくした。」

いつがす（動四）〔由〕ゆるがす。

「いつがして桃を落した。」

いっちに（副）〔仙〕とうに。

「いっちに汽車は出てしまつた。」

いっぺぁ（副）〔仙〕澤山。

「みかんいっぺぁある。」

いでぇ（形）〔全縣〕痛い。

「頭がいでぁ。」

いでぁぐする（動さ變）〔雄〕怪我する。

「小刀で、いでぁぐした。」

いど（名）〔鹿〕あさ（麻）

「いどをつむぐ。」

いーにぎ（形）〔市〕いひにくい（言難い）

「いーにぎものだ。」

いどご（名）〔鹿〕しんるゐ（親類）

いぬくれぁ（名）〔鹿、平〕鬪犬。

いのる（動四）〔南、由〕のろふ（呪ふ）

「彼の人はいのられて死んだと。」

いふぇ（名）〔雄〕位牌。

いふえぁ（名）〔鹿〕位牌。

いまかだ（副）〔平〕一寸今。

「いまかだ雨が降つた。」

いますごろ（副）〔平〕今頃。

「昨日のいますごろ行つた。」

いまだりぁ（副）〔平〕今頃。
「いまだりぁ東京に行つたらう。」

いまてで（名）〔山、仙〕繼夫。

いらける（動下一）〔北〕やたらに物を食ふ。
「無暗にいらけるから腹を悪くする。」

いるぎ（名）〔南、仙〕ゐろり。

いるり（名）〔南、市、仙〕圍爐裡。

いろこ（名）〔雄〕ふけ（雲脂）

いわげる（動下一）〔市、仙〕詫びる。
「悪い事をしたから、いわげる。」

いわすぎ（南）〔名〕うはしき（上敷）

いわすんばな（名）〔平〕はこねうつき。

いわっぱり（名）〔市〕上羽織。

いわの（固名）〔河〕うわの（上野）

いんこ（名）〔平〕犬子。

いんぺい（名）〔仙、平〕みつぞうしゆ（密造酒）

◆うの部

うんか（連）〔平〕いや。
「そんなことするとうんか。」

うがうがする（動さ變）〔平〕躊躇する。
「うがうがしないですぐ行け。」

うがれる（動下一）〔仙〕ぼんやりする。
「そんなにうがれると、何がとられるよ。」

うが（代名）〔平〕汝（卑語）

うんぐく（動四）〔由〕動く。
「家がうんぐく。」

うぐんば（名）〔河〕臼齒。

うげはらいする（動さ變）〔平〕答辯する。
「おれがうげはらいしてやる。」

うんじぐ（動四）〔平〕騒ぎたわむれる。

「さううんじいては着物を切らすよ。」

うじぐ（動四）〔鹿〕でんせんする。
「あの人から病氣がうじぐ。」

うじげ（名）〔山〕うわきもの。

うじんば（名）〔河、雄〕遠慮深い心持。
「あれはいつもうじんばにしてゐる。」

うじゃねはえだ（連）〔鹿、北〕なんぎした。（難儀）
「あまり雪がおほくて、うじゃねはえた。」

うしゃらしぐねぁ（形）〔鹿、山〕にくらしい。憎らしい。
「うしゃらしぐねぁ人だ。」

うんじゃり（副）〔鹿〕うんざり。
「本當にうんじゃりした。」

うしょたがれ（名）〔雄〕潔癖すぎる人。

うんじらふんばり（名）〔南〕ひばり（雲雀）

うしろぐし（名）〔南、河〕袴などの後腰。

うしろべご（名）〔山〕ありぢごく。すりばちむし。

うすえぁらしぐねぁ（形）〔北〕小面憎い。
「うすえぁらしくねぁ奴だ。」

うすぎり（名）〔南〕おしきり（押切）（草切）

うんずぐ（動四）〔雄〕ふざける。
「隨分うんずぐ子供等だ。」

うすんげぁに（副）〔河〕大層、大いに。
「父からうすんげぁに怒られた。」

うずげる（動下一）〔鹿、北、平〕ふざける。戯れる。
「そんなにうずげるな。」

うすこげ（名）〔平〕おろかもの。

うすんば（名）〔北〕小刀、菜切庖刀。

うずんば（名）〔平〕恭儉。

「うずんばだ人だ。」

うそこぎ（名）〈山、南、仙、平、雄〉 うそこき。

うそこぐ（動四）〈鹿、山、南、平、雄〉 うそを云ふ。

「よくうそこぐ人だ。」

うそまげ（名）〈北〉 うそをいふもの。

うそまげる（動下一）〈鹿、山、南、平、雄〉 うそつく。

「君はよくうそまげるぞ。」

うんだがら（接）〈平〉 それだから。

「うんだがら、そんなことするもんでない。」

うんだたて（接）〈平〉 それでも。

「うんだたて聞かないもの。」

うだで（形）〈鹿、南、市、仙〉 悲惨な、いやな。

「あそこの家は、うだでものだ。」

うだる（動下一）〈由〉 拾てる。

「餅をうだた。」

うちぇぁ（形）〈鹿〉 うるさい（五月蠅い）

「ああうちぇぁ子だ。」

うっかず（名）〈雄〉 輕卒。

うっすんげぁだ（形動）〈南、平〉 おほきな（大きな）

「あの牛はうっすんげぁだ牛だな。」

うって（副）〈河、由〉 うんと。

「栗うって拾つて來た。」

うっと（副）〈由〉 非常に、うんと。

「うっと、たべれ。」

うつんぶさ（名）〈雄〉 うつぶし（俯）

うつわ（名）〈仙、平〉 うちは 團扇。

うんて（副）〈河〉 うんと。

「うんて走れ。」

うでっと（副）〈河〉 早朝に。

「父はうでっと、出て行つた。」

うど（名）〈平、南、雄、由〉 中空。

「うど木。」

うんにゃ（副）〈鹿〉 いや。

「うんにゃ、そんなことはだめだ。」

うまこ（名）〈雄〉 みづすまし。

うまもの（名）〈平〉 馬糧。

うまれそぐなれ（名）〈河〉 うまれそこなひ（生損ひ）

うみねご（名）〈河〉 かもめ（鷗）

うめぁ（形）〈由〉 うまい。

「このお菓子はうめぁ。」

うら（名）〈南、雄、平〉 だいべんじょ。

うらおれ（名）〈平〉 便の様子。

うらかぐず（名）〈平〉 屋後の邊。

うらっこ（名）〈仙〉 梢。

うらっぺ（名）〈市、平〉 こずゑ（梢）

うらぱし（名）〈鹿〉 尖端。

うらぺ（名）〈河、仙、由〉 梢。

うらぽえ（名）〈雄〉 こずえ（梢）

うるがす（動四）〈南、仙、平〉 浸す。

「米をうるがす。」

うるし（形）〈雄〉 うれし（嬉しい）

「お祭でうるしいな。」

うるんずめ（名）〈市、河〉 目高。

うるせぁ（形）〈仙、平〉 うるさい。

「うるせぁ小供等だ。」

うるだぐ（動四）〈南、平、由〉 あはてる。

「火事があつてもうるだぐな。」

うるみご（名）〈南、河、平、雄、由〉 めだか。

うるめ（名）〈北〉 目高。

うるめこ（名）〈山〉 めだか。

うるめご（名）〈由〉 めだか。

うろご（名）〈平〉 ふけ（雲脂）

うろだぐ（動四）〔市、仙、雄〕 狼狽する。
「少しの事にうろだぐ人だ。」

うわかつら（名）〔雄〕 うはつら（上面）

うわっぱり（名）〔南、仙、平、雄〕 上衣。

うんこ（名）〔北、南、仙、平〕 糞（小兒語）

うんじゃみた（連）〔北〕 うんと困難した。
「雪がふつてうんじゃみた。」

うんずだけ（副）〔北〕 うんと、澤山に。
「うんずだけ脊負はせる。」

うんて（副）〔鹿、北、仙〕 澤山、大層。
「うんて水がました。」

うんと（副）〔鹿、南、仙、平、由〕 澤山に、大層、一生懸命に。
「うんと人が集つた。」

うんとて（副）〔河、由、平〕 一生懸命に。
「うんとて書け。」

うんど（名）〔南、河、平、仙〕 うどん。

うんどん（名）〔市、平、雄〕 うどん。

◈え の 部

え（名）〔北、山、南、市、河、仙、平、雄、由〕 家。

え（助）〔鹿〕 よ。
「君のペンを借りたえ。」

え（助詞）〔雄〕 に。
「ほんとえされない。そんな危い所に上ると落ちるえきまつてる。なんぼえなるか數へれ。何んえ書いたか。」

え（形）〔鹿、南、市、平、雄由〕 よい。美しい。
「これは、えものだ。」

えー（感）〔河〕 はい。
父『太郎ゐるか』 太『えー』

えぁ（感）〔平〕 はい。
甲『昨日學校に行つたか』 乙『えあ』

えぁえは（連）〔鹿〕 いいよ。
「世話してもらはなくても、えぁえは。」

えぁさつ（名）〔雄〕 あいさつ（挨拶）

えぁず（代名）〔市、河、平、雄、由〕 あいつ（彼奴）

えぁずげぁだもの（連）〔平〕 あんなもの。

えぁそ（名）〔雄、平〕 あいそ（愛想）

えぁんつきたもの（連）〔雄〕 あんなもの（卑語）

えぁてたもれ（連）〔鹿〕 あるいてください。
「さきにえぁてたもれ。」

えぁな（名）〔鹿、北〕 長男、兄。

えぁのゆ（名）〔由〕 鮎。

えぁへぁし（副）〔平、雄〕 座配師、座の世話人。

えぁんべぁに（形）〔平、雄〕 いゝ加減に、善い鹽梅に。
「えぁんべぁにして置け。」

えぁらしぐねぁ（連）〔雄〕 あいらしくない。
「なんてえぁらしぐねぁ子供だらう。」

ええんべ（名）〔雄〕 よいでせう。
「かうしてもええんべ。」

えが（名）〔山、南、平、雄、由〕 いか（烏賊）

えが（連）〔山、南、市、平、由〕 よいか。
「海へ行つてもえが。」

えか（名）〔南、平〕 いが。

えかあだま（名）〔南〕 ざんぎりあたま。

えがすか（連）〔市〕 よいですか。

えがねぁしな（連）〔北〕 參りませんか。
「これできめてえがすか。」

えがねぁな（連）〔鹿〕 行かないか。
「あなた、えがねぁしな。」

えがねばなねぁ（連）〔鹿〕 ゆかねばならぬ（行かねばならぬ）
「俺と一緒にえがねぁな。」

「停車場へえがねばなねぁ。」

えがはれ（連）〈由〉 ゆきなさい。

「早くえがはれ。」

えがはんて（連）〈南〉 行くから。

「私も今えがはんて待つて下さい。」

えがんべ（連）〈鹿、山、南、雄、仙〉 いいでせう。

「かうしてもえがんべ。」

えがほがで（副）〈市〉 言葉がとぎとぎして。

「彼の男の物の言ひ様はえがほがでものだ。」

えがむ（動四）〈河、平、雄、由〉 啀む、ひどく叱る、ひどく泣く。

「あの犬、えがむ。昨日お父さんに、えがまれた。うちの子はえがんで困る。」

えがらもがら（副）〈市〉 よろよろ。

「隣のお爺さんはえがらもがらしながら毎日畑の手入してゐる。」

えがれぁこい（形）〈平〉 妙に辛い（適當の語なし）

「此のいもはえがれぁこくて食はれない。」

えがんしぇ（連）〈山〉 行きなさい（中流の婦人語）

「茸取りにえがんしぇ。」

えがわ（名）〈市〉 緣側。

えぎ（名）〈仙〉 ゆげ（湯氣）

えぎしなに（副）〈鹿〉 行くついでに。

「君が行きしなに寄つて行つてくれ。」

えぎしまに（副）〈平、雄〉 行きしなに。

「えぎしまによつてゆく。」

えきしめぁに（副）〈雄、平〉 行きしなに。

「1、學校に行きしめぁに私の家に寄つて呉れ。」

「2、學校に來しめぁに。」

えきたい（形）〈平〉 むしあつい。

「えきたい天氣だ。」

えきてぁ（形）〈由〉 暑苦しい。

「えきてぁ天氣だ。」

えぎなり（副）〈南、平〉 さつそく（早速）

「菓子を呉れたらえぎなり食つてしまつた。」

えきなる（連）〈鹿、南、河、平、雄〉 得意になる。

「出來ると思つてえきなる奴だ。」

えきになる（連）〈北、由、平〉 得意になる又は生意氣になる。

「あの生徒は少し出來るとえきになる。」

えーきになる（連）〈平、雄〉 得意になる。たかぶる。

「あの人はえーきになる人だ。」

えぐ（副）〈雄、南、由〉 善く。

「えぐ書け。」

えぐ（動四）〈鹿、山、南、仙、雄〉 行く。

「何處へえぐ。」

えぐごった（連）〈鹿〉 行くだらう。

「町にえぐごった。」

えぐじ（名）〈山、南〉 三つぐち。

えぐす（動四）〈南、河〉 よこす。

「貸した本をえぐさない。」

えぐつわり（形）〈平〉 居心地わるい。

「えぐつわり家だ。」

えぐねぁ（形）〈鹿、北、平〉 よくない。

「えぐねぁ事ばかりする。」

えぐべし（連）〈平〉 行きませう。

「一緒にえぐべし。」

えぐゎんじゃ（形動）〈河〉 嫉ましい、馬鹿くさい。

「人の成功をえぐゎんじゃがる。用に立ちさうもないが、すてるもえぐゎんじゃだ。自分より出來るものをえぐゎんじゃにする。」

えげぁ（副）〈河、雄、由〉 大層、目立つ位。

「随分えげぇ人が居つた。」

えげぇ（連）（山、南、雄） よいか。

「這入つても、えげぇ。」

えげずるい（形）（鹿） ずるい。

「あの子はえげずるい子だ。」

えげだ（形動）（平） 出すぎた。

「えげだ人だ。」

えげてぇ（形）（鹿） みにくい（醜い）

「えげてぇ着物だ。」

「えげてぇ童だ。」

えげてぇふと（連）（鹿） 癩病にかかつた人。

えげほえど（名）（北） 吝嗇者。

えげる（動下一）（鹿、南、市、河、平、雄、由） うづめる。

「死んだ犬をえげる。」

えご（連）（平、雄） 行かう。

「學校にえご。」

えご（名）（雄） くわゐ（慈姑）

えこえごじ（形）（平） 言葉がとげとげしい。

「あの人えこえごじさべりする人だな。」

えごがす（動四）（南、河、由） うごかす。

「舟をえごがすな。」

えごぐ（動四）（全縣） 動く、働く。

「この風では、家もえごぐな。」

えごちゃわり（形）（南、市、河） 居心地悪い。

「この家は何だか、えごちゃわり。」

えごなし（名）（平） 一種の小さい實の林檎。

えこもこて（副）（雄） 言葉がとげとげして。

「一寸したことにでもえこもこておる。」

えこらんべぇに（副）（平） よい加減に。

「えこらんべぇに書いてやれ。」

えこらまこらて（副）（市、河）言葉がとげとげして。

「彼の男の言ひ振りはえこらまこらて困る。」

えこらもこらて（副）（雄） 言葉がとげとげして。

「えこらもこらで話つきの人だ。」

えごる（動四）（南、平） いかる（怒）

「あまり、えごるな。」

えごわるい（形）（平） 意地わるい。

「えごわるい奴だ。」

えさげぇ（名）（由） 喧嘩、爭ひ。

えさんど（名）（南、河、仙、由） 留守居。

「たったひとりえさんどしてゐる。えさんどはどんな勞働よりもきらひだ。」

えさんばや（名）（雄） いさばや。

えんざめぇ（名）（平） 行儀。

えし（連）（北） よいです。

甲『御飯あげるか』 乙『えし』

えしぇる（動下一）（平） ふてる。

「えしぇてなんにも仕事しない。」

えじぇげ（名）（仙） どぶ。

えしから（名）（由） 河原、礫原。

えんじ（形）（平） 眼がいたい。

「ごみがはいつて眼がえじ。」

えじがかじが（副）（平） 何時かは。

「えじがかじが、きつと遊びにいく。」

えんじぐ（名）（河） いちご（苺）

えんじくされ（名）（南、平、由） 意地張り者。

えんじげ（名）（平） どぶ（溝）

えんじこ（名）（平） 占師。

えんじご（名）（南） いちご。

えじんじ（名）（河、平） 一日一杯。

「えじんじ飲んだ。」

えじんつかん（名）（由） いちじかん（一時間）

えんじめ（名）〔南、市、平、由〕赤兒を入れ置く器。
えしゃげぁ（名）〔仙、平〕いさかひ、爭闘。
えんじゃり（名）〔仙、平、由〕ゐざり。躄
えしょ（名）〔南、市、河、雄〕きもの（着物）
えしょがし（形）〔鹿、雄〕いそがはしい（忙がはしい）
「此の間はえしょがしな。」
えじらぐ（副）〔鹿〕たびたび（度々）
「えじらぐありがたう。」
えんず（名）〔南〕こんき（根氣）
えずんだが（副）〔平〕何時か。
「えずだがそんな事言つたよ。」
えずぐ（動四）〔平〕沈澱する。
「桶の底にえずぐ。」
えすげぁ（名）〔雄〕喧嘩、爭ひ。
えずんつかん（名）〔鹿〕一時間。

えすんずりこすんずり（副）〔河〕何時とはなしに。（減少する狀況に冠して）
「えすんずりこすんずりなくなつた。」
えんずばり（名）〔平〕がまん強い人。
えんずみ（名）〔由〕赤兒を入れる器。
えずりぎ（副）〔河〕始終。
「えずりぎ世話になつて。」
えせんばち（名）〔山、南、仙、平、由〕擂鉢。
えせる（動下一）〔鹿、雄〕すねる。ねぢける。邪魔する。
「あの子はえせて學校に行かない。」
えだ（名）〔南〕板。
えんだ（連）〔由〕やうだ。
「水の流れるえんだ。」
えだげ（副）〔平〕ひどいほど、充分に。
「えだげなぐれ。」

えだつな（形動）〔平〕ぶさはふな（無作法な）
「袴も着けないで、えだつな奴だ。」
えーたんばよ（連）〔仙〕いいことよ。
「さう馬鹿にするならえーたんばよ。」
えんだら（連）〔雄〕樣なら。
「行くえんだら取つてこい。」
えだらねぁ（連）〔山〕及ばぬ。
「わざわざ、腹へらすにえだらねぁ。」
えんだり（名）〔山〕よだれ。
えだわし（形）〔鹿〕おしい（惜い）
「これはえだわしくて呉れられない。」
えんちこ（名）〔雄、由〕いちこ（巫女）
えんちこ（名）〔平、雄〕赤兒を入れる器。
えちゃくちゃする（動さ變）〔北〕彼此紛雜する。
「或事件の爲めにえちゃくちゃして居る。」
えちゃまちゃど（副）〔平〕よちよちと。
「この子供はえちゃまちゃど歩く。」

えっかだ（副）〔北、市、河、平、雄〕毎度、何時も。
「えっかだ喧嘩する。」
えっかなが（名）〔由〕しんるゐ（親類）
えっきなる（動四）〔鹿、南、仙〕たかぶる、いゝ氣になる。
「あまりえっきなるな。」
えっく（副）〔平〕よく。
「あの橋をえっく見てこい。」
えんつこ（名）〔平〕巫女。
えっこ（名）〔鹿、北〕ぶんけ（分家）
えんつこ（名）〔北〕赤子を入れ置く器。
えんつこ（名）〔北〕鰰のすし漬。
えっこれぁべぁに（副）〔平〕いゝ加減に、適宜に。
「えっこれぁべにやればよい。」

えっしぎ（副）〈南、市、河、平、雄、仙〉毎度、常に。
「あの人はえっしぎ遊びに來る。」

えったんば（連）〈平〉よろしいったら。
「それでえったんばよ。」

えったべが（連）〈鹿〉行つたたらうか。
「どごさえったべが。」

えったんす（連）〈平〉ゆきました。
「太郎は今えったんす。」

えっちゃ（名）〈平〉父さん。

えっちょ（名）〈平〉いてふ（銀杏）

えっつぉも（副）〈平〉いつも。
「えっつぉも居ない。」

えっつぉん（副）〈雄〉いつも（何時も）
「えっつぉん負ける。」

えっつきだも（連）〈平〉あんなもの。
「えっつきだもとあそぶな。」

えっつに（副）〈鹿、北、山、南、市、河、由〉すでに、疾く。
「それならえっつに見たよ。」

えっつも（副）〈北、平、雄、由〉いつも。
「彼はえっつも遊んで居る。」

えっとこま（副）〈鹿〉ちよつと（一寸）
「えっとこま待つてくれ。」

えっぱ（名）〈雄〉いちは（一羽　一把）

えっぺ（副）〈山〉澤山、一番。

えっぺぁ（副）〈鹿、北、南、市、仙、平、雄、由〉たくさん。
「茶碗にえっぺある。お前えっぺ角力とつて見れ。」
「私の家にお菓子がえっぺぁある。」

えっぺぉ（副）〈北、南、河〉一つためしに、一番、一回。
「えっぺぉやつてみるか。」

えっぺぉこ（名）〈南、平、雄〉小さい人。

えつもかつも（副）〈北、南〉何時も。
「何時もかつも遊んで居る。」

えつらく（副）〈北〉何時も。
「えつらく世話になる。」

えっつんさき（名）〈雄〉一番先き。

えで（名）〈鹿、北、山、河〉父（下流の語）

えんで（名）〈河〉河岸の水溜。

えで（副）〈山〉一向。
「えで分らない。」

えでぇ（副）〈北、南、市、平、雄〉一向、全く、よくよく。
「えでぁ物云はない女だな。」

えでぁもがえぁ（連）〈北〉いかにもな。
甲『町は大變に賑であつた』乙『今日は選擧の日だ』甲『えでぁもがえぁ』

えてけ（連）〈由〉いってこい。
「日が暮れないうちにえてけ。」

えてたんせ（連）〈平〉いってください。
「此處は寒いからあっちにえてたんせ。」

えでんば（連）〈北〉よいといふのに。
「書かなくともえでんば。」

えんど（名）〈南、雄、由〉ゐど。

えんどこ（名）〈山〉泉。

えどご（名）〈北、仙〉いひどころ、臺所。

えとごま〈北〉一寸。
「えとごま來い。」

えどころ（名）〈平〉臺所。

えとまが（副）〈北〉一寸。
「えとまが來い。」

えなんべ（名）〈山〉稻部屋。

えなんべぁ（名）〈南〉稻置部屋。

えぬぎ 〈名〉〈山〉 圍爐裡。
えのぐ 〈動四〉〈鹿、山、由〉 動く。
「そこからえのぐな。」
えのし 〈名〉〈南〉 後妻。
えのながべんけ 〈名〉〈南〉 家の中にばかり居る臆病者。
えばん 〈名〉〈山、平〉 机。
えんび 〈名〉〈山、南、市、仙、由〉 ゆび(指)。
えんびがね 〈名〉〈山、南〉 指環。
えびる 〈動上一〉〈平〉 火中に入れて燒く。
「するめをえびる。」
えふぇぁ 〈名〉〈南、市、河、仙、平、雄、由〉 位牌。
えんぶす 〈動四〉〈平〉 けむくする。
「松葉でえんぶす。」
えんぷてぁ 〈形〉〈北〉 けぶたい。
「烟が立つてえんぷてぁ。」

えふり 〈名〉〈南〉 じまん(自慢)
えぷり 〈名〉〈平〉 片意地。
「えぷりだ人だ。」
えんぶる 〈動四〉〈南、仙〉 けむる。 いぶる。
「えんぶれば煤ける。」
えんべ 〈連〉〈南、市、平〉 よからう。
「貸したつてえんべ。」
えぺぁ 〈副〉〈南〉 試みに。
「えぺぁ、からして見れ。」
えぺぁ 〈名〉〈平〉 矮者。
「あの犬はえぺぁだ。」
えへんびりかぐ 〈動四〉〈市、河〉 わるふざけする。
「あまりえへんびりかぐとあとで泣くよ。」
えへる 〈動下一〉〈河、雄〉 ふてくさる。 邪魔する。
「そんなに、えへるな。」

えへん 〈連〉〈平〉 ゐません。
「父さんは學校に行つてえへん。」
えんぼ 〈名〉〈仙〉 瘤(小突起)
えぼぼっち 〈名〉〈由〉 かまきり(蟷螂)
えまあふぁ 〈名〉〈仙〉 繼母。
えまかが 〈名〉〈仙、平、雄〉 繼母、後妻。
えまかた 〈副〉〈平〉 直今に。
「えまかたきた。」
えまずに 〈副〉〈鹿、北〉 いまに(今に)
「えまずに鐘がなるよ。」
えまでで 〈名〉〈仙〉 繼父。
えまどど 〈名〉〈雄〉 繼父。
えめぁに 〈副〉〈雄、由〉 今に、後に。
「えめぁに學校にいく。」
えも 〈名〉〈山、南、河、仙、平、雄〉 ほうそう(疱瘡)
えもがお 〈名〉〈河〉 あばたづら。

えもご 〈名〉〈平〉 むかご。
えものご 〈名〉〈河、仙、平、雄、由、〉 さといも(里芋)
えやし 〈形〉〈仙、南、由〉 慾が強い(主として食慾)
「えやし子だな。」
えやんべんだ 〈連〉〈平〉 よいあんばいだ(良い鹽梅だ)
「この湯はえやんべんだ。」
えやる 〈動四〉〈河、平、雄〉 火がおこる。
「らんとえやって來た。」
えやんす 〈連〉〈鹿〉 ようございます。
「やめてもえやんす。」
えぁんて 〈連〉〈平〉 から、ゆえに。
「雨降るえゃんて合羽着る。」
えぁんてがら 〈連〉〈平〉 であるから、或はであるゆゑ。

「さうだえぁんてがら嫌はれるんだ。」

えるり（名）（平）ゐろり（圍爐裡）

えろこ（名）（仙）うろこ。

えわぱり（名）（河）上着袷（但農裝用）

えーわり（名）（南）理非、善惡。

えんか（名）（平、河）香氣、臭氣。

えんか（名）（南）物の香氣。

えんきてぁ（形）（平、由）暑い。

「なんとえんきてぁこと」。

えんぐゎ（名）（平）ほうせんくわ（鳳仙花）

えんこ（名）（北、平、雄、由）屎（兒童語）

えんこ（名）（山、南、河、仙、平、雄、由）いぬ子（犬）

えんし（連）（北、平、雄）よろしうございます。

甲『これかして下さい』乙『えんし』

えんしじゃ（連）（北）よいですよ。

えんたもの（連）（北、雄）様なもの。

「お前えんたもの。」

えんだら（連）（由）やうなら。

「行くえんだら賴む。」

えんちこ（名）（鹿、平）飯詰、赤兒を入るる器。

えんちこはだはだ（名）（河、平）鹽漬雷魚。

えんつこ（名）（由）うらなひし（占師）

えんつつぎ（名）（平）いぬつつじ。

えんでぁまが（副）（北）なるほど　道理で。

「えんでぁまが來ない。」

えんでぁもの（副）（北）なるほど。

「えんでぁもの來ないな。」

えんとし（名）（鹿）烟突。

えんぷて（形）（山）けむたい。

「家の中はえんぷてなー。」

えんぺ（名）（平）にごり酒。

えんぺつ（名）（北）鉛筆。（小兒語）

◆お　の　部

おい（名）（河）おゆ（御湯）

おいはん（名）（市）お晝飯。

おえ（名）（市、河、平）居間。

おえ（名）（南）佛壇などありて、普通客に應接する座敷。（家人の居間にあらず）

おえがだ（名）（平、雄）芝生。

おえっちゅー（感）（山）さぁさぁ、（失望したる時又は困りたる時の語）

「おえっちゅー、要らないのか。」

おえでこい（連）（山、南）おりてこい。

「早く二階からおえで來い。」

おえどこ（名）（平）乞食。

おえの（名）（平）狼。

おえまわり（名）（仙）奥女中。

おーございます（連）（河）おゝゝ御座います。（多う）

おか（助）（雄）しか又より。

「今は偶におか行かない。」

おが（名）（鹿、山、南、河、仙、、平、雄）母様。

おが（名）（鹿、平）妻、主婦。

おが（副）（鹿、北、南、市、河、仙、平、雄、由）多く。

あんまり、澤山。

「おが喰ふな。」

おがえ（連）（由）非常によい。

「太郎さんが來て、おがえ。」

おがさんべり（名）（仙、平、雄）おしやべり。多辯家。

おがし（形）〈山、南、仙、平〉　面白い、怪しい、疑はしい。
「どうもあれが盗つたやうだ。おがしぞ。」

おがしげだ（形動）〈南、市、河、平、雄、由〉　妙な、變な。
「おがしげだ手附をしてゐる。」

おがしんだ（形動）〈河、平〉　妙な、變な。
「あの人はおがしんだ人だ。」

おがす（動四）〈平〉　大きくする。
「此の木をおんがす。」

おがだつさま（名）〈平、雄〉　雷様。

おがちゃ（名）〈由〉　はゝさま（母様）

おがっちゃ（名）〈仙〉　母様。

おがなりさん（名）〈仙〉　雷様。

おかね（形）〈山〉　おそろしい。
「おかねくてお寺の前をあるくのはいやだ。」

おかねぁ（形）〈仙、雄、由〉　怖い。
「あゝおかねぁ。」

おんかねぁ（形）〈南、河、平〉　おそろしい。
「あゝ、おんかねぁ。」

おがはん（名）〈市〉　おかあさん（母様）。

おかんぶ（動四）〈仙〉　浮ぶ。
「木の葉がおかんだ。」

おかむんです（連）〈雄〉　恐れ入ります。
「これは誠におかむんです。」

おーがめ（名）〈南、市〉　狼。

おがる（動四）〈鹿、北、南、河、仙、平、雄、由〉　生長する。のびる。育つ。
「この兒は此頃急におがったな。」

おがわ（名）〈鹿、南、市、仙、平、雄、由〉　便器、おまる。

おぎ（名）〈山、南、仙、平、雄〉　火の小塊、火片。

おきためにあう（連）〈山、南〉　大きな目に逢ふ。
「犬におはれておきためにあつた。」

おぐ（動四）〈南〉　計算する。
「この問題おいたか。」

おぐれぁ（形）〈南、河、仙〉　氣品が高い。
「おぐれぁ人だな。」

おけー（形）〈平、雄〉　大きい。
「おけー石だ。」

おげぁぐ（名）〈河〉　おきゃく（お客）

おげぁけぁ（名）〈市〉　鬼事。

おけぁる（動四）〈鹿、北、仙〉　ころぶ（轉ぶ）
「走つて來て、おけぁた。」

おげぁれぁる（連）〈市〉　お歸りになる。

おごえす（名）〈平〉　鶯。

おごご（名）〈市〉　香の物。

おごんだ（形動）〈雄〉　大變な。
「おごんだことしてしまつた。」

おごった（形動）〈河〉　大變だ。
「それはおごった事だ。」

おごど（名）〈南、河、平、雄〉　大變なこと。

おごどした（連）〈平〉　大變な事をした。
「さあ、おごどして仕舞つた。」

おごどんでねぁ（連）〈仙〉　並大抵でない。
「女親の腕一つではおごどんでねぁ。」

おこねぁ（形）〈鹿〉　こはい（恐しい）
「お寺の裏はおこねぁ。」

おこらえる（連）〈雄〉　叱られる。
「今日も先生におこらえた。」

おごり（名）〈南〉　蝶。

おごる（動四）〈山、南〉　いかる（怒る）
「うんと、おごってあった。」

おごわえ〈名〉〈市〉 赤飯。

おこん〈名〉〈仙〉 黄。

おごん〈名〉〈河〉 うこん(鬱金)

おんざたんす〈連〉〈雄〉 おります(居ります)

「お父さんはおんざたんすか。」

おさる〈連〉〈平〉 敎へてもらふ。

「知らないところは先生からおさるよ。」

おんざる〈動四〉〈仙、雄〉 おいでになる。

「かならずおんざるだらう。」

おーさん〈名〉〈平〉 和尙さん。

おし〈形〉〈雄〉 ほしい。(欲い)

「あの本おし。」

おんじ〈名〉〈鹿、仙、平、雄、由〉 おとうと (弟)

おんじ〈名〉〈河〉 次男。

おしぇる〈動下一〉〈雄〉 敎へる。

「先生からおしぇでもらつた。」

おんじぁえ〈連〉〈市〉 お出でなさい。

「私のところにも少しおんじぁえ。」

おんじえおさんねぉ〈連〉〈河〉 手にあまる。

「おんじえおさんねぉ奴だ。」

おしぇ〈形〉〈山〉 おそい(遲い)

「歩行くにおしぇ子だ。」

おしえおまだ〈連〉〈北〉 無論。

おんじかし〈名〉〈雄〉 すゑのおとうと(末弟)

おんじこ〈名〉〈雄、由〉 おとうと(弟)

おんじきれ〈名〉〈北〉 弟(輕蔑語)

おじげ〈名〉〈平、雄〉 おしる、(汁)

おーじさま〈名〉〈仙〉 曾祖父。

おんじじ〈名〉〈雄〉 伯叔父。

おじのもり〈固名〉〈平〉 おほじろもり (大白森)

おんじまける〈動下一〉〈仙〉 おしやれする。

「何も出來ないくせにおんじまけて。」

おしもの〈名〉〈雄〉 すひもの。

おしゃしぶりだんす〈連〉〈雄〉 しばらくです。

「あら！おしゃしぶりだんすこと。」

おじゃす〈動さ變〉〈鹿〉 世話する。

おじゃすのはいやだ。」

おしゃめる〈動下一〉〈南、市、河、仙、平〉 押へる。

つかまへる。

おしゃる〈動下一〉〈鹿、北、南、由〉 つかまへる、押へる。

「鯉をおしゃめた。」

おしゃる〈動下一〉〈雄、平〉 おさへる。

「小鳥をおしゃる。」

「猫がねずみをおしゃるとこだった。」

おんじょ〈名〉〈山、南、市、河〉 からげんき(空元氣)

おんじょくう〈動四〉〈河〉 おどされる。

「おんじょくって逃げて行つた。」

おんじょくゎせる〈動下一〉〈河、平〉 虛喝する。

「おんじょくゎせると泣く子だ。」

おんじょくゎへる〈動下一〉〈南〉おどす。(虛喝する)

「おんじょくゎへたら、びっくりして逃げた。」

おしょし〈形〉〈市〉 はずかし。

「人に見られゝば、おしょしな。」

おしょる〈動四〉〈雄、仙、平〉 折る。

「枝をおしょるな。」

おしょれだ〈連〉〈仙〉 折れた。

「木の枝がおしょれだ。」

おしゅなこ〈名〉〈仙〉 ひな (雛)

おしゅなる〈動四〉〈市〉 起る。

「父がおしゅなる。」

おじる〈動上一〉〈鹿〉 おりる(下りる)

「汽車からおじる。」
當地方は落ちる、下りるの兩意味を逆に用ふ。
汽車からおちる。木から下りる。

おしれ（名）〔全縣〕 おしろい（白粉）

おしろっこ（名）〔平、雄〕 おしる（お汁）

おしんばじ（名）〔由〕 すゝめること（食物をすゝめる）

おずあば（名）〔平〕 乳母。

おずげ（名）〔南、市、仙、由〕 汁、おつけ。

おーずんず（名）〔平〕 曾祖父。

おせぁる（動下一）〔鹿、南、市〕 押へる。
「巡査は盗人をおせぁる。」

おせど（名）〔鹿〕 おいせどう（御伊勢堂）

おーぜみ（名）〔雄〕 あぶらぜみ。

おせる（動下一）〔鹿、河、仙、雄、平〕 教へる。
「本をおせる。」

おそあんぶねぁ（形）〔平〕 危險な。
「おそあんぶねぁ事するな。」

おぞい（形）〔雄〕 ませてる。發達が早い。
「あの子供はおぞい子供で、よくものがわかる。」

おそくらい（形）〔雄〕 うす暗い。
「この部屋はおそくらい。」

おそざまし（形）〔平〕 おそろしい。
「あの人の顔はおそざまし。」

おそぶえ（名）〔平、雄〕 くちぶえ（口笛）

おそぼろけ（名）〔雄〕 そしらぬふり。
「おそぼろけするな。」

おそれぁ（名）〔山〕 精靈棚。

おそろしねぁ（形）〔雄〕 非常な、大きい、恐しい。
「おそろしねぁ霰が降る。おそろしねぁ大根だ。」

おんだげる（動下一）〔南、河、平、雄〕 猫などが發情してつま戀ふためになく。

「猫がおんだげて來たな。」

おだじ（名）〔南、平、雄〕 十分食した外に食ふ食物。
「さーおだじもう一杯あかれ。」

おたた（連）〔鹿〕 疲れた。
「走つたら、非常におたゝ。」

おだはん（名）〔市〕 父樣。

おだや（名）〔市、雄〕 逮夜。

おんだる（動四）〔南、河、仙、雄〕 折る。
「その櫻の枝をおんだるな。」

おち（名）〔鹿、由〕 啞。

おちけ（名）〔由〕 生意氣。

おちける（動下一）〔山、雄〕 おす。
「おちけるな。落ちるから。」

おんちたしか（連）〔市〕 居りますか、行きましたか。
「おどさん、おんちたしか。」

おちぱ（名）〔河〕 おちば（落葉）

おちゃおげ（名）〔市〕 茶請。

おっかねぁ（形）〔鹿、北、市、河、平、雄、由〕 恐しい。
「おっかねぁ話だ。」

おっき（形）〔山、平〕 大きい。
「あの人はおっき人であつた。」

おっきおじさん（名）〔市〕 曾祖父。

おっけ（名）〔北〕 本家、大家。

おっけ（形）〔雄、平〕 大きい。
「おや、おっけ人だ。」

おつけ（副）〔南〕 後ほどに。
「おつけ後悔するな。」

おつける（動下一）〔仙、雄、平、由〕 押しつける。
「おつけるとあぶないよ。」

おっこ（名）〔南、平〕 一位。水松。

おっこ（名）〔雄〕お湯（小兒語）
おっこえー（感）〔山〕おやまあ。（びつくりした時に）
「おっこえー、この人。」
おっこねぇ（形）〔鹿〕恐ろしい。
「夜の一人歩きはおっこねぇな。」
おつこめられる（連）〔仙〕おしこめられる。（押込められる）
「おつこめられてばかりゐる。」
おっさん（名）〔平、雄〕和尚さん。
おっしょ（感）〔河〕おやまあ。
「おっしょ、大變だな。」
おっち（名）〔全縣〕おし（啞）
おっちゅ（感）〔北〕おゝ、ひどい（物を仕損じた時に發する語。）
おっつめる（動下一）〔雄〕上より壓しつける。
「人をおっつめる。」
おって（感）〔河〕無論さうよ（男子語、海濱地方）
おっぱ〔鹿〕尾。
おっぱ〔山、南、市、河、平、雄〕尾。
おっぱ（名）〔仙、由〕尾。
おでえび（名）〔仙〕母指。
おでっと（副）〔北〕最初、眞先に。
「おでっと先づよい物を取つた。」
おでっと（副）〔河〕早朝に。
「おでっと出掛けて行つたよ。」
おでどな（名）〔河〕一昨日。
おでんび（名）〔平〕母指。
おでゆんび（名）〔鹿、平〕母指。
おでらさん（名）〔由〕僧侶。
おでんとさん（名）〔仙〕お日様。

おど（名）〔鹿、山、南、市、河、仙、平、雄〕おとうさん（お父さん）
おど（名）〔雄〕夫。
おんど（名）〔鹿、北、山、南、河、平、仙〕社、お堂。
おどえんび（名）〔山、南、市〕母指。
おどえんび（名）〔河〕母指。
おんどがす（動四）〔北〕おどろかす（驚かす）
「小供をおんどがすな。」
おどがる（動四）〔鹿、仙〕めをさます。
「あまり騷ぐと、小供がおどがるぞ。」
おどかる（動四）〔雄〕目さめる。
「子供がおどかった。」
おどげぁ（名）〔鹿、北、山、南、市、仙、平、雄〕顎。
おどげぁる（動四）〔平〕落雷する。
「あちらの方へおどげぁったさうだ。」
おどげぁる（動四）〔平〕死ぬ。
「某は今日おどげぁった。」
おんどげんでねぇ（連）〔平、仙〕冗談でない。容易でない。
「本當に、おんどげんでねぇ。」
おんどげる（動下一）〔鹿、市〕しやれる、ふざける。
「あまりおんどげるな。」
おどごばっちゃ（名）〔北〕お轉婆。
おどごまちこ（名）〔河〕お轉婆。
おどでな（名）〔全縣〕をとゝひ。（一昨日）
「父がおどでな歸つて來た。」
おどゆび（名）〔平〕母指。
おなんくされ（名）〔南、河〕女（卑語）
「まさかの時にはおなんくされなど何にもならない。」
おなされる（動下一）〔雄〕うなされる（魘れる）

「夢におなされた。」
おなめ（名）〔鹿〕めかけ（妾）
おにがら（名）〔平、雄〕かぶとむし。（甲虫）
おにがらむし（名）〔由〕かぶとむし。
おにこぼえ（名）〔鹿、雄〕鬼ごっこ。
おにんぼつ（名）〔平〕おにごっこ。
おにゃ（名）〔仙、雄、平〕屋外の廣場、庭。
おにゃおにゃ（名）〔雄〕鬼ごっこ。
おねずぐり（名）〔平〕てんかん（癲癇）
おのげ（名）〔雄〕あふのけ（仰向）
おのんつから（副）〔河〕おのづから（自ら）
「おのんつから　さうなつた。」
おんば（名）〔山〕おばあさん（お祖母さん）
おんば（名）〔平、雄〕いもうと（妹）
おんばかし（名）〔平〕妹、（輕蔑語）
おばぐ（名）〔鹿〕わるくち（悪口）

おんばぐ（名）〔山、南〕贅澤。
おんばぐたげる（動下一）〔南、平〕大法螺吹く。
「おんばぐたける人だ。」
おんばこ（名）〔仙、平〕少女、處女。
おんばこ（名）〔平〕伯叔母。
おはじ（名）〔南、市〕飯櫃。
おはず（名）〔由〕おはつほ（初穗）
おはち（名）〔仙〕おひつ（お櫃）
おんばちゃ（名）〔由〕妹。次男、三男の嫁にも使用す。
おんばちゃ（名）〔市、仙、平、雄、由〕叔母さん。
おんばんちぁ（名）〔仙〕おばあさん（お婆さん）
おーばちゃ（名）〔平〕曾祖母。
おはつ（名）〔平〕おはつほ（御初穗）
おんばつぁ（名）〔平、雄〕叔母さん。
おばっつぁ（名）〔平〕弟の妻。

おんばる（動四）〔南、河、仙〕呼ぶ、呼ばる。
「いくらおんばつても返事しない。」
おーばんつぁ（名）〔仙〕曾祖母さま。
おひねり（名）〔市〕握飯。
おふぁが（名）〔市〕お墓。
おふぁる（固名）〔河〕おはる（お春）
おぶげ〔由〕うぶげ（産毛）
おんぶすな（名）〔雄〕うぶすな（産土神）
おんぶつな（名）〔由、山〕産土神。
おふりめぁこ（名）〔雄〕まゝごと遊び。
おふるめぁ（名）〔平〕ごしうぎ（御祝儀）
おふるめぁっこ（名）〔平、雄〕まゝごと。
おへぁれぁてたんしぇ（連）〔北〕おはひり下さい。
「一寸おへぁれぁてたんしぇ。」
おへさま（名）〔南〕御伊勢様。

おんべる（動下一）〔鹿、山、南、河、仙、平、雄、由〕おぼえる。
「本をおんべる。」
おんぼぎ（名）〔雄〕うぶ着（産衣）
おんぼけ（名）〔河〕裁縫箱。
おんぼげ（名）〔南〕裁縫箱。
おんぼげ（名）〔鹿〕糸紡籠。
おんぼけねぁ（形）〔仙〕あどけない。
「おんぼけねぁ人だ。」
おんぼこ（名）〔鹿、北〕こども、赤子。
おんぼしな（名）〔鹿、仙〕うぶすな（産土神）
おほじねぁ（形）〔仙〕おかたじけない。
おんぼで（形）〔山〕おもい（重い）
「おぼで荷物だな。」
おんぼでぁ（形）〔南、市、河、仙、平、雄〕重い。
「おんぼでぁ子供だ。」

おほりねぁんす（連）（雄）　恐れ入ります。勿體ありません。

「澤山いたゞいて、おほりねぁんす。」

おんぼる（動四）（鹿）　おんぶする（背負ふ）

「子供をおんぼる。」

おーまぐれぁ（名）（仙）　大食家

おみ（名）（由）　海。

おみごすさん（名）（雄）　げんのしようこ。

おむ（動四）（鹿）　つむぐ（紡ぐ）、績む。

「いとをおむ。」

おめ（名）（南、河）　おもひ（思ひ）

おめぁ（名）（河）　居間、茶の間。

おめぁ（代名）（全縣）　お前。

おめぁだ（代名）（平）　お前達。

おめぁはん（代名）（市）　お前樣。

おめはれて（副）（河）　公然得意になつて。

「おめはれで夫婦になつた。」

おめらだ（代名）（山）　お前達。

おもえば（副）（平）　たてば、經つと。

「もう三日おもえば友達が來る。」

おもくらし（形）（雄）　重々し、おごそかなり。

「(1)今日の式はおもくらしがつた。」

「(2)あの人はおもくらし人だ。」

おもしぇ（形）（雄、由）　おもしろい（面白い）

「活動寫眞はほんとうにおもしぇ。」

おもせ（形）（平）　面白い。

「おもせ人だ。」

おもしれ（形）（平、雄）　面白い。

「此の遊びはおもしれ。」

おもて（名）（市、平）　屋前の道路。

おもでぁ（形）（平、雄）　おもい。

「おもでぁ子だ。」

おもーと（副）（雄）　たつと（經つと）

「しばらくおもーと雪が降る。」

おもやじんだ（形動）（仙）　おつくうだ。（億劫）

「おもやじんで行かれない。」

おもやみする（動さ變）（平）　おっくうがる。

「書くにおもやみする」。

おもる（動四）（鹿）　思ふ。

「おらえげなぁどおもる。」

おや（名）（由）　本家。

おやかた（名）（鹿）　主人。

おやがだ（名）（河、仙、平、雄）　主人、富豪。

おやがだしゅ（名）（仙、平、雄）　富豪。

おやぐ（名）（山、河）　しんるゐ（親類）

おやげ（名）（南、由）　財産家。

おやげ（名）（山）　本家。

おやすめんせ（連）（雄）　おやすみなさい。

「兄さんおやすめんせ。」

おやだ（名）（平）　主人。

おやふこ（名）（由）　さゝくれ。

おやまげぁり（名）（平）　さとがへり（里歸り）

およ〳〵（感）（由）　おや〳〵。

「およ〳〵、大變な事した。」

およごし（名）（平）　あへもの（和物）

およる（動四）（市）　寢る。

「お母さんは、およつたよ。」

おら（代名）（鹿、山、南、市、仙、雄、由）　私、私共。

おらんだ（代名）（鹿、山、南、市、仙、雄、由）　吾々。

おらんだけ（連）（山）　私等ならば。

「おらんだけそんなこと出來ない。」

おらんだけぁ（連）（北、南）　吾々なら。

「おらだけぁ知らぬ。」

おらんだんば（連）（平）　私等なら。

「あの事もおらんだんば出來たのだ。」

おらどご（名）〈由、雄、平〉　私の家。

おれ（代名）〈全縣〉　私。

おれぁ（代名）〈南、市、仙、雄〉　わたくし（私）

おれっちぁ（連）〈由〉　おれがところさ　（己が處へ）

おれぁつぁ（連）〈雄〉　私に。

「おれぁつぁ一つ呉れ。」

おれぁどさ（連）〈河〉　おれがところさ（己が處へ）

「それ、おれぁどさ呉れ。」

おれだ（連）〈雄〉　下りた。

「梯子からおれた。」

おーれにゃなんし（連）〈平〉　ありがたう。（有難う）

「澤山いたゞいて、おーれにゃなんし。」

おーわい（感）〈山〉　おー、（驚いて云ふ）

「おーわい、これはどうしたものだ。」

おわばーい（感）〈山〉　大事なことが突發したとき、貴重な道具を過つて毀したときに、口を突いて出る語。

おんか（名）〈平〉　牡。

おんぐれぁ（形）〈平、雄〉　氣品が高い。

「あの人はどことなくおんぐれぁ。」

おんけ（名）〈河、平〉　虚榮、大言。

「おんけばりいつてゐる。ずゐぶんおんけだやつだ。」

おんこ（名）〈平、雄〉　伯叔父。

おんごど（名）〈市、仙〉　大變、大事。

おんごどした（連）〈雄、由〉　たいへんなことをした（大變なことをした）

「これはおんごどした、硝子をこはしてしまった。」

おんじ（名）〈雄〉　次男以下の男子。

おんじ（名）〈仙〉　末子。

おんちゃ（名）〈鹿、北、山、南、河、平、雄〉おとうと、次男。

おんちゃ（名）〈仙、平〉　叔父さん。

おんちゃめ（名）〈平、雄〉　次男、三男。

おんつぁ（名）〈平、雄〉　夫の弟、他人の弟。

おんつぁ（名）〈平、雄、由〉　伯叔父。

おんつぁん（名）〈市、河、平〉　伯叔父、次男、三男。

おんでもねぁ（連）〈平〉　案外な。

「おんでもねぁ儲事出來る。」

おんど（副）〈河、由〉　突然、急に。

「おんど惡くなった。」

おんど（副）〈仙〉　久しい間。

「やぁ、おんど來なかったな。」

おんど（名）〈南、山〉　お堂。

おんばぐもの（名）〈南、河〉　虚榮者。

か の 部

かいぐれぁ（名）〈平〉　菓子等を多く買うて食ふ事。

かいんぐゎえ（連）〈河〉　海外へ。

「かいんぐゎえ渡航す」

かいべぁぐ（名）〈山、河〉　開闢。

かいべつ（名）〈山、平〉　きゃべつ。

かうんす（連）〈平〉　買ひます。

「今日は本をかうんす。」

かえずき（名）〈由〉　雪さらひ。

かえびつ（名）〈山〉　たまな。

かえんぶし（名）〈河、仙、雄〉　蚊遣火。

がえり（副）〈平〉　無理に。

「菓子をがえりとる。」

かえる（動上一）〈仙〉　かりる（借）。

「本をかえる。」

かおそ〔名〕〔平〕かはをそ。

がおる〔動四〕〔平〕衰弱する、困る。

「病氣でがおった。」

かか〔名〕〔鹿〕犬。

かーかー〔名〕〔平〕子供方の着物。

かが〔名〕〔全縣〕妻。

がか〔名〕〔河〕着物(小兒語)。

がが〔名〕〔平、雄〕はゝ(母)。

がが〔名〕〔河〕主婦、母。

がっか〔名〕〔山〕下駄の齒につく塊。

かが゚なぐ〔動四〕〔平〕氣をもむ。

「あの人はかが゚なぐ人だ。」

かが゚んぼせ〔形〕〔由〕まばゆい、眩ゆい。

「今日天氣よくてかが゚んぼせ。」

がかもか〔副〕〔山、南〕混雜。

「家移りの時ががかもかした。」

がっかり〔名〕〔北〕水臼。

がき〔名〕〔北〕かど。(角)。

がぎ〔名〕〔全縣〕子供。(卑語)。

がぎ〔名〕〔鹿〕かいだん(階段)。

がっき〔名〕〔南〕段階。

がきがきでぁ〔形〕〔平〕堅さうだ。

「このだんごはがきがきでぁくて食はれない。」

かぎしんば〔名〕〔河〕生垣。

かぎ゚のはな〔名〕〔仙〕自在鍵。

かぎ゚のふぁな〔名〕同上

かぎ゚ひこ〔名〕〔雄〕穗をかぎにして互に引き合ふ遊びをする事。

がぎんびら〔名〕〔河〕子供達。(卑語)。

がぎんべら〔名〕〔南〕子供等(卑語)。

がっきり〔副〕〔平〕かくじつに(確實)。

「この事はがっきりやってもらふ。」

かぐじ〔名〕〔全縣〕家のうしろ。

がくび〔名〕〔雄〕頸っ玉。

がっくんび〔名〕〔市、南、仙〕頭、頸っ玉。

かっくらせる〔連〕〔鹿〕うつ(打)。

「悪いことするとかっくらせるぞ。」

かくるげ゚ぁし〔名〕〔鹿〕銀杏返。

かぐれっこ〔名〕〔仙〕かくれんぼ。

かぐれんぼち〔名〕〔南〕かくれんぼ。

かくれぼつ〔名〕〔雄〕かくれんぼ。

かくれんこ〔名〕〔山〕かくれんぼ。

かげ〔名〕〔河〕ねんねこ帶。

「かげかけてしっかりおんぶせ。」

がけ〔名〕〔由〕酒(小兒語)。

がっけ〔名〕〔平、雄〕おでこ(出額)。

かげし〔名〕〔仙〕かしどり(樫鳥)。

かげ゚じぇん〔名〕〔市〕蔭膳。

がげぁだ〔名〕〔仙〕子供等。(卑語)。

かげぶつ〔名〕〔全縣〕かげ゚ぼふし(影法師)。

かげぼっち〔名〕〔仙〕かげぼふし(影法師)。

かげ゚ぁる〔動下一〕〔鹿、雄〕こゞえる。

「手がかげぁで文字を書かれない。」

かげるっこ〔名〕〔仙〕競走。

かご゚〔名〕〔平〕桑子。

がご゚〔名〕〔河〕老馬。

がご゚〔名〕〔由〕洞窟。

かっこ〔名〕〔雄〕はなしゃうぶ。

がっこ〔名〕〔全縣〕學校。

がっこ〔名〕〔全縣〕香の物。

かっこ〔名〕〔由〕蠶箔。

がごんず〔名〕〔雄〕くゎんざう(萱草)。

かっこんばな〔名〕〔平〕をだまき。

かこんべ（名）〔山、平、由〕びく。
かっこんべ（名）〔山、南、市、仙〕魚籠、小さき手籠。
かごめ（名）〔南、平、雄〕鷗。
かごや（連）〔雄〕かかうや。
「圖畫かごや。」
かっころ（名）〔河、仙〕背中當。
がさ（名）〔平〕たにうつぎ。
がさぎ（名）〔河〕お轉婆。
がさくらじ（形）〔平〕締氣がない。
「がさくらじ子だな。」
かさこ（名）〔平〕吸物椀のふた（木製）。
かさつんぶり（名）〔平〕かさ頭又蝸牛。
かさぺねぁ（形）〔山、南、由〕威重に乏しい。
「かさぺねぁ人だ。」
かじ（名）〔鹿、北〕びっこ（跛）。

かしく（動四）〔雄〕かしぐ（炊ぐ）。
「飯をかしく。」
かしんべだご（名）〔平〕べらんめえの意。
「このかしんべだご、なにもよいことをしない。」
かしまめ（名）〔鹿〕はしばみ（榛）。
かしぇ（動四）〔市〕貸せ。
「それかしぇ。」
かんじぇる（動下一）〔南、雄〕數へる。
「五までかんじぇる。」
かじる（動上一）〔平〕飢ゑる。
「すて猫がかじて居た。」
かずかしべ（名）〔平〕冬にはく草鞋のやうなもの、鱗の様に編む。」
かすがる（動四）〔平〕傾く。
「あの家はかすがってゐる。」
がずき（名）〔南、仙、雄〕眞菰。

がすくゎせる（連）〔市〕僞をいふ。
「またがすくゎせられた。」
かすけ（形）〔由〕かしこい、賢い。
「あの人かすけな。」
がずげ（名）〔平〕同上。
かすげる（動下一）〔由〕かたむける（傾る）。
「瓶をかすげて中を見れ。」
かずげる（動下一）〔由〕かこつける（托）。
「人にかずげるな。」
かずしぬ（動四）〔南〕餓死する
「あまりびんぼーでかずしんだ。」
かずな（名）〔鹿〕ものを荷ふ繩。
かずなぐ（動四）〔南、河〕擔ぐ。
「天秤棒をかずなんぐ。」
かずのふし（名）〔南、市〕かつをぶし。
かすばげ（名）〔由〕やけ頭。

かんずりがげる（動下一）〔平〕半途にてやめる。
「何もかんずりがげるばかりだ。」
かぜ（名）〔雄〕うに（海栗）
がせぁねぁ（形）〔平〕よわい（弱い）
「この兒はよくよくがせぁねぁ。」
かせんばえー（連）〔鹿〕借せば良い。
「その本かせんばええ。」
かせる（動下一）〔鹿〕食はせる。
「その菓子かせれ。」
かんぜる（動下一）〔仙〕算へる。
「一つ二つとかんぜる。」
かそげ（名）〔南〕手桶。
かだうり（名）〔山、仙、雄〕白瓜。
かだがる（動四）〔全縣〕かたぶく（傾く）。
「あの爪は右の方へかたがる。」
かだぎ（名）〔由〕ふうてい（風體）。

かたぐじ（名）〈鹿〉 ちりとり（塵取）。
かだげわり（形）〈山、南、市、平〉 意氣が揚らない。
「親のない子はかだげわりものだ。」
かだごど（名）〈鹿〉 ゑんりよ（遠慮）。
「あの人は實にかだごどだ。」
かだこんび（名）〈鹿、山〉 かたはら（側）。
かんだじ（名）〈平、仙〉 雷。
かだんずぐ（動四）〈由〉 とつぐ（嫁す）。
「あの女はとなりの村にかだずいだ。」
かだつんぶり（名）〈山、由〉 蝸牛。
かたつんぶれ（名）〈南〉 かたつむり。
かだつり（名）〈平〉 片意地。
かだんで（副）〈河、平〉 全く。
「かだんで見えなかった。」
かだてえぐ（連）〈北〉 ついて行く。
「おれもかだてえぐ。」
かったでる（動下一）〈平〉 かきたてる。
「雞が畑かったでる。」
かだねご（名）〈山〉 かもめ。
かだひた（名）〈雄、平〉 片方。
かだっぱり（名）〈山、平〉 片意地。
かだんぴた（名）〈平〉 片一方。
かだむ（動四）〈山〉 怠ける。
「よくよくかだむ女だな。」
かだらせる（連）〈全縣〉 加入させる。
「お前をかだらせるから此處へ來い。」
かだる（動四）〈全縣〉 仲間入りをする。
「君も俺の組にかだれ。俺は君の方にかだる。」
かだわ（名）〈仙〉 不具者。
かんちか（名）〈南〉 河鹿、かじか。
かちがれる（連）〈北〉 追ひつかれる。

「逃げてもとーとーかちがれた。」
かんちける（動下一）〈全縣〉 罪を他に被せる。
「さう何でもかんちけるな。」
かちゃ（名）〈平〉 反對。
かっちゃ（名）〈鹿〉 殼。
「かっちゃ落ちてゐた。」
がっちゃ（名）〈仙〉 母。
がっちゃぎ（名）〈南〉 痔の一種、肛門病。
かっちゃぐ（動四）〈全縣〉 引きかく。
「猿がかっちゃだ。」
かっちゃに（副）〈南〉 あべこべに、反對に。
「着物をかっちゃに着た。」
かちゃばき（名）〈由〉 松葉さらひ、又こまざらひ。
かちゃぺねぁ（形）〈山〉 品格がない。
「あの人はかちゃぺねぁ人だ。」
かちゃま（名）〈鹿、由〉 うら、反對。
かちゃむぐれ（名）〈雄〉 はんたいしゃ（反對者）。
「あの人はかちゃむぐれだ。」
がちゃめぎ（名）〈北〉 水たまり、泥濘。
かっつ（名）〈河、仙、平〉 人家に遠き山奥。
がっつぁ（名）〈平〉 主婦。
かっつぁがす（動四）〈仙〉 かきさがす。
「机の中をかっつぁがすな。」
かっつぎ（名）〈由〉 苗代に入れる綠肥の事。
かっつく（動四）〈仙、雄〉 追ひつく。
「走ってあの人にかっつく。」
かつぐ（動四）〈雄〉 追ひつく。
「走って先の人にかつだ。」
かつぐ（動四）〈平〉 追ひつく。
かつぁく（動四）〈雄〉 爪にてひっかく。
「猫にかつぁかれた。」

「走ればかつぐ。」

かつぶし（名）（雄）鰹節。

かつる（動下一）（雄）飢ゑる。

「食物がつきてかつる程になった。」

かて（助）（山、平、由）……のために。

「犬にかてかまれた。」

かでぁ（形）（全縣）かたい。又謹直なる事。

「かでぁもちだこと。」

かでたんしぇ（連）（北）仲間に入れて呉れ。

「この子をもかでたんしぇ。」

がてぁんなねぁ（連）（山、平）合點行かない。

「それはがってぁんなねぁ。」

かてぱずす（動四）（平）仲間からのける。

「おまへのやうに悪い奴はかてぱずすぞ。」

がってらねぁ（連）（平）合點が行かぬ。

「がってらねぁ話だな。」

かでる（動下一）（河）加入させる。

「彼を遊戯にかでる。」

かど（名）（河、平、雄）河骨。

かんど（名）（南、由）にしん。（鰊）。

がんど（名）（山）うつろ（空洞）。

がっと（副）（河）早朝に。

「父はがっと出て行った。」

かっとす（動四）（平）追ひ越す。

「かっとして先になった。」

かんながら（名）（南、山）かんなくづ（鉋屑）。

かながれ（名）（仙）かはながれのき（川流木）。

かなぎ（名）（山）かいらぎ（梅華皮）。

かなぎ（名）（仙）目高。

かなすべり（名）（鹿）スケート。

かなつんぶ（名）（河）蝸牛。

かなへんび（名）（平、山）とかげ。

がに（名）（全縣）かに（蟹）。

かねぁ（連）（平、雄）食はない。

「菓子などかねぁ。」

かねぁ（名）（雄）家內。

かねぁ（連）（鹿）買はない。

かねがっぱ（名）（仙）雪辷下駄。

「高値を云ふからかねぁ。」

かねぁんしな（連）（平雄）食ひませんか、買ひませんか。

「これかねぁんしな。」

かねもず（名）（山、平）金満家。

かんの（名）（平）鮭の雄。

かのか（名）（北）一種の芝。

かのご（名）（南）一種の芝。

かのはし（名）（平）げんのしょうこ。

がっぱ（名）（全縣）一種の下駄（足駄でなく）。

かばけ（名）（雄）川岸。

かっぱこ（名）（山）げんごらう虫。

がばじ（名）（北）ぎぎ。（魚の一種）。

かぱんじする（動さ變）（山）過失をする。

「かぱんじして水をかけた。」

かんばた（南、河、市、平）川端。

かぱどり（名）（平）水に溺れること。

かんばね（名）（由）からだ（軀體）。

かっぱり（名）（仙、河）水に落ちる事。

かぱりとった（連）（鹿）おぼれた（溺れた）。

「子供がかぱりとった。」

がばる（動四）（鹿）叱る。

「いたづらしてがばられた。」

がんばる（動四）（全縣）頑張る。

「いくらがんばっても白は白さ。」

がばん（名）（市）かばん。

がっぱん（名）〔鹿〕 かばん（鞄）。
かんぷける（動下一）〔南、市、平〕 かびる。
「干餅がかんぷけた。」
かぷこ（名）〔平〕 蕪菁（かぶ）。
かんふてる（連）〔雄〕 かぶってゐる（被ってゐる）。
「髪をかんふてる。」
かんぶりつぐ（動四）〔平〕 かみつく。
「犬が人にかんぶりつぐ。」
かんぶりふる（動四）〔雄〕 厭といって頭を振ること。
「かんぶりふって食べてゐる。」
かんぶれる（動下一）〔河〕 漆氣などに感じて赤くはれること。
かんぶれる（動下一）〔平〕 かびる。
「餅がかんぶれる。」
かんぶん（名）〔平〕 ありがたう。

がべ（連）〔雄〕 だらう。
「澤山もらってかんぶんであります。」
「食ひでがべ。」「足らねがべ。」
がっぺ（名）〔河〕 幼兒。
かんべぬり（名）〔山、市、仙〕 左官。
かっぺら（名）〔平〕 くづはり（屑張繭）。
かっぽ（名）〔雄、由〕 耳のよく聞えぬ人。
がほらっと（副）〔平〕 あたりの廣い狀態。
「家の中ががほらっとしてゐる。」
かんぽん（名）〔山〕 ありがたう。
「どうもかんぽん。」
がま（名）〔山〕 沼。
かまう（動四）〔南、河〕 からかふ。いぢめる。
世話する。
「あんな者にかまうな。」
かまけぁし（名）〔南、河、平、由〕 破産者。

かまけぁす（動四）〔雄〕 破産する。
「あの家ももう少しでかまけぁすだらう。」
かまこ（名）〔鹿、山、北、南、市河、仙、雄〕 鐵瓶。
かます（名）〔山、市、河、仙、平、雄〕 下手な大工。
かんます（動四）〔平〕 釀す。
「新酒をかんます。」
かんます（動四）〔南〕 掻き廻す。
「人のものをあまりかんますな。」
かまんでこ（名）〔山〕 しちりん臺。
かまんど（名）〔南〕 財產、世帶。
「私の家にはあまりかまんどはない。」
かまんど（名）〔仙〕 果實の芯。
かまんどけぁし（名）〔仙、平〕 破產者。
かまんどけぁした（連）〔平〕 財產を失くした。
「あしこの家でかまんどけぁした。」
かまんどこ（名）〔鹿、山〕 別家。

かまんどもち（名）〔山、平〕 主人。
かまんぶぐ（名）〔全縣〕 かまぼこ。（蒲鉾）。
かまり（名）〔仙〕 香。
かみえ（名）〔山〕 とこや。（床屋）。
かみえど（名）〔鹿〕 とこや。（床屋）。
かみしり（名）〔南〕 剃刀。
かむ（動四）〔南〕 かぐ。（嗅ぐ）。
「その香かんでみれ。」
がむし（名）〔市、河〕 毛蟲。
がめ（名）〔全縣〕 龜。
がも（名）〔南、仙〕 男兒の陰部。
かも（名）〔山、平〕 男陰。
かもー（動四）〔山、北、市、雄、由〕 いぢめる。からかふ。
「あの子は家の子供をかもー。」
かもで（名）〔鹿〕 かみかざり。（髪飾）。

かものげっこ〔名〕〔平〕蝙蝠。
かもり〔名〕〔平〕蝙蝠。
かもりかっか〔名〕〔仙〕蝙蝠。
かもりげっこ〔名〕〔平〕蝙蝠。
かもわねぁ〔連〕〔平〕關係せぬ。
「以後一切かもわねぁ。」
かやぎ〔名〕〔山、市、平〕だいなべ（臺鍋）。
かやで〔名〕〔南〕草屋根を葺く人。
かやんぶぎ〔名〕〔平〕かやんぶき（茅葺）。
から〔名〕〔仙〕河原。
がら〔名〕〔河〕つらら（氷柱）
からえし〔名〕〔鹿〕かるいし（輕石）。
からおい〔名〕〔平〕たちあふひ（立葵）。
からおえ〔名〕〔仙〕からあふひ。
からがく〔動四〕〔山〕絡ぐ。
「糸でからがく。」

からがみ〔名〕〔由〕ふすま。
からがらず〔名〕〔南、雄〕ぎゃうぎゃうし。よしきり。
からきじ〔名〕〔仙〕空威張。
からくじ〔名〕〔鹿〕あくこう（悪口）。
からぐる〔動四〕〔平〕繩などでしばる。
「繩で荷物をからぐれ。」
からすまっこ〔名〕〔平、雄〕烏瓜。
からすみんず〔名〕〔平〕つりぶねさう。
からつけぎ〔名〕〔由〕マッチ。
からてっぺ〔名〕〔北、南〕あたま（卑語）。
がらっと〔副〕〔仙〕すっかり、のこらず。
「今までの雨ががらっと霽れた。」
がらんび〔名〕〔河〕鹽引。
からぴっぴ〔名〕〔南〕ふうせんだま（風船玉）。
からへび〔名〕〔山、南〕とかげ。

からぼねやみ〔名〕〔北〕のらくらもの、怠けもの。
からぽやみ〔名〕〔山、南〕怠け者。
からまんざ〔名〕〔平、雄、仙〕輕業。
からもむ〔動四〕〔仙、雄〕氣を揉む、もがく。
「からもんでばかり居る。」
かりご〔名〕〔北〕下男。
かりさん〔名〕〔平〕子供用野袴。
かる〔動四〕〔鹿〕かふ（買ふ）。
「本をかる。」
かるがる〔副〕〔南〕かはるがはる。
「かるがる水のめ。」
かるけ〔形〕〔南〕かるい（輕い）。
「非常にかるけ箱だ。」
かるこえ〔形〕〔仙〕かるい（輕）。
「この石割合にかるこえ。」

かるまんざ〔名〕〔雄〕輕業。
かるまんじゃ〔名〕〔鹿〕輕業。
かれ〔形〕〔河〕かるい（輕い）。
かれる〔連〕〔平〕食はれる。
「鼠は猫にかれる。」
かれる〔動下一〕〔南〕借りる。
「本かれた。」
かろえし〔名〕〔仙〕浮石。
かろかろ〔名〕〔山〕からす（烏）小兒語。
かろけ〔形〕〔山〕かるい（輕い）。
「綿はかろけ。」
かろこえ〔形〕〔平〕輕い。
「この荷物はかろこえよ。」
かわえ〔形〕〔北、鹿〕はづかしい。
「笑はれるとかわえ。」
かわこただぎ〔名〕〔南〕かいつむり。

かわながれ（名）〔仙〕水死人。
かゑぁだ（連）〔鹿〕乾いた。
「乾物がかゑぁだ。」
かんか（名）〔全縣〕かみ（髪）。
がんかけ（名）〔南、河〕がけ（絶壁）。
かんかね（名）〔平、山〕かけがね。
かんかぼっこ（名）〔仙〕くひな。（水鶏）。
かんかんじぇみ（名）〔南、市〕ひぐらし（蜩）。
がんがんずぐ（副）〔雄〕ひどく堅く。
「道が埋ってがんがんずぐなった。」
かんかんどり（名）〔平、雄〕くひな（水鶏）。
がんくたま（名）〔南〕頭。
がんくび（名）〔北〕頭。
がんくら（名）〔北〕でこぼこ。
「石が出てがんくらになって居る。」
がんくら（名）〔平〕がけ。

がんけ（名）〔北〕崖。
かんこ（名）〔山、南、平〕髮。
がんご（名）〔雄〕うつろ（空洞）。
かんじゃし（名）〔山、鹿〕簪。
かんじょ（名）〔仙〕豫定、積り。
「明日行くかんじょだ。」
かんじょ（名）〔仙、平〕便所。
がんじょ（名）〔南、平、雄〕牡馬。
かんじょわり（形）〔山、平〕きまりがわるい。
「人前で叱られてかんじょわり。」
がんす（連）〔鹿〕ございます。
「さうでがんす。」
がんずく（動四）〔南、雄〕かんづく（勘付く）。
「あの事をがんずいたな。」
かんずける（動下一）〔平〕口實にする。
「病氣にかんずける。」

かんだ（連）〔雄〕かねた。
「遲れて汽車に乘りかんだ。」
かんだじ（名）〔鹿、平〕かみなり（雷）。
かんちける（動下一）〔平〕口實にする。言ひかぶせる。
「病氣にかんちけて學校を休んだ。」
かんてつ（名）〔平〕本氣なし者。
がんど（名）〔仙〕强盜。
がんどー（名）〔山、平〕盜賊。
かんとまめ（名）〔北〕南京豆。
がんばんぐじ（名）〔河〕がまぐち（蟇口）。
かんばん（名）〔山、市〕半纒。
かんぽ（名）〔南〕有難う。
「錢をもらってかんぽ。」
がんまん（名）〔仙〕にんたい（忍耐）。
「道が惡いががんまんしてゆく。」

きの部

きがっこ（名）〔由〕腕白者。
きかんず（名）〔南〕つんぼ。（聾）。
きかねぁ（形）〔山、雄〕荒い。つよい。
「あの小供ほんとうにきかねぁ。」
きがん（名）〔平〕つんぼ。
きかんぽ（名）〔仙〕わんぱくこぞう（腕白小僧）
きぎ（名）〔仙〕杵。
きっき（名）〔河、仙、由〕じゃんけん。
ききり（名）〔雄〕樵夫。
きぐおんき（名）〔南〕ちくおんき（蓄音機）。
きぐつ（名）〔平〕きゅうくつ。（窮屈）。
きーぐつ（名）〔雄〕きゅうくつ。（窮屈）。
きげぁ（名）〔鹿〕きがへ（着替）。
きける（動下一）〔雄〕きこえる（聞える）。
きげる（動下一）〔平、雄〕きこえる（聞える）。

「あの音がきげるか。」

ぎごつけねぁ（形）（河）無愛嬌だ。
「ぎごつけねぁ兒だ。」

ぎごつねぁ（形）（仙）きゅうくつだ（窮屈）。
「このものはせまくてぎごつねぁ。」

きごも（名）（由）荷を負ふ時に用ひるこも。

きさ（名）（平）草。

きーさい（形）（河）ちひさい（小さい）。

きさずまげる（連）（平）おしゃれをする。
「あの人はきさじまげること。」

きさずこぎ（名）（南、市、河、仙、雄）めかしや。
「あの子はずゐぶんきさずこきだ。」

きさん（代）（市、平、雄、由）貴様。

きじ（形）（鹿）壯健な。「きじ人だな。」

きんじ（名）（雄）短氣。「きじな人。」

きんじ（名）（雄）山鳥。

ぎじぎじ（名）（由）げぢげぢ。

ぎしゃく（名）（平）じしゃく（磁石）。

ぎしゃんばる（動四）（雄）りきむ。
「ぎしゃんばってきかない。」

きしゃわり（形）（南）困る、あきれる、うるさい、氣を惡くする。
「きしゃわりことする人だ。」
「彼の人はあまり饒舌で、きしゃわりくなる。」

きしる（名）（仙）煙管。

きすかげる（動下一）（平）喉ける。
「犬をきすかげる。」

ぎずぎず（名）（平）げぢげぢ。

きんずだ（形動）（平）おこりっぽい。
「あの人ほんとにきんずだ。」

きんずたける（動下一）（平）あらあらしくする、暴れる。

「あの人はきんずたける人だ。」

きんずたげる（動下一）（南、雄）立腹する、憤慨する。
「負けて、きんずたげてまたかかって來た。」

きせろ（名）（仙、由）きせる（煙管）。

きそ（名）（平）大便。

きぞぺぁねぁ（形）（雄）無愛想だ。
「あの人はきぞぺぁねぁ。」

きそへび（名）（南、市、平）まむし。

きそまぐらえ（連）（平）糞喰へ、罵倒語。
「なに、この野郎きそまぐらえ。」

きそり（名）（雄）藥。

きたぎる（動四）（雄）切る。
「この木をきたぎれ。」

きたんし（連）（雄）きました（來ました）。
「今きたんし。」

きたんせ（連）（北）おいでなさい。
「遊にきたんせ。」

きだふり（名）（山）しゃれること。
「彼奴きだふりだ奴だ。」

きち（名）（平）板庫。

きっち（名）（仙）水槽。

きちゃ（形）（仙、平、雄）小さい。
「この餅はきちゃな。」

きっちゃこい（形）（雄）小さい。
「きっちゃこい猫。」

きちゃさる（動四）（鹿）ささる（隅にかくれる）。
「雞が犬に追はれてすみにきちゃさった。」

きちゃす（動四）（南）刺す。
「針きちゃした。」

きっちゃす（動四）（河）突き通す。
「針をきっちゃす。」

ぎちょげぁだ（形動）〔雄〕 我を通して融通きかぬ。

「ぎちょげぁで、人の言ふ事は絶えて聞かぬ人だ。」

きつ（名）〔平〕 厚板にて箱のやうに造り、水などを入れるもの。

きっつ（名）〔雄〕 板倉。

きつい（形）〔仙〕 けはしい（険しい）。

「此の山坂はきつい。」

きっつぁが（名）〔平〕 急勾配。

きと（副）〔河〕 ちっと、わづか。

「俺にきとくれ。」

きどごね（名）〔鹿、山〕 うたたね（假寝）。

きどごろね（名）〔市、雄、由〕 うたゝね（假寝）。

きどり（名）〔由〕 樵夫。

きんな（名）〔北、山、由〕 昨日。

きなる（動四）〔平〕 腹がたつ。

「字をよくかけないできなる。」

きんにゃ（名）〔鹿、平〕 昨日。

きねしります（名）〔平〕 きのしります（木の尻鱒）。

きねんずみ（名）〔雄〕 りす。

きのご（名）〔平〕 とさかのある鶏。

きのしり（名）〔平、由〕 もえのこり（燃残り）。

きのみみ（名）〔北〕 猿の腰掛。

きのめ（名）〔平〕 あけびの芽。

きのもえ（名）〔北〕 同上。

きんばかむ（動四）〔平〕 ふんばつする。

「きんばかんでやれ。」

ぎばる（動四）〔鹿〕 いきむ。

「君あまりぎばると屁をたれるぞ。」

きび（名）〔雄、由〕 きみ（たうもろこし）。

きびょえ（形）〔山、仙、平〕 いゝきみだ。痛快だ。

「あの人ころんできびょえ。」

きびちょ（名）〔全縣〕 きふす（急須）。

きびょわり（形）〔仙〕 きみわるし（氣味悪し）。

「きびょわり夢を見た。」

ぎんぼずぐ（動四）〔河、平〕 焦る。

「あまりぎんぼずぐな。」

きまけぇす（動四）〔河〕 たまげる。

「ほんとにきまけぇした。」

きまげる（動下一）〔南、雄〕 立腹する、残念だ。

「算術出來ないできまげる。」

きまけぉる（動四）〔河〕 たまげる。

「きまけぉった話だ。」

きんみ（名）〔鹿、南〕 黍。

きみよ（名）〔山〕 かながしら（火魚）。

きめぁえ（形）〔鹿〕 よくはたらく（良く働く）。

「あの人はきめぁえ。」

きめぐ（動四）〔山〕 しかる（叱る）。

「あの人本當にきめぐ。」

きもやぐ（動四）〔鹿〕 怒る。

「騒げば先生がきもやぐ。」

きもゃやげる（動下一）〔北、鹿、由〕 腹立しい。

「笑はれればきもゃやげる。」

ぎゅーち（名）〔平〕 牛乳。

きゅり（名）〔平、雄〕 きうり（胡瓜）。

きゅーる（名）〔市〕 きせる（煙管）。

きりぎりす（名）〔平、雄〕 こほろぎ。

ぎりっと（副）〔南〕 さっぱり、斷然。

「こんどはぎりっとやめる。」

ぎりり（副）〔北〕 強く。

「ぎりりしめる。」

きる（名）〔河、平、雄、由〕 煙管。

きーるこ〔名〕〔雄〕煙管。

きるもの〔名〕〔山、仙、由〕着物。

きれぁ〔名〕〔仙〕げっけん(撃劍)。

きれぁ〔名〕〔全縣〕きらひ(嫌ひ

きろ〔名〕〔南〕煙管。

きろおの〔名〕〔平〕着物。

きんか〔名〕〔鹿〕聾。

きんきずく〔副〕〔平〕ぢゃうぶに(丈夫に)。
「落ちない様にきんきずくつなげ。」

ぎんな〔名〕〔由〕銀杏の實。

きんにゃ〔名〕〔山〕昨日。

きんの〔名〕〔平〕昨日。

◈く　の　部

く〔動四〕〔雄〕食ふ。
「御飯をく。」

くえ〔動四〕〔雄〕たべよ。
「この肴をくえ。」

くえ〔名〕〔仙〕ありまき。

くえる〔動下一〕〔由〕與へる。
「お菓子くえたが。」

くえる〔動下一〕〔仙、雄〕ふさぐ。
「寒いからその穴をくえる。」

くっか〔連〕〔山〕來るか。
「くっか來ないか、あてゝみれ。」

ぐぐど〔副〕〔北、市、河〕さっさと。
「用事が終へたらぐぐど歸れ。」

ぐーぐど〔副〕〔南〕さっさと。
「ぐーぐど行け。」

くぐり〔名〕〔由〕冬の服裝。

くんご〔名〕〔河〕くぐ(莎草)。

くさやら〔名〕〔雄〕くさむら。

くされ〔名〕〔河〕阿魔(女を罵倒して言ふ語)。

くされ〔名〕〔南、市、河、仙、平、雄〕不運。

くされたがる〔動四〕〔平〕不運が續く。
「くされたがって落物した上にせきにおちた。」

ぐんじ〔名〕〔山、市〕はぜ(魚)。

くじくれぁ〔名〕〔鹿〕こうろん(口論)。

くんじな〔名〕〔山、南、仙、平、雄〕くじら(鯨)。

くじびら〔名〕〔平、由〕くちびる(唇)

ぐじゃ〔名〕〔仙、雄〕饒舌。
「あそこの奥さんはぐじゃだ。」

ぐじゃぐじゃみち〔名〕〔平〕ぬかるみ。
「この道は近いがぐじゃぐじゃで駄目だ。」

くじゃだ〔連〕〔平〕散々にこはした。
「けさちゃわんをくじゃだ。」

くしゃび〔名〕〔山、雄〕くさめ。

ぐじゃわかす〔動四〕〔平〕饒舌する。
「ねえさんは又ぐじゃわかしてゐた。」

くしぇぁ〔形〕〔鹿〕くさい。
「石油くしぇぁ。」

くんじょ〔名〕〔山、市、仙〕不滿、不平。

くじょる〔動四〕〔平〕多言する。
「なんとあの姉はくじょる人だ。」

くじる〔動四〕〔山、由〕ほじくる。
「土をくじると虫が出て來た。」

くんじる〔動四〕〔河〕ほじくる。
「鳥がくんじってゐた。」

くんずむ〔動四〕〔市、雄〕窮する。
「理屈にくんずんでしまった。」

ぐすや〔名〕〔平〕茅葺。

ぐずらもずらする〔動さ變〕〔山、雄〕ぐずぐずする。
「ぐずらもずらしないで早く行け。」

くせ〔名〕〔山、市、由〕習慣。

くせけ〈名〉〈市、平〉 つはり。悪阻

くぜる〈動四〉〈雄〉 多辯する。

「餘りくぜらないでじっとして居れ。」

くんぞ〈名〉〈河、平、雄〉 葛。

くそいんぼ〈名〉〈雄〉 いぼ（疣）。

くぞびっき〈名〉〈市、雄〉 土蛙。

くそふぇんび〈名〉〈南〉 まむし。

くそり〈名〉〈全縣〉 藥。

くたい〈連〉〈市〉 くひたい（食ひたい）。

「梨くたい。」

くだい〈連〉〈北〉 下さい。

「一つくだい。」

くだえ〈連〉〈鹿〉 下さい。

「褒美をくだえ。」

くたんばる〈動四〉〈鹿、南、市、仙、平〉 死ぬ。（卑語）。

「お前の様な者くたんばれ。」

くんだはれしゃ〈連〉〈市〉 下さいよ、（下さいね）

「お菓子を食べてくんだはれしゃ。」

くたま〈名〉〈山〉 首筋。

くたま〈名〉〈雄〉 じゃま（邪魔）。

「くたまになるからあっちへ行ってゐなさい。」

くんだらねぁ〈連〉〈平、雄〉 しまりがない。

「あの人は酒をのむとくだらねぁ。」

くんだり〈名〉〈由〉 西南風。

「又くんだり吹いて來た。」

くたんせ〈連〉〈雄〉 たべなさい（食べなさい）。

「これくたんせ。」

くちだ〈連〉〈市、山、雄〉 ついた（附着した）。

「糊が乾いてよくくちだ。」

くちばし〈名〉〈南、河、雄〉 くちばし。

くちんびら〈名〉〈雄〉 くちびる（唇）。

くちんべら〈名〉〈南、雄〉 同上。

くちめぁる〈動下一〉〈仙、市〉 くはへる（銜へる）

「お父さんは煙管をくちめぁで新聞を讀んでる。」

くちゃべる〈動下一〉〈鹿〉 多くはなしをする（話をする）

「あの子は口をやめないでくちゃべる。」

ぐちゃみき〈名〉〈平〉 ぬかるみ。

「ぐちゃみきにはひった。」

くつくる〈動四〉〈市、仙、雄、平〉 しうぜんする（修繕する）。

「靴をくつくる。」

くつぉぐる〈動四〉〈雄〉 修繕する。

「足袋をくつぉぐるから布を持って來い。」

くてぁ〈連〉〈南、市、平、雄〉 食ひたい。

「お菓子くてぁ。」

くんでぁ〈形〉〈南、河、平〉 くどい。

「くんでぁ人だ。」

くど〈名〉〈平〉 しちりん（七輪）。

ぐど〈副〉〈山、河、仙、雄、平〉 はやく。

「ぐど來い。」

ぐっど〈副〉〈雄、由〉 早く。

「ぐっど來い。」

くんな〈連〉〈由〉 くるな。

「ここにくんな。」

くなんせ〈連〉〈河〉 下さい。

「それくなんせ。」

くにする〈連〉〈鹿、市、平〉 邪魔にする、心配する。

「隣の大木をくにする。」

くね〈名〉〈全縣〉 垣根（木を植ゑたるもの）。

「くね越しにのぞく。」

くねぎ（名）（平） くぬぎ。
くねもごり（名）（山） みそさざい。
くばる（動四）（鹿、市） 運ぶ。
「茶碗をくばる。」
くびかがり（名）（市、山、仙） くびくゝり（首縊）
くびた（名）（仙） 首。
くんびた（名）（鹿、山、南、雄） 首。
くんびと（名）（市、河、雄、由） 首。
くんびりまき（名）（由） 頸巻。
くんべる（動下一）（山、市、平） たく。
「その木をくんべるな。」
くんぼ（名）（南、河、由） くも。（蜘蛛）。
くまくま（名）（山） たんほほ。
くむ（動四）（平） 交換する。
「この木とその鎌とくめ。」
くやす（動四）（雄） 塞ぐ（ふさぐ）。
「ねずみ穴をくやした。」
くよ（名）（平、雄） ありまき（蟻巻）。
ぐらけぇりする（動さ變）（鹿、市、平） ひっくり返る。
「ぐらけぇりして足首傷めた。」
くらしつける（動下一）（河、雄） ぶんなぐる。
「そんなことをするとくらしつけるぞ。」
くらす（動四）（河、雄、平、由） たゝく。
「あまりきかないとくらしてやる。」
くらつける（動下一）（山、市、河） ぶんなぐる。
「彼奴をくらつけてやる。」
ぐりっと（副）（雄） 悉く。
「雪がぐりっと消えた。」
くりび（名）（鹿） くるみ（胡桃）。
くるげ（名）（由） 生意氣な人。

「此のくるげなぐるぞ。」
くるつけ（連）（平） くると云ったっけ。
「今お使に行ったらあの人くるつけ。」
ぐるっと（副）（仙） ぐるりと。
「ぐるっと廻る。」
くるび（名）（北、鹿） くるみ。
くるましぎ（名）（平） しゃふ（車夫）。
くるまとんび（名）（鹿） まんと（外套）。
くるまふぎ（名）（由） 車夫。
くるんし（連）（雄） きます（來ます）。
「またくるんし。」
くれ（形）（山、市） 黒い。
「くれ布。」
くれぇ（接尾）（鹿、山、市） くらゐ（位）。
「栗をこれくれぇ拾った。」
くれぇ（形）（平） 暗い。
「くれぇくて見えない。」
くれぇぐなる（連）（雄） くらくなる（暗くなる）。
「もう少しでくれぇぐなるから、早くゆかう。」
くれぇこ（名）（雄） 競走。
ぐれる（動下一）（平） 自暴自棄になる。
「あの人はぐれて行ってしまった。」
くろこんぼし（名）（山、南、市、仙、平、由） **踝**。
くゎ（名）（雄） 桑。
くゎ（名）（南、市、河） 鍬。
くゎぐ（動四）（市、雄） くはへる（銜へる）。
「歯を痛めるから金などくゎぐな。」
くゎご（名）（市、仙、由） くはのみ（桑の實）。
くゎっこ（名）（雄） 桑。
「くゎっこ取ってゐる。」
くゎした（連）（鹿） やぶった（破った）。
「ちゃわんをくゎしたら、しかられた。」

ぐゎじゃいちめんだ（形動）〈河〉 玉石混淆だ。
くゎせる（連）〈河、雄〉 食はせる。
「これくゎせるから待ちなさい。」
くゎそば（名）〈雄〉 火葬場。
ぐゎつぐゎつと（副）〈雄〉 ひどく。
「頭をぐゎつぐゎつとはたく。」
くゎない（連）〈雄〉 くはない（食はない）。
くゃのもり（名）〈河〉 眼瞼の腫物。
ぐゎりぐゎり（副）〈雄〉 むりに。
「ぐゎりぐゎりはひって行った。」
ぐゎりっと（副）〈南、市、河、平、雄〉 思ひきりよく、熱心に。
「ぐゎりっとした人だ。」
くゎんちょ（名）〈山、河〉 くゎんざう（萱草）。
ぐゑぁ（名）〈平〉 ぐあひ（工合）。
くゑぁす〈動四〉〈市、河、平〉 塞ぐ。
「窓をくゑぁす。」
くゑぁる（動下一）〈雄〉 くはへる（銜へる）。
「犬が魚をくゑぁる。」
ぐん（名）〈平〉 計略、考。
「誠によいぐんだ。」
ぐんぺい（名）〈平〉 工夫、計畫。

◈け の 部

け（名）〈山〉 かい（櫂）
け（動四）〈平、山、雄〉 食べれ。
「この菓子をけ。」
け（動か變）〈南、市、河、雄、由〉 こい（來い）。
「僕の家にけ。」
けぁ（名）〈全縣〉 貝。
けぁ（名）〈北、南、市〉 粥。
けぁ（形）〈南〉 かゆい（痒し）。
「ひぜん出てけぁ。」

げぁ（副）〈山、平、雄〉 あんまり、ひどく。
「げぁ悪いことをした。」
げぁ（助）〈山、平、雄〉 ……か。
「ほんとにさうだげぁ。」
けぁ（接）〈鹿〉……が。
「今迄居たけぁもう歸った。」
けいはぐする（動さ變）〈由〉 輕薄する。歡心を買ふ。諛ふ。
「あまりけいはぐするな。」
けいれぁぐ（名）〈河〉 けいりゃく（計略）。
けがじ〈全縣〉 飢饉。
げがむし（名）〈南〉 毛虫。
けがらし（形）〈山〉 けがらはしい。
「けがらし話だ。」
けぁぎ（名）〈山、雄〉かひき（甲斐絹）。
けっく（副）〈由〉 かへって（却って）。
「さうすればけっく駄目だ。」
げぁぐぞぐ（名）〈河〉 ぎゃくぞく（逆賊）。
げぁんぐり（名）〈平〉 周圍。
「畑のげぁんぐりにきみうゑた。」
けぁくりさっぽー（副）〈雄〉 徹頭徹尾。
「けぁくりさっぽー見えなかった。」
けぁぐれぁ（名）〈山、南、平〉 買食。
げぁんげぁ〈市、河、平、雄〉 あんまり、頗るひどく。
「今日はげぁんげぁよいお天氣だ。」
けぁけぁろ（名）〈河〉 とさか（肉冠）。
けこ（名）〈雄〉 かゆ（粥）。
けぁっこまま（名）〈仙〉 粥。
けんざ（名）〈市、河〉 蜻蛉（とんぼ）（やんま）。
けざがる（動四）〈山、河、雄、平〉 居る、來る、行く。（卑語）。
「未だけざがるか、早く歸れ。」

げぉぁさめた〔連〕〔雄〕あきれはてた。
「すっかりげぉぁさめた。」

けじ〔名〕〔仙〕吝嗇。
「何んだけじだ奴だ。」

けぉし〔名〕〔平、雄、由〕鳥の糞、人間以外の糞。
「鶏が又けぁしをした。」

けぁじ〔代名〕〔河、雄、由〕これ(是れ)。
「けぁじ持って行け。」

げじげじ〔名〕〔山、由〕蚰蜒。

けしこ〔名〕〔平〕けしごむ(消ごむ)。

けしね〔名〕〔平〕飯米。

けしねぶじ〔名〕〔平、雄〕米櫃。
「お米をけしねぶじに入れれ。」

けじまかる〔動四〕〔全縣〕つまづく。
「石にけじまがるといけないから靜に歩け。」

げぁんじゃが〔名〕〔鹿〕毛虫。

げしょぐ〔名〕〔由〕げしゅく(下宿)。

げす〔名〕〔南、市、河、平、雄〕人糞肥料。

けぁす〔動四〕〔市、雄〕かへす(返す)
「本をけぁす。」

けぁすぎぺら〔名〕〔市、雄〕雪搔。

けずぐ〔名〕〔平〕吝嗇。

けぁずげぁたもの〔連〕〔平〕こんなもの。
「けぁずげぁたものは何の役にもたたぬ。」

けずだ〔形動〕〔山、平〕よくない。
「おやおや、けずだ子だ。」

けずんぶでぉし〔名〕〔河〕あまされもの(手餘しもの)

けずんぼでぉし〔名〕〔南〕この畜生、馬鹿野郎。(罵る語)

げそっと〔副〕〔仙〕平氣で。
「いくら言って聞かせてもげそっとしてる。」

げっそりする〔動さ變〕〔北、鹿、山、平〕落膽する。
「失敗してげっそりした。」

けだ〔連〕〔雄、由〕きえた(消えた)。
「電燈けだ。」

げんだ〔連〕〔山〕あんまりだ。無理だ。
「それはげんだな。」

けぁだ〔連〕〔雄〕かいた(書いた)。
「紙の上に字をけぁだ。」

けぁった〔連〕〔雄、由〕たふれた。
「風のため木がけぁったよ。」

げぁんだ〔副〕〔北〕大層。
「げぁんだ騷ぐな。」

げぁんだが〔名〕〔北、山、仙、平〕毛蟲。

けちあな〔名〕〔山〕からもん(肛門)。

けっちゃ〔連〕〔雄、由〕下さい。
「菓子を私にもけっちゃ。」

けちんぼ〔名〕〔由〕吝嗇。

けつ〔名〕〔全縣〕お尻。

けつ〔名〕〔平〕末番。

げつ〔名〕〔南、市、河、平〕臀、陰部。

けつけつわらい〔名〕〔雄〕あざわらひ(嘲笑)。

けつまめ〔名〕〔全縣〕そらまめ(蠶豆)。

けて〔副〕〔山〕かへって(却って)。

けぁって〔副〕〔山、雄、平〕かへって。
「それはこれよりもけて悪い。」
「けぁって駄目になってしまった。」

けぉでぁ〔名〕〔山、仙、平、雄〕兄弟。

けでけねぁげぁ〔連〕〔平〕下されませんか。
「その本をけでけねぁげぁ。」

けでけれ〔連〕〔雄〕呉れて下さい。
「私に錢をけでけれ。」

けでたんせ〔連〕〔平〕くれて下さい。

「花をけでたんせ。」

けど（名）〈仙〉 けいとう（鷄頭）。

げんど（名）〈河〉 亂暴者。

けぁんど（名）〈全縣〉 街道。

げんどおこす（動四）〈河、由〉 駄々をこねる。

「この子はげんどおこして困る。」

けぁな（連）〈平〉 ‥‥かよ。

「なんだけぁな。そんなことをして。」

けぁな（名）〈鹿〉 うで。（腕）。

けなり（形）〈河、由〉 羨しい。

「あの人は成績がよくてほんとにけなり。」

けなる（形）〈平〉 けなるい、羨しい。

「あの人はよい着物着てけなる。」

げぁに（副）〈鹿〉 たいへんに（大變に）。

「あの人はげぁに大きいな。」

けぁになる（連）〈平〉 邪魔になる。

「けぁになるわらしだ。」

けねぁ（連）〈鹿、山、市、平、雄〉 くれない。

「これをけねぁが。」

けぁねぁ（形）〈鹿〉 たやすい（容易）。

「この本はよむにけぁねぁ。」

けぁねぁ（形）〈全縣〉 體の病弱なこと。

「あの子供けぁねぁくてこまる。」

げぁねぁ（形）〈鹿〉 さびしい、退屈だ。

「今年はげぁねぁ正月だ。」

げんば（名）〈平〉 末席。

げっぱ（名）〈山、南〉 最後。

「百米でげっぱになった。」

けばえ（連）〈鹿、山〉 食べるとよい。

「ごはんけばえ。」

けっぱる（動四）〈北〉 力を入れて引張る。

「うんとけっぱれ。」

けんぶ（名）〈全縣〉 けむり（煙）。

けんぶてぁ（形）〈仙〉 けむたい（煙たい）。

「木が燃えなくてけぶてぁ。」

けんぷてぁ（形）〈山、南、雄、平〉 煙たい。

「けんぷてぁくて、目をあいてゐられない。」

げふり（名）〈平、雄〉 吐氣。

けぁふろ（名）〈仙、雄〉 七輪の一種。貝風呂。

けぁぺぁ（名）〈山、南、河、平、雄〉 男根。

げほ（名）〈全縣〉 おでこ。

げほつぶり（名）〈雄〉 低能（罵詈語）。

「此のげほつぶり何も分るまい。」

けむしゃら（名）〈平〉 毛の多いもの。

けぁめぁす（動四）〈市〉 かきまはす（搔廻す）。

「お汁をそんなにけぁめぁしてはいけない。」

けぁめぁ（名）〈平〉 戒名。

げや（名）〈平〉 廁。

けやぐ（名）〈鹿、山〉 なかよし（仲良し）。

「私と某さんとは昔からけやぐだ。」

けやけや（名）〈平〉 おきなぐさ（翁草）。

けら〈北、山、南、平、雄〉 みの（簑）。

げぁらくと（名）〈仙、雄、由〉 おたまじゃくし。

げぁらご（名）〈仙〉 同上。

けらたろー（名）〈雄〉 けら。

けらつずぎ（名）〈山、仙、平、雄、由〉 きつつき。

げぁらふと（名）〈仙〉 同上。

けらほじぎ（名）〈雄、平〉 きつつき。

けらむし（名）〈市、雄、平、由〉 けむし、うめけむし。

けり（名）〈全縣〉 靴。

けぁり（名）〈全縣〉 釣錢。

げぁりごと（名）〈仙〉 おたまじゃくし。

ける（動下一）〈全縣〉 消える。

「早く雪けると良い。」
ける（動下一）（南）呉れる。
「錢けるから來い。」
けぁる（動四）（仙、雄、平）倒れる。
「家がけぁった。」
けぁる（動四）（鹿、南、市、雄）歸る。
「學校からけぁる。」
けぁる（動四）（南）かへる（替へる）。
「井戸の水をけぁる。」
げぁる（名）（南）蛙。
げぁるぐど（名）（南、河、平）おたまじゃくし。
けろ（動下一）（鹿、南）くれよ。
「その紙もって來てけろ。」
げろ（名）（北、平）吐瀉。
げぁろ（名）（山、河、平、由）おたまじゃくし。
けろが（連）（雄）くれませうか。
「このお菓子けろが。」
けぁろくと（名）（由）おたまじゃくし。
けろっと（副）（仙）全く。
「あんな大病がけろっと快くなった。」
げぁろも（名）（北）おたまじゃくし。
げんこもつ（名）（由）げんこつ。
けぁんじき（名）（北、平、雄、由）かんじき。
けぁんじん（名）（河）勸進。
「羽黒のけぁんじん。同行二人。」
けぁんせ（連）（平）下さい。
「うまいものけぁんせ。」
げんぞ（名）（仙）肛門。
げんだか（名）（山）けむし（毛虫）。
けんぴきょー（名）（山、河）けんびきゃう（顯微鏡）。

◆こ の 部

こ（名）（雄）・・・する約束、・・・する競争。
「明日から九時に學校に行くこだ。」
「これから貯金するこだ。」
こ（接尾）（全縣）名詞の下につく。
「犬こ、德利こ、人形こ。」
こーいな（連）（雄）かういふもの（斯ういふ者）
「こーいな知って居るか。」
こえ（名）（全縣）こひ（鯉）。
こえ（連）（全縣）來い。
「こゝへこえ。」
こえ（名）（全縣）肥料。
こえじ（代名）（山）この奴。
「こえじ馬鹿だなー。」
こえずげぁ（名）（仙）肥料置場。
こえたごでー（連）（雄）來いと云ったらう。
「早くこえたごでー。」
ごえっと（副）（仙）すっかり、全部。
「ごえっと一度にみんな持って行け。」
こえない（連）（河）こられない（來られない）。
「この天氣ではとてもこえない。」
こえふな（名）（南、河、仙、平、雄、由）鯉。
こえんこ（名）（仙）小犬。
こか゚（名）（河、由）酒造用などの大桶。木甕
こーが（名）（鹿）べんじょ（便所）後架
ごかご（名）（鹿、平）食器籠。
こか゚ねばな（名）（雄）をみなへし（女郎花）。
こから（連）（平）ここから。
「こから秋田まで二時間かゝる。」
ごぎ（名）（北）けいぼ（繼母）。
ごぎ（名）（鹿、河、平、雄）飯椀。
ごぎあれぁ（名）（雄）水すまし。

ごぎど〔名〕〔平〕 祈禱。

ごきり〔名〕〔平、由〕 繼父。

こぎん〔名〕〔由〕 短い着物。(麻より取った絲で布を織り、それを紺に染めて夏に着る着物を作る。この着物のことをいふ。)

こぐ〔接尾〕〔全縣〕 ……する。
「噓こぐ、朝寢こぐ。」

こぐ〔動四〕〔雄〕 雪の中を歩く。「雪をこいで學校に行った。」

こんくへ〔名〕〔南〕 子癖。

こげ〔名〕〔山、河〕 垢。

ごげ〔名〕〔仙〕 馬鹿。

ごげ〔名〕〔由〕 やもめ(寡婦)。

ごげ〔名〕〔由〕 私娼。

こーげぁ〔名〕〔山、市〕 笄。

こーげぁ〔名〕〔平〕 苦勞。

こげぁた〔連〕〔由〕 こんな。
「こげぁたにある。」

こげぶつ〔名〕〔平〕 ばか(馬鹿)。
「こげぶつ野郎、早く行け。」

こげら〔名〕〔平、雄〕 苔。

こげらし〔名〕〔平、山〕 葺師。

こげる〔動下一〕〔市、由〕 こごえる(凍える)。
「あまり寒くて手がこげる。」

こげぉる〔動四〕〔河〕 傾覆する。
「過って鐵瓶をこげぉした。」

ごげぁる〔動四〕〔平、雄〕 怒る。
「母は子供をごげぁる。」

ここ〔名〕〔仙〕 小兒の着物。

こっこ〔名〕〔仙〕 きもの(着物)。

こっこ〔名〕〔平〕 どもり(吃)。

こっこ〔名〕〔雄〕 幼兒。

こっこ〔名〕〔平〕 こな(粉)。

ごっこ〔名〕〔鹿〕 魚の肉。

ごっこ〔名〕〔山、市、仙〕 下駄についた雪塊。

こごつもねぁ〔連〕〔河〕 のりでない。(理詰でない)。
「こごつもねぁ話だ。」

ここまこ〔名〕〔北〕 子馬。

こごまる〔動四〕〔仙、雄〕 かがむ。
「もう少しこごまれ。」

ここめき〔名〕〔仙〕 どもり(吃)。

こっこめぐ〔動四〕〔由〕 どもる。(吶る)。
「こっこめぐ人のまねしたら、おれもこっこめぐやうになった。」

こごらかる〔動四〕〔平、雄〕 もつれる。
「糸がこごらかった。」

こごれぁす〔連〕〔平〕 こころやすい(心安)。
「あの人とこごれぁす。」

ごさ〔連〕〔平〕 こゝに。

ごさぐ〔動四〕〔由〕 立腹する。
「あの人はすぐごさぐ人だ。」

ごんざは〔連〕〔由〕 來なさい。
「早くごんざは。」

ごんざれ〔連〕〔由〕 御出でなさい。
「遊びにごんざれ。」

こーじ〔名〕〔由〕 楮。
「こさ來い。」

こしぐる〔動四〕〔由〕 こする。
「あんまりこしぐると又痛くなるぞ。」

ごじぐる〔動四〕〔雄〕 あばれる(暴)。
「あんまりごじぐるものでない。」

こじくれ〔名〕〔北〕 不具者。

こんじげぁ〔名〕〔全縣〕 小使。

こんじげぁ〔名〕〔由〕 堆肥の置場。

こんじける（動下一）（鹿、山、南） すねる。
「叱られるとこんじける。」
こんじんばる（動四）（河） 來る（卑）。
こしまぎ（名）（鹿） 湯卷。
「早くこんじんばれ。」
ごじゃ（名）（山、南、市、仙） 多辯家、おしゃべり。
ごんじゃ（名）（山、河） 茣蓙。
ごしゃがえる（連）（由） 叱られる。
「彼にひどくごしゃがえだ。」
ごしゃぐ（動四）（南、市、河、仙、平、由） おこる、（怒る）
こしゃぐたげる（動下一）（由） こしゃぐなことをする。
「あまりこしゃぐたげるな。」
こしゃぐまげる（動下一）（平） 小癪な眞似をする。
「この子は年もいかぬに、こしゃぐまげること」
ごしゃげる（動下一）（鹿、市、河、仙、平、雄） 腹立たしい。
「あれに負けてごしゃげる。」
ごじゃごじゃする（動さ變）（由） くすぐる。
「私のとこごじゃごじゃするな。」
こんじゃす（動四）（雄） しくじる。
「淸書をこんじゃしてしまった。」
こじゃす（動四）（平） 失敗す。
「畵こじゃしてしまった。」
こんじゃす（動四）（北、南、平、由） 失敗す。
「今日の畵はこんじゃした。」
ごしゃぱらげる（動下一）（南） 腹立たしい（憤慨する）
「餘りごしゃぱらげでたゝいた。」
こんじゃら（名）（鹿、山） 小皿。

ごじゃわがす（動四）（河） 多辯する。
「あの女の子はよくごじゃわがす。」
ごしぇも（名）（河） 馬鈴薯。
ごしょいも（名）（鹿、市） 馬鈴薯。
ごしょなる（連）（市） 功德になる。
「ごしょなると思ってくれてやった。」
ごんじょはりゃがって（連）（平） 意地張つて。（卑語）
「なんだ、この子ごんじょはりゃがって。」
こんじょわり（形）（市、平） いぢわるい。
「あの人こんじょわり人だ。」
こんずく（動四）（由） 引き廻す。
「餘り人をこんずくな。」
こんずぐ（動四）（山、平） いぢめる。
「子供が犬をこんずぎまはす。」
こんずげ（名）（山） 肥塚。
こんずげぁ（名）（南、市、河、平、仙） 小使、肥塚。
こんずげぁ（名）（南、市） 小遣。
こんずける（動下一）（南） すねる。
「菓子が不足だといふのでこんずける。」
こんずばる（平）（動四） 來る（卑語）。
「あの乞食またこんずばった。」
ごせ（名）（雄） 丈夫。
「ごせだ體で善い。」
ごんぜ（名）（平、雄） 巫女。
こーせぎ（副）（河） 平生。
こんぜぁぐし（名）（平） 木細工師。
「それはこーせぎ云った事だ。」
こせぁごど（名）（仙） つくりごと（作事）。
「あの人はよくこせぁごどを云ふ人だ。」
ごせも（名）（平） 馬鈴薯。
こせぁる（動下一）（平） 拵へる。
「紙人をこせぁる。」

ごそかぎ（名）〈鹿、平〉ひぜんかき。
こそくてぁ（形）〈雄〉くすぐったい。
「そこへ觸るとこそくてぁからやめれ。」
こそっと（副）〈由〉ひそかに（竊に）。
「こそっと聞かせてくれ。」
こんだ（副）〈仙、平、由〉こんどは（今度）。
「こんだ東京へ行く。」
こんだ（連）〈山〉からだ。
「彼はこたれねぁ奴だ。」
こんだ（連）〈山〉からだ。
「こんだから俺が忠告したのだ。」
ごった（連）〈鹿〉……ですよ。……でせう。
「今日は學校休みだごった。」
こんたえんだ（連）〈由〉この様な。
「こんたえんだものだ。」
こんたおの（連）（名）〈平〉こんなもの。
「こんたおの呉れた。」

こたぐんり（名）〈雄〉へど（吐瀉物）。
こんだす（名）〈南、仙、雄〉繩製の物入袋。
こだんす（連）〈鹿〉からであります。
「それ見なさい、ここはこだんす。」
こだずっこ（名）〈仙〉炬燵。
こたんだもの（連）〈平〉こんな物。
「こたんだものなどいやだ。」
こんたな（連）〈平〉このやうな。
「こんたな小さい物では役に立たない。」
こんたに（副）〈鹿、北〉こんなに。
「こんたに大きくなった。」
こんたばかり（副）〈市〉この位ばかり。
「こんたばかりのしくじり何でもない。」
こったもの（連）〈雄〉こんなもの。
ごったら（連）〈山、平、雄〉事なら。
「分らないごったら止めれ。」

こんたらばっこ（副）〈仙〉こんなばかり。
「こんたらばっこではいやだ。」
こったれない（連）〈仙〉まぬけてゐる。
「あの男はよく物忘れする、こったれない男だ。」
こたれねぁ（形）〈北〉少し馬鹿だ。
こちぎでねぁ（連）〈平〉好きでない。
「なんとあの人こちぎでねぁ。」
こちさきたんせ（連）〈平〉こっちへお出なさい。
「そこに居ると寒いから、皆こちさきたんせ。」
こんちた（名）〈平〉茶碗の下の基部。
「このこんちたの具合がよい。」
こちゃ（連）〈鹿、山、南、市、平〉こちらへ（此方へ）
「こちゃ來なさい。」

こちゃけねぁ（形）〈北〉下品だ。
「こちゃけねぁ事ばかりする。」
ごちゃごちゃする（動さ變）〈河〉くすぐる。
「そんなにごちゃごちゃするな。」
こちゅーんだ（連）〈平〉吝嗇だ。
こちょかす（動四）〈北〉くすぐる。
「腕の下をこちょかす。」
ごちょかす（動四）〈南、市、河、雄〉くすぐる。
「腋の下をごちょかす。」
こちょこちょばなし（名）〈南、由〉耳語。
こちょごでぁ（形）〈仙〉くすぐったい。
「あーこちょごでぁ。」
こつぉかす（動四）〈平〉くすぐる。
こつぎでねぁ（連）〈仙、雄〉いけ好かない。
「こつぎでねぁ男だ。」
こんつくたもの（連）〈仙、雄〉こんなもの。（卑語）

「こんつくたものなんか澤山ある。」

こつぁくてぁ〈形〉〈雄〉くすぐったい。

こんつける〈動下一〉〈南、平〉すねる。

「叱るとこんつける。」

こつぉこつぉさんべり〈名〉〈仙、雄〉耳語、ささやき。

こつぉさんべり〈名〉〈仙〉耳語。

こっつら〈副〉〈雄〉猶更。

「大寒が過ぎたらこっつら寒い。」

こで〈名〉〈河〉牡牛。

こーでぁ〈副〉〈雄〉廣大に。

「梨がこーでぁなった」。「こーでぁ廣い沼だ。」

こんてぁに〈副〉〈市、河〉こんなに。

「こんてぁに待って居る。」

こでんび〈名〉〈仙〉小指。

ごでぉぽね〈名〉〈仙〉足。

こでぉる〈動下一〉〈平〉拵へる。

「よくこでぉだ。」

ごんど〈名〉〈鹿、南、仙、平、雄〉塵芥。

こどえんび〈名〉〈全縣〉小指。

ごどえも〈名〉〈山、南、河、雄〉馬鈴薯。

こどけぁした〈連〉〈雄〉實に困った。

「こどけぁしたいたづらをしたものだ。」

ごどごどむし〈名〉〈雄〉かぶとむしの幼虫。

ことんびら〈名〉〈由〉子供等。

こどゆんび〈名〉〈山〉小指。

こどら〈名〉〈河〉子供等。

こなさせばんば〈名〉〈平〉産婆。

こんにゃ〈名〉〈平〉今夜。

ごにゃごにゃだ〈形動〉〈平〉やはらかい（柔かい）

「あの人の體はいつもごにゃごにゃしてる。」

こねぁんだ〈副〉〈全縣〉このあひだ（此の間）。

「こねぁんだ風邪が流行して困る。」

こねぁらく〈副〉〈雄〉たらふく（飽き足るほど）

「餅をこねぁらく食べた。」

ごねる〈動下一〉〈平〉死ぬ。

「あの老人はごねた。」

ごねる〈動四〉〈由〉まぜる（混る）

「泥をごねる。」

このが〈名〉〈仙〉こぬか（糠）

このがあめ〈名〉〈鹿〉細雨。

このがんずげ〈名〉〈南〉澤庵漬。

このげ〈名〉〈全縣〉眉毛。

このまし〈形〉〈雄〉おほきい、美しい。

「このまし鮒を釣った。」

こんば〈名〉〈由〉柾。

こっぱ〈名〉〈仙、雄〉柾、木片。

ごっぱ〈名〉〈河〉下駄についた雪。

こんばかたれ〈名〉〈鹿〉ばか（馬鹿）

こんばける〈動下一〉〈平〉こげる（焦る）

「炬燵の衣類がこんばける。」

こっぱらもじわり〈形〉〈南〉腹だたしい。

「根もないことを言はれてこっぱらもじわりい」

こんび〈名〉〈南、由〉こげめし（焦飯）

こんび〈名〉〈仙〉垢。

こぴぁしねぁ〈副〉〈平〉「早く」の添詞。

「こぴぁしねぁ早く來た。」

こびたな〈名〉〈平〉子守帶。

こんびらかす〈動四〉〈雄〉氣取る。

「こんびらかす人だ。」

こんびりまんま〈名〉〈北、平〉小晝まま（田植の時、正午前に食する飯）

こんぶら〈名〉〈雄〉こむら（腓）

ごふぁらげる〔動下一〕〔河〕腹立つ。
「ごふぁらげで、たまらない。」
ごへ〔名〕〔市〕御幣。
こっぺ〔名〕〔北〕頭。
こんべぁ〔名〕〔山〕勾配。
ごっぺ〔名〕〔市、河〕僥倖、幸運。
ごんべぁ〔名〕〔雄〕ごみ。
ごっぺおこす〔連〕〔雄〕僥倖する。
「彼の人はよい鑛山を見附けて、ごっぺおこした。」
こぺたげる〔動下一〕〔由〕しゃれる(洒落れる)
「あまりこぺたげるな。」
こぺと〔名〕〔平〕金米糖。
こべぁに〔副〕〔平〕こんなに。
「こべぁに寒くては困る。」
こんべぁはえぁ〔連〕〔平〕敏捷だ。
「あの子は賢くてこんべぁはえぁ。」
こんぼ〔名〕〔仙〕こぶ(瘤)
こんぼ〔名〕〔由〕小僧。
ごんぼねる〔動下一〕〔北〕駄々をこねる。
「酒呑めばごんぼねる。」
ごんぼほる〔動四〕〔仙〕あばれる。
「この子はよくごんぼほる子だ。」
こんぼろ〔名〕〔市、平、雄〕子煩惱。
こま〔名〕〔河〕牡馬。
こまかげ〔名〕〔鹿、河、雄〕馬を交尾させること。
こまこ〔名〕〔仙〕こうま(小馬)
ごまんこうり〔名〕〔南〕まくはうり。
こまざらえ〔名〕〔全縣〕竹の熊手。
こまだな〔名〕〔鹿、北〕こがたな(小刀)
こまちゃぐれる〔動下一〕〔全縣〕早熟だ。

「あの小兒はこまちゃぐれて居る。」
こまる〔動四〕〔北〕敬禮する。
「人にこまる。」
こまる〔動四〕〔山、平〕こごむ(跼む)。
「物を落してこまって取った。」
ごみ〔名〕〔山、由〕ちり(塵)
ごみそ〔名〕〔南〕うらなひし、占師。
ごみんだめ〔名〕〔雄〕屑入。
こみち〔名〕〔河〕小心、倹約。
「つねにこみちだから小金をたぐはへた。」
こめぁがみ〔名〕〔雄〕日本髪。
こめぎつ〔名〕〔雄〕米櫃。
こめぁぐ〔副〕〔雄〕こまく(細く)。
「紙をこめぁぐ切る。」
こめぁこい〔形〕〔雄〕細い。
「あまりこめぁこくかくな。」
ごめしてけれ〔連〕〔由、本〕許して下さい。
「今度いたづらしないからごめしてけれ。」
こめぁに〔連〕〔平〕の間に。
「しらないこめぁに逃げ出した。」
こめみる〔動上一〕〔仙〕こまる(困る)。
「ほんたうにこめみる。」
ごめや〔連〕〔市〕御免よ。
こも〔名〕〔鹿〕濁酒。
こもがんぶり〔名〕〔山、平〕隱密にするもの(許可を得ずして)
「こもがんぶり醫者。」
こもせ〔名〕〔鹿、平〕ひさし(庇)。
こもせ〔名〕〔雄〕みせさき(店先)。
「人のこもせにねてゐた。」
ごもる〔動四〕〔河〕濁る。
「また河の水がごもった。」

ごもんくゎ（名）（河） 御紋策。甜瓜。
こや（名）（平） 納屋。
こやする（連）（平） 斯うする。
「悪いことをするとこやするぞ。」
こやらすぐねぁ（連）（平） 憎らしい。
「こやらすぐねぁ奴だ。」
こゆみ（名）（由） 暦。
こらせる（連）（雄） 來させる。
「こないと云うてもなんとかしてこらせる。」
こり（名）（南、河） かうり（行李）。
これする（動さ變）（河） こりこりする（懲々する）
「あの男にはこれした。」
これだけぁ（連）（北） これなどは。
「これだけぁ間にあはぬ。」
これだんば（連）（北） これなら。
「これだんばよい。」
これだら（連）（山） これなら。
「これだら宜しい。」
これんばこ（連）（平） こんな少しばかり。
「これんばこ持って來た。」
これる（動下一）（雄） 懲りる。
「彼にはこれた。」
こーれん（名）（山、南、仙、由） 一種の煎餅。
ころげ（名）（由） きりぎりす。
ころげぁ（名）（仙） こほろぎ。
ころける（動下一）（雄） 老獪になる。
「ころけた狐だな。」
ごろこ（名）（河） 末座。（岩見地方）。
ごろっこ（名）（南） 八人藝。
ごろごろさん（名）（平、雄） 雷。
ころし（名）（北、山、南、市、河、雄） ふるひ（篩）。

ごろんずき（名）（山、仙） ならずもの（無頼漢）。
ころどあぎねぁ（名）（平） 獨立して商すること。
こゑぁ（形）（全縣） 疲れた、だるい。
「餘り歩いたからこゑぁぐなった。」
「病氣したば、こゑぁぐて困る。」
ごんぎする（動さ變）（北） 鉢あはせする。
「走せ廻ってごんぎした。」
こんぐ（動四）（山、河、平、雄） 拔く、根こぎにする。
「根からこんぐ。」
こんくせ（名）（河） こぐせ（子癖）
こんけぁ（副）（河、仙、平） これだけ。
「こんけぁでは、何だか足りないやうだ。」
こんこする（動さ變）（平） 眠る（兒童語）
「早くこんこすれ。」
こんころ（副）（雄） 此の位、これ程。
「文字をこんころ書いた。」
こんこん（名）（平） 狐（兒童語）
ごんじゅ（名）（山、雄） ごじふ（五十）。
ごんぱ（名）（平） 牛蒡の葉。
ごんべ（名）（北、平） 藁で作った足袋の前半のやうな物で、雪中草鞋につけて穿く物。
ごんぼ（名）（山、仙、平、雄、由） 牛蒡。
こんれぁ（副）（雄） 此の位、これ程。

◆さ の 部

さ（名）（雄） さは、澤。
「たきのさは（瀧ノ澤）をたきのさといふ。」
さ（助）（北、仙、雄、由） へ。
「川さいく。」
さいばん（名）（平） まないた（爼）。
さえ（感）（河） さあ。
「さえしまった。」

さえさえ（感）〔市、河〕さあ。
「さえさえばかなことをしてしまった。」
さえなら（連）〔由〕さやうなら。
「お歸りですか、さえなら。」
さがさま（名）〔山、市〕倒。
さがし（形）〔平、雄〕かしこい（賢い）。
「この子供さ**がし**子だ。」
さかしい（形）〔仙〕かしこい（賢い）。
「さかしい子供だ。」
さかんじき（名）〔雄〕盃。
さかんじけ（名）〔平〕酒杯。
さかずけ（名）〔由〕盃。
さがんずけ（名）〔山、南、河、雄〕杯。
さがつぐり（名）〔平〕酒亂者。
さかと（名）〔河、仙〕よひどれ。
さがな（名）〔市〕魚。

さかぶ（動四）〔仙〕叫ぶ。
「高聲出してさかぶな。」
さがんぶ（動四）〔鹿、北、山、河、平、雄、由〕さけぶ（叫ぶ）。
「やかましいからさがんぶな。」
さかぺら（名）〔鹿〕さか（阪）。
さがっぺら（形）〔市〕傾斜ある。
「さがっぺらな机だ。」
さがよと（名）〔雄〕よっぱらひ。
さぎ（名）〔由〕先程。
さぎあし（名）〔仙、平、雄〕竹馬。
さぎおどでな（名）〔北、南、平、雄、由〕一昨々日。
さぎおどどし（名）〔市、雄〕一昨々年。
さきた（名）〔鹿、山、市、仙、平、由〕さっき（先き）。
さきだ（名）〔鹿〕さっき（先刻）。
さぎだ（名）〔雄〕さっき（先刻）。

さっきに（副）〔南、市〕さきに。
「彼はさっきに往った。」
さっきゃく（副）〔平〕早速。
「さっきゃく出かけて行く。」
さっきゃぐ（副）〔市、河、雄〕早速。
「さっきゃぐ取り掛れ。」
さきわけいわしばな（名）〔河〕はこねうつぎ。
ざぐ（名）〔仙〕惡者。
さぐんべる（動四）〔平〕火におしやってくべる。
「木をさぐんべてよくもやせ。」
さぐやぐ（名）〔山〕しゃくやく（芍藥）。
さぐらご（名）〔市、由〕さくらんばう（櫻實）。
さぐらどり（名）〔山〕むくどり（椋鳥）。
〔平〕ひよどり（鵯）。
ざぐわり（名）〔河、仙、雄〕こけらわり。
さげ（名）〔市〕酒。

さっけ（形）〔山〕冷い。
「今日は雪が降ってさっけ。」
さげゐ（名）〔雄〕境界。
さけのよ（名）〔河、仙、平、雄、由〕鮭。
さげのよ（名）〔平〕鮭。
さけよと（名）〔雄、由〕よひどれ。
さげよっと（名）〔平〕さけによった人。
ざーご（名）〔市〕ゐなか（田舍）。
ざっこ（名）〔市、平、雄〕小魚の總稱。
ざーごたろー（名）〔仙〕ざいがうもの（田舍漢。）
ざことり（名）〔雄〕漁夫、釣者。
さーさ（感）〔山、市、河、平、雄、由〕やり損ねの歎聲。
「さーさ大變な事をした。」
ささんぎ（名）〔鹿、山、南、仙、雄、由〕ささげ（大角豆）。

ささくり（名）〔仙〕 さゝくれ、さかむけ。

さざござ（副）〔北〕 雜然と。

「さざござに裂いた。」

ささって（名）〔山〕 明々後日の次の日。

ささまぎ（名）〔市〕 笹卷。粽。

ささめ（名）〔山、市、平、雄〕 えら（鰓）。

ささる（動四）〔市、由〕 ふける（耽）。

「讀書にさゝる。」

さし（名）〔鹿、市、雄〕 物差。尺度。

さじき（名）〔平〕 たうゑ（田植）。

さしどり（名）〔鹿、市、雄〕 いたどり（虎杖）。

さしびろ（名）〔市、平〕 ねぎ（葱）。

さしまげた（連）〔山〕 さあしまった（失敗）。

「こはれたか、さしまげた。」

ざすぎ（名）〔平〕 座敷。

さんずつ（名）〔仙〕 さんじゅつ（算術）。

さすどり（名）〔北〕 いたどり（虎杖）。

ざんぞほる（連）〔平〕讒言する。惡口する。

「あの人はよくざんぞほる。」

さだ（名）〔平〕 訴訟。

さだげねぁ（連）〔雄〕 此の上なく恥づかしい。

「さだげねぁ思ひをした。」

さんだげねぁ（形）〔平〕 恥しい。

「さんだげねぁことだ。」

さだでる（動四）〔雄〕 おだてる。

「餘りさだでるな。」

さだんでる（動四）〔雄〕 耳をそばだてる。

「耳をさだんでて聞け。」

さんだらぼっち（名）〔山、市〕 たはらぶた（俵蓋）。

さちき（名）〔平〕 皐月（田植）。

さつき（名）〔南、雄、由〕 田植。

さって（名）〔北〕 雪搔。

さど（名）〔山、南、市、雄〕 さたう（砂糖）。

さど（名）〔由〕 こがは（小川）。

ざど（名）〔市、仙、〕 座頭（盲人）。

ざどー（名）〔雄〕 目くら。

さんど（名）〔河、由〕 やゝ大きな溝。

さっと（副）〔北、山、南、市、仙、平、雄〕 すこし。

「さっと食ふ。」

さっとが（副）〔平〕 すこし。

「砂糖をさっとが下さい。」

さどかんびん（名）〔雄〕 雪を繪の具にて染めて遊ぶ遊び。

さっとびゃこ（副）〔平〕 少し。

「さっとびゃこ下さい。」

さどめんこ（名）〔雄〕 さどかんびん。

さどめんこ（名）〔市〕 非常にかはゆい兒。

さない（連）〔市、雄〕 しない。

「勉強さない。」

さなずら（名）〔平〕 三角蔓。

さなんぶり（名）〔河、平〕 田植休。 田植じまひの宴會。

さなむ（動四）〔鹿、北〕 折檻する。

「そんなにさなむな。」

さねぁ（連）〔市、雄〕 爲さぬ。

「そんな事をさねぁ。」

さんねぁ（連）〔平〕 せぬ。

「以後さんねぁつもりだ。」

さばさし（名）〔平〕 うをばうちやう（魚庖刀）。

さっぱし（副）〔平〕 さっぱり。

「あの人のお話はさっぱしわからない。」

さばだげ（名）〔山〕 さまたげ。妨げ。

さはち（名）〔市、平〕 大皿。

さび（形）〔山、市、仙、雄、平〕 さむい。

「今朝はさび。」

さんび (形)〔南、河、平〕寒い。

「さんびではないか。」

さびい (形)〔北〕さむい。　寒い。

「さびい風だな。」

さびがる(動四)〔仙〕　さむがる。

「一年生たちさびがってふるへて居た。」

さっぴら (副)〔市、平〕　さっぱり(淡泊)。

「さっぴらとしたものがたべたい。」

さんぶい (形)〔河〕　さむい(寒い)

「なんとさんぶい。」

さぶえ (形)〔仙〕　寒い。

さぶぎ (名)〔雄〕　せき。咳。

「あゝさぶえ。」

さふぁじ (名)〔仙〕　大皿。

さぶしねぁ (連)〔山〕　淋しい。

「木が茂ってさぶしねぁ處だ。」

さふぇぁふり (名)〔由〕　張本人。

さんべちょ (名)〔南、市〕　おしゃべり。

さべちょこ (名)〔山〕　おしゃべり。

ざへぁにん (名)〔平〕　さはいにん(差配人)。

さべる (動四)〔山、市、仙、雄、平、由〕　しゃべる。

「ぐちゃぐちゃさべるとやかましい。」

さんべる (動四)〔南、河、平〕　喋る。

「餘りごだごださんべるな。」

さっぽ (感)〔平〕　失敗した時の歎聲。

「あゝさっぽ。」

ざま (名)〔市、由〕　樣。

ざまぐる (動下二)〔雄〕　たはむれる(戯れる)。

「こら、ざまぐるな。」

さまこ (名)〔鹿〕　勝手口。

ざまみれ (連)〔市、雄〕　ざまみろ。

「ざまみれやめなさいと言ったではないか。」

さみ (形)〔市、平、雄〕　寒い。

「あゝさみ。」

さみい (形)〔平〕　さむい(寒い)。

「今日は隨分さみい日だ。」

さみし (形)〔市、平〕　さびしい(寂しい)。

「さみし晩だった。」

さむぎ (名)〔平〕　惡寒。

さむぎだち (名)〔市〕　惡寒。

さむし (形)〔雄〕　すごい(凄い)。

「昨夜盜人が入ってさむしかった。」

ざも (名)〔仙〕　深い笊。

さもねぁ (連)〔平〕　聊な。なんでもない。

「あの人はさもねぁことを心配してる。」

さよじる (動四)〔平〕　おしゃべり(喋々)する。

「彼の人は隨分さよじる人だ。」

さら (接頭)〔市〕　くさす意に用ひる。

「さらやめろ。」

ざら (名)〔平〕　かたかけ(肩掛)。

さらう (動四)〔市、仙、平、雄、由〕　はしる(走る)。

「犬がさらって來た。」

さらうげぁっこ (名)〔雄〕　競走。

さらぐ (動四)〔南、市、河〕　やめる、見合せる。

「そんなことさらげ。」

さらさって (名)〔北〕　明後後日。

ざらざらじ (連)〔平〕　ぞっとする。

「指切ったのを見ればざらざらじ。」

ざらざらする (連)〔市〕　ぞっとする。

「そんなことをするとざらざらする。」

ざらっと (副)〔市、平〕　一面に。

「市場には色々の店がざらっとならんでゐる。」

さらぼけぁ (名)〔由、本〕　はしりっこ、徒歩競走。

さられぁげつ（名）〔由〕三個月目。
さられぁねん（名）〔市、雄〕 明々後年。
さるこむし（名）〔雄〕 蟻地獄。
されぁ（接頭）〔平〕 くさす意に用ふ。
「されぁ止めた」
されぁげつ（名）〔市〕 再來月、翌々月。
されぁねん（名）〔市〕 再來年、明後年。
さわ（名）〔市、仙、平、雄〕 たに（谷）。
さわら（名）〔由〕 虚言。
さんけ（名）〔市、雄〕 みけ猫。
さんこげぁろ（名）〔北〕 赤蛙。
ざんぞ（名）〔平〕 けってん（缺點）。
さんだら（名）〔平〕 さんだらぼふし（俵蓋）。
さんちかん（名）〔山、南、市〕 三時間。
さんでんめぁ（名）〔雄〕 小作米。
さんと（名）〔南、市、平、雄〕 産婦。

さんぱじ（名）〔市、河、雄〕 おてんば（お轉婆）。
「家の妹はさんぱじだ。」
さんぱず（名）〔南、市、平〕 おてんば。
さんぱち（名）〔山、仙、平、雄〕 おてんば。
さんぱつ（名）〔仙、雄〕 御轉婆。
さんぺ（名）〔平〕 藁靴。
さんぺー（名）〔仙、平〕 藁にて作った形長靴の如きもので雪中に用ひるもの。
さんぺん（名）〔河、雄〕 三べん（三遍）
さんぽろりん（名）〔市、河〕 零落姿。
さんめぁ（名）〔市〕 さんまい（妊娠）。
さんめぁぐ（名）〔河〕 さんみゃく（山脈）。

◈し の 部

し（接尾）〔北〕 尊稱の接尾語。
「おとうさんし。」
じ（名）〔鹿、雄〕 祖父。

じ（名）〔雄〕 じふ（十）。
じ（助）〔鹿、北、平〕 と云ふ事の略。
「花子さんはお嫁に行くじでないか。」
しが（名）〔山、市、河、平、雄、由〕 こほり（氷、凍）。
じかぎむし（名）〔南、市、河〕 水すまし（豉蟲）。
じっかきむし（名）〔市〕 水すまし。
しがくする（連）〔市、平、雄〕 處理する。
「かまど（財産）をしがくする。」
しんがぐする（連）〔河〕 まさかの時の用意する
しかげる（動下一）〔市、由〕 ひっかける。
「小便しかげるぞ。」
しかしか（名）〔山〕 かたばみ（酢漿草）。
しかせる（動四）〔鹿、北、山〕 をしへる（教へる）。
「家の人にしかせる。」
しかだねぁ（連）〔山、市、仙、平〕 すまない。
「ほんたうにしかだがねぁことをした。」

しかたねぁひと（名）〔市、雄〕 貧乏人。
しがま（名（〔鹿、北〕 こほり（氷）。
しがわり（名）〔鹿〕 豌豆。
しかんぼ（名）〔仙〕 かたばみ。（酢漿草）。
しき（名）〔平〕 しきゐ（敷居）。
しぎ（名）〔市、仙、平〕 敷居。
じき（名）〔鹿〕 人糞肥料。
じぎ（名）〔南、市、仙〕 肥料。
じぎ（名）〔平〕 時。
じんぎする（連）〔市、平〕 遠慮する。
「じんぎしないで食べて下さい。」
しぎでねぁ（連）〔平〕 きらひな。
「しぎでねぁ人だ。」
じぐ（名）〔市、河〕 肝魂。
しぐう（動四）〔市〕 汲ふ。
「網で魚をしぐう。」

しくじる（動四）（山、仙） 失敗する。
「畫をしくじった。」
じぐす（動四）（平） しくじる。
「淸書じぐした。」
しくた（連）（鹿） しくじった。
「今日の試驗はしくた。」
しくった（連）（北） しくじった。
「さーしくった。」
じぐだれ（名）（平） 臆病者。
しくなきどんり（名）（由） ひくなぎ（鶺鴒）
じぐなし（名）（鹿、山、南、市、河、仙、平、雄） おくびゃうもの（臆病者）。
じーくなる（連）（雄） 變化の狀態をあらはす語。
「胸がどきん〳〵じくなった。」
じくねぁもの（名）（平） 臆病者。
じくねーる（動下一）（河） あせる。

じくべ（名）（平） つくし（土筆）。
じぐべ（名）（市、雄） つくし（土筆）。
しぐみ（名）（市、仙） さじ、ちりれんげ（散蓮華）。
しっくりぎゃる（連）（平） てんたうする（轉倒する）。
「轉んでしっくりぎゃる。」
じぐる（動四）（仙） しかる（叱る）。
「そんなにじぐるな。」
しぐれ（動四）（山、仙） とぢよ。
「眼しぐれ。」
しぐゎ（名）（山） 西瓜。
しけ（名）（北、河、平） 末席。
しげ（名）（北） 鬚。
しけぁ（形）（鹿、仙、平） すっぱい。
「酒が腐敗するとしけぁぐなる。」
しっけ（形）（山） しかい。

「此の密柑は酢のやうにしっけな。」
じっーけぁ（名）（河） 老牡雞。
しげぁ（名）（仙） 死骸。
しけぁしけぁこ（名）（雄） かたばみ。
じけで（連）（平） つつんで。
「じけでおがれないといふ。」
じけぁとり（名）（南） 取り止めもなき者。
しけんばち（名）（河） 末席。
しける（動下一）（市、仙、平） 手傳ふ。
「しけるから大急ぎでやれ。」
しげる（動下一）（山） 歛める。
しける（動下一）（山） とりかへる。
「太郎と次郎の席をしける。」
じっこ（名）（山、南、市、河、平、雄、由） としより（年寄）
しこたま（副）（平、雄） たくさん（澤山）に。

「飯をしこたま食った。」
しっこたま（副）（仙） うんと。
「桃をしっこたま喰った。」
しこめ（動四）（平） ひっこめ（引込め）。
「そっちへしこめ。」
しざ（名）（平） ひざ（膝）。
じーさ（名）（仙、平、雄） おぢいさん。
じざぁーに（副）（仙） 自在に。
「じざぁーに動かない。」
じさま（名）（仙、平、雄） おぢいさん。
しし（名）（平） おすし（お壽司）。
しじ（名）（仙） 大きな德利。
しじ（名）（仙） 淸泉。
じじ（名）（南、市、河、仙、平、雄） きたないこと（穢いこと）。
じっじー（名）（仙） 祖父。

しじがる（動四）（鹿）揶揄する。
「しじがって泣せるな。」
しじこ（名）（山）しづく（雫）。
しじちり（名）（平）ひぢ（肱）。
ししのは（名）（鹿）紫蘇の葉。
じじはん（名）（由）ぢいさん（祖父さん）。
じじまご（名）（平）來孫。
ししまし（名）（平）ししまひをやる者。
ししまわし（名）（雄）角兵衛獅子。
ししめぁ（名）（平）角兵衛獅子。
しじめんどくせぁ（連）（平）大變面倒臭い。
「なんだしじめんどくせぁな。」
しじゃかぶ（名）（鹿）ひざがしら（膝頭）。
じしゅとも（副）（雄）是非とも。
「じしゅとも來い。」
じじょ（名）（山）墓。

じじょ（名）（山）地蔵菩薩。
じじょ（名）（鹿）人形。
じんじょ（副）（雄）きっと、治定。
「今日じんじょ雪になるだらう。」
しず（名）（平）清水。
しず（名）（平、雄）びん（瓶）。
しんず（名）（雄）しみづ（泉水）。
しずがる（動）（鹿、北）からかふ。
「子供にしずがって泣せた。」
しんずぎゃに（副）（雄）しづかに（靜に）。
「しんずぎゃに歩け。」
しずりばこ（名）（平）硯箱。
じせぁ（名）（市、河、仙、平）じさい（時齋）。ほふじ（法事）の事。
じせぁこ（名）（山、平、雄）簡單な法事。
したおの（連）（平）そんなもの。

「したぉのなげれ。」
したおび（名）（山、市）褌。
しだが（連）（平）しましたが。
「言ひ付けた通りにしだが。」
したがら（接）（平）さうだから。
「したがら止めれと言ったでないか。」
したぎ（名）（平、雄）つば（唾）。
したけ（接）（山）さうすると。
「雨が降った、したけ路が悪くなった。」
したけぁ（接）（市、鹿）さうしたら。
「俺は青梅を食った、したけぁその晩腹痛を起した。」
したごでぁ（連）（平）したことよ。
「勉强したごでぁ。」
したごど（連）（雄）そんなこと。
「したごどするな。」

したさね（連）（北）しましたよ。
「喧嘩したさね。」
しただか（副）（市、平）非常に。
「しただか食った。」
しただごど（連）（平、雄）そんなこと。
「しただごどやめれ。」
しただに（副）（平）そんなに。
「腹がすいてもしただに食べてはいけない。」
したつ（名）（雄）ふたつ（二つ）。
したて（接）（鹿、市）それでも。
「俺もあの戸を開けに行って見た、したて全く開けられなかった。」
したども（接）（市、仙、平、雄）さうだけれども。
「したどもその様に許りいつも行くものでない。」
したんども（接）（由）さうだけれども。

「したんども俺はかう思ふ。」

したに（副）（平） そんなに。

「したに泣くな。」

したば（接）（山、市、仙、平、雄） さうしたら。

「吹いた、したば消えた。」

したんば（接）（河、由） さうしたら。

「したんば行ってしまった。」

したばこ（副）（平） そんなにすこし許り。

「菓子は、したばこいらない。」

したばしゃ（接）（雄） さうしたところが。

「犬が死んだとさ、したばしゃぢぢいはそれを埋めてその上に木を植ゑたとさ。」

したばりこ（副）（平） それ許り。

「したばりこよりないか。」

したふぎ（名）（全縣） ざふきん（雜巾）。

したまぶち（名）（雄） ふたへまぶち（二重眼瞼）。

したら（接）（山、市、仙、平、雄） それなら。

「したらかうしなさい。」

したらまんち（連）（平、雄） そんなら先づ。

「したらまんち休め。」

したらまんつ（連）（平） そんなら先づ。

「したらまんつまた來い。」

しんだり（名）（河） 左。

しったり（副）（河、雄） 悉く皆。

「しったり汚してしまった。」

じったり（副）（仙） 始終。

「じったりいたづらする人だ。」

したんせ（連）（仙、平） しなさい。

「さうしたんせ。」

じっち（名）（平） ぢい（爺）。

しちゃ（代）（山、雄） そちらへ。

しちゃ（形）（鹿） ちひさい。

「しちゃ子だな。」

じっちゃ（名）（鹿、山、北、南、市） ぢいさん。

しちゃくちゃに（副）（北市、） めちゃくちゃに。

「しちゃくちゃに揉めた。」

しちゃまかちゃま（名）（市、河、仙、平、雄） あべこべ。

じでぁー（名）（仙） 時代。

しておの（名）（平） 單衣。

してきぁしもの（名）（平） ろくでなし。

してけれ（連）（平） して下さい。

「これをしてけれ。」

してぁこ（副）（平） ちょっと（一寸）。

「してぁこまで。」

してぁっこ（名）（平） 一寸の間。

してたんせ（連）（仙） して下さい。

「此のし事をしてたんせ。」

じでぁに（副）（市） いっかうに（一向に）。

「近頃はあの男がじでぁに來なくなった。」

してもの（名）（河、平） ひとへもの（單衣）。

しってり（河、雄） 悉く皆。

「薪をしってりたいてしまった。」

しと（名）（仙、平） ひと（人）。

しどげ（名）（平） もみぢがさ。

しとごろ（名）（雄） ふところ（懐）。

しとじ（形）（平、雄） ひとしい。

「あれとこれとしとじだ。」

しとずに（副）（仙） 一しょに（一緒に）。

「しどずに歩め。」

しとつ（形）（平） 同じ。

「私のとお前のとしとつだ。」

しとめ（名）（山） しとみ（蔀）。

しとめぁわり（連）（仙、平） 恥しい。

「きれた着物きてしとめぁわるい。」

しな（名）〈市、河、仙、雄〉 粃（しひな）。

しない（形）〈雄〉 しなやかに堅い。

「此の澤庵漬はしなくて嚙めない。」

じなしに（副）〈平〉 大變。

「これはじなしに大きい。」

しなぶける（動下一）〈市、山〉 萎縮する。

「野菜を日にあてればしなぶける。」

しなりやなぎ（名）〈由〉 しだれやなき（枝垂柳）。

しなる（動四）〈雄〉 撓ふ。

「木の枝がしなる。」

しねぁ（形）〈鹿〉 こはい（强い）。

「この肉はしねぁくてとてもたべらえねぁ。」

しねぇ（連）〈雄〉 知らぬ。

「行ったがしねぇ。」

じねくねする（連）〈雄〉 ぐづぐづする。

「じねくねしないで云ひなさい。」

しねくねで（連）〈河〉 ぐづぐづする。

「あんまりしねくねで。」

しの（名）〈由〉 ふるひ（篩）。

しぱ（名）〈鹿〉 しものはう（下の方）。

しぱ（名）〈平〉 しっぽ（尻尾）。

しっぱ（名）〈北、山、平、雄〉 下の外れ。

しはく（名）〈花〉 浮塵子（害虫）。

しばご（名）〈北、山〉 さなだむし。

しばし（名）〈平〉 火ばし。

じっぱし（副）〈山〉 澤山。

「じっぱしある。」

しぱしょり（名）〈北、南、河、雄、由〉 尻端折。

しっぱしょり（名）〈市、平、雄〉 尻端折。

しぱしょる（動四）〈河〉 尻からげする。

しばや（名）〈山、仙〉 芝居。

しばらし（形）〈鹿〉 やかましい（喧しい）。

「子供らがさわいでしばらしい。」

じっぱり（副）〈鹿、山、北、仙、平、雄、由〉 澤山に。

「じっぱり貰った。」

しぱる（動四）〈平〉 ひっぱる（引張）。

「余りしぱるな。」

しはれぁ（名）〈仙〉 支拂。

しばれる（形）〈鹿、北〉 さむい（寒い）。

「今日はひどくしばれる。」

じばん（名）〈北、南、平、雄、由〉 襦袢。

じばんこ（名）〈仙、平〉 はんてん（半纏）。

しび（形）〈市〉、由 しぶい（澁い）。

しび（名）〈仙〉 あかぎれ。

「しび柹だ。」

しんび（形）〈南、河〉 澁い。

「柹は非常にしんび。」

じんびぇぁ（名）〈仙〉 蕁。

しびずけなし（名）〈北〉 不潔な人。

しぴたれ（名）〈北〉 不潔。

しびたれ（形）〈平〉 りんしょくな。

「あの人はほんたうにしびたれな人だ。」

しぴたれない（形）〈鹿〉 だらしない。

「しぴたれない人だ。」

じんぴまけ（名）〈鹿〉 おしゃれな人。

じんぴまける（連）〈鹿〉 ハイカラをする。

「あの人はじんぴまけだ。」

しんぶくさ（名）〈河〉 伸繼。

しぶと（名）〈鹿〉 ゐろり。（圍爐裏）。

しふろ（名）〈北、平、雄〉 すゑふろ（据風呂）。

じべ（名）〈山〉 椿桃。

しべ（名）〈鹿、仙〉 藁靴の一種。

しべぁ（名）〈平〉 芝居。

じへぁ (名)(南) 時斎。
しっぺ (名)(仙) 指で人をうつしっぺい?
しっぺぁ (形)(鹿) しばしこい(敏捷)。
「あの人は物にしっぺぁ人だ。」
しべぐず (名)(由) わらぐつ(藁靴)。
しべくる (動四)(鹿) 滑る。
「此の坂をしべくる。」
しべぁごや (名)(平) 芝居小屋。
しべたら (名)(雄) わらぐつ(藁靴)。
しぺっと (副)(平) みな(皆)。
しっぺり (副)(北) しっかり。
「しっぺり忘れてしまうた。」
しべる (動四)(山) 滑る。
じほ (名)(鹿、仙) うそ。
じぼ (名)(山) 鯔。
じっぽ (名)(仙) つつそで。

じほまげる (連)(鹿、平) うそをいふ。
「あの人はじほまげた。」
しま (名)(山) 隅。
しんま (名)(鹿) すみ。
しまく (動四)(平、雄) 捕へる。
「しまく様がない(鯔など)。」
しまぐぁならねぁ (形)(平、雄) しまつにおへぬ。
「しまぐぁならねぁ程魚がとれた。」
じままげて (連)(平) 自慢して。
「あの男じままげでる。」
しまだれ (名)(平) ひまつぶし。
しまる (動四)(鹿) しまふ(藏ふ)。
「大事にしまる。」
じまんまける (連)(雄) おしゃれする。
「じまんまける人だ。」
じみ (動上一)(雄) 太る。

「手足が大層じみた。」
しみさ (名)(鹿) しるの中の菜をいふ。
しみし (名)(南、市、仙) おしめ。
しみったれ (名)(仙) けちんばう(吝嗇坊)。
しみばれ (名)(雄) 霜焼。
しみる (動四)(鹿、北、仙、平、由) こほる。
「水がしみる。」
しめぁ (連)(平、雄) 序に。
「行きしめぁに紙を買ふ。」
しめぬ (連)(平、雄) 序に。
「行きしめぁに紙を買ふ。」
しめぁぐせねぁ (連)(平) 手におへぬ。
「きかなくてしめぁぐせねぁ子供だ。」
しめし (名)(平) おしめ。
しめに (副)(山) 終りに。
「しめに泣いた。」

し の 部

しめぁのがみ (連)(河) 結局。
しめぁのだび (副)(平) 最後に。
「しめぁのだびに泣いた。」
しめゑる (動四)(北、平、雄) 捕へる。
「鳥をしめぁる」
しもう (動四)(市、雄) しむ、しみこむ。
「此の藥は大變目にしもう。」
しゃ (接尾)(雄) でせうね。
「行かねべしゃ。」
しゃ (接)(平) よ又はさ。
「行くともしゃ。」
しゃ (助)(雄) さへ。
「錢しゃもあればどんな事も出來る。」
じゃ (感)(鹿) やあー、おー。
「じゃこれは美事な花だ!」。
じゃー (感)(北) やあ。

「じゃぁ久しぶりだな。」
しゃがじ（名）〈雄〉　さいかち、皂角子。
しゃがん（名）〈仙〉　さくゎん（左官）。
じゃく（名）〈仙〉　めうま（牝馬）。
じゃっく（名）〈鹿、北〉　おてだま（お手玉）。
しゃくご（名）〈仙、平、雄、由〉　物指。
しゃくこ（名）〈市〉　ものさし（尺度）。
しゃぐんご（名）〈南、河〉　物指。
しゃぐし（名）〈雄〉　汁を抄ひとるもの（杓子）。
しゃぐはじ（名）〈市〉　尺八。
しゃっくり（名）〈市〉　吃逆。
しゃぐゎ（名）〈平〉　左官。
しゃぐゎん（名）〈雄〉　左官。
しゃっけ（形）〈山〉　冷たい。
「やあしゃっけ水だ。」
しゃけれ（動下一）〈雄〉　去れ。

しゃこ（名）〈雄〉　さい（釆）。
じゃご（名）〈南〉　雑魚。
じゃんご（名）〈北〉　お手玉。
じゃっこ（名）〈鹿、山、仙〉　ざっこ（雑魚）。
しゃっこい（形）〈鹿〉　つめたい（冷たい）。
「まだまだしゃっこくて着られない。」
じゃごたろーふぐべ（名）〈平〉　ゐなかもの。
じゃさん（名）〈鹿〉　母。
しゃじ（名）〈山、市、平〉　さじ（匙）。
じゃしき（名）〈鹿、山〉　ざしき（座敷）。
しゃじぎ（名）〈平、由〉　さじき（桟敷）。
しゃじぎたもの（連）〈代〉〈平〉　そんなもの。
「しゃじぎたものはいらない。」
じゃじゃ（名）〈鹿、北、南、河〉　主婦、お母さん。
じゃじゃぼこ（名）〈南〉　まゝごとあそび。

じゃじゃぼっこ（名）〈市〉　まゝごと遊び。
しゃず（名）〈平〉　匙。
しゃずげぁたもの（連）〈雄〉　そんなもの。
しゃだんべ（連）〈雄〉　それだらう。
「化物といったのは多分しゃだんべ。」
しゃちげぁた（しちきた）（形）〈平〉　そんな（其の様な）。
「しゃちげぁた物は用がない。」
じゃっちゃ（名）〈仙、平、雄〉　お母さん。
しゃつら（連）〈雄〉　そいつ等。
「しゃつらは馬鹿だ。」
しゃて（名）〈平〉　弟。
しゃで（名）〈仙、平〉　おとうと（弟）。
しゃでぁ（動）〈平〉　しらない。
「そんなことしゃでぁ。」
じゃでぁ（名）〈仙〉　龍。

じゃど（名）〈鹿、山〉　めくら（盲人）。
しゃばん（名）〈平、雄〉　まないた。
じゃひ（名）〈鹿、北、仙、平、雄〉　あばた。
しゃっぷ（名）〈南、仙、平、雄〉　帽子。
しゃぶぎ〈平、雄〉　せき（咳）。
じゃべ（名）〈雄、由〉　女。
じゃっぺ（名）〈鹿〉　おしゃべり。
じゃべする（連）〈由〉　しゃれる。
「あまりじゃべするといはれる。」
じゃべたげる（連）〈由〉　しゃれる。
「近頃あまりじゃべたげるやうな。」
しゃべちょ（名）〈雄、由〉　おしゃべり。
しゃべちょこ（名）〈山〉　おしゃべり。
しゃべな（連）〈山〉　言ふな。
「私がお前に話したことを外の人にしゃべな。」
じゃんぼ（名）〈南、山、河〉　あばたづら。

しゃっぽ（名）（河、雄）帽子。
じゃぼつら（名）（仙）あばたづら。
じゃま（名）（南）様子。
しゃみしぇん（名）（市）三味線。
しゃもも（名）（平）麥李。
じゃや（名）（南、河）主婦、お母さん。
じゃらける（動下一）（雄）じれる。「
しゃりむり（副）（平）强ひて。
「否と云ふのをしゃりむり承知させた。」
しゃる（動四）（南、河、平、雄）去る。
「自動車が行った、しゃれしゃれ。」
じゃる（名）（鹿、山、南）笊。
しゃれこべ（名）（市）されかうべ、しゃれかうべ、髑髏。
じゃれる（動下一）（由）戯れる。
「ねごぉ（猫）まりさじゃらける。」
しゃわら（平）打たぬ藁。
しゃわん（名）（平）茶碗。
しゃんが（名）（平）左官。
じゃんが（名）（平）痘痕。
じゃんぐゎ（名）（市、河、雄）あばたづら。
しゃんぐゎ（名）（平）左官。
じゃんず（名）（南）匙。
しゃんた（形）（平）そんな。
「しゃんた物嫌ひだ。」
じゃんべ（名）（南、由）年若い女子。
じゃんぽん（名）（平）葬式の兒童語。
しゅ（名）（鹿、雄西）火。
しゅ（名）（南）日。
しゅう（動）（河）言ふ。
「さうしゅうと損する。」

しゅぎ（名）（市）最屓。
しゅぎ（名）（市）婚禮。
しゅーぎ（名）（河）最負。
じゅーんぐり（名）（河）周圍。
しゅっくり（副）（市）非常に。
「しゅっくり叩いた。」
しゅくりげぇす（連）（市、仙）轉倒さす。
「バケツをしゅくりげぇす。」
しゅこ（名）（山、平）せうべん（小便）。
じゅこ（山）重箱。
じゅっこ（名）（南、雄）ぢゅうばこ（重箱）
しゅごえ（名）（仙）ひごひ（緋鯉）。
じゅさん（名）（市、雄）じゅんさ（巡査）。
しゅで（形）（雄）ひどい。
「しゅで天氣だ。」
しゅてぉこ（名）（雄）一寸。
しゅなんこ（名）（南）雛。
しゅばし（名）（由）火箸。
しゅび（名）（市）戰。
じゅっぷがす（連）（南）煩瑣だ。うるさい。
「この子にかけてじゆっぷがす。」
じゅっぷがする（動）（南、北、市、河）懲りる。
「あの男にもじゅっぷがした。」
じゅっぷかする（動）（市、河、雄）あきあきする。
「この雨續きにはじゅっぷがする。」
じゅぶがする（連）（雄）あきあきする。
「毎日の吹雪でじゅぶがしだ。」
しゅもの（名）（市）乾魚。
しゅやぐ（名）（仙、雄）ひしゃく。
しゅやし（名）（仙）ひさし（庇）。
しゅやしぶり（連）（仙）ひさしぶり（久し振り）。
「やあ君しゅやしぶり。」

しゅやしんぶり（連）（河）久し振り。
「しゅやしんぶりで來たから泊りなさい。」
しゅーり（名）（河）日和。
しゅるす（名）（雄）しるす（印）。
しゅろ（名）（北、南、河、仙、平）ひろ（晝）。
しゅろこ（名）（雄）かひこのさなぎ。
しゅろこ（名）（北、仙、平、雄）蒜。
しゅろしぎ（名）（仙）ごご（午後）。
しゅろまい（名）（仙）ひるまへ、ごぜん（午前）。
じゅんしぇぇ（名）（雄）じゅんさい（蓴菜）。
じゅんせぁ（名）（山）蓴菜。
しゅんでこ（名）（平）しほで（牛尾草）。
じゅんぶが（副）（雄）よくよく身にしみるほど。
「あのよっぱらひにはじゅんぶがした。」
じゅんぶがする（動）（平）あきあきする。
「やがましい子供だな、ほんとにじゅんぶがする。」
しぇっかぐ（副）（平）折角。
「しぇっかぐ待って居たが來なかった。」
しぇがら（接）（平）それから。
「顔を洗ってしぇがら飯を食った。」
しぇっきり（副）（平）せい一ぱい（精一杯）。
「今日は煤拂でしぇっきり働いた。」
じぇぉぐ（名）（仙）牝馬。
しぇげ（名）（仙、由）せき（堰）。
じぇんこ（名）（北、南、仙、雄）錢。
しぇぉっこ（名）（平、雄）おかづ（食物の菜）。
じぇすぇぉこ（名）（仙）佛事。
しぇずらねぁ（連）（雄）身の置き處ない様なこと。
「朝から晩までし事が多くてしぇずらねぁな。」
しぇどかげ（名）（平）まゝはゝ（繼母）。
しぇどもの（名）（仙）瀬戸物（磁器）。

しぇな（名）（雄）兄。
しぇなぎ（名）（雄）流し尻のどぶ水。
じぇに（名）（南）錢。
しぇねぁじゃ（連）（北）いはないよ。
「おれはさうしぇねぁじゃ。」
しぇば（接）（市、平、雄）さうすれば。
「しぇば行けばよいか。」
しぇぉばん（名）（平、雄）まないた（俎）。
しぇぉばんこ（名）（仙）俎板（まな板）。
しぇぉふ（名）（山、平）さいふ（財布）。
しぇふ（名）（鹿）さいふ（財布）。
しぇふぁず（形）（雄）根氣よく稼ぐ。
「しぇふぁずな人だから貯金した。」
しぇふぁずんだ（連）（河、雄）力一杯。
「しぇふぁずんで働いて貰った。」
じぇふぇら（名）（仙）下ずぼん。
しぇっぺぁ（副）（雄）うんと、澤山。
「しぇっぺぁ遊んだ。」
しぇぁもず（名）（平）別家。
しぇやみ（名）（平）なまけもの。
しぇりこ（名）（仙）芹。
しぇる（動四）（鹿、仙、平）いれる（入れる）。
「ポストに手紙しぇる。」
しぇわ（名）（平）せわ（世話）。
しぇわしねぁ（形）（仙、雄）うるさい。
「しぇわしねぁぐするな。」
しぇんきやむ（連）（平）よけいなことにくちをだす。
「あの奴はよく人にしぇんきやむ男だ。」
じぇぁんご（名）（鹿、平、雄、由）ゐなか（田舎）。
しぇんしぇい（名）（平）先生。
しぇぁんしょ（名）（河）山椒。

しぇんち（名）〈仙〉 便所（雪隠）。
しぇんちえ（名）〈平〉 便所（雪隠）。
しぇんどな（名）〈雄〉 先日。
しぇぁんばん（名）〈鹿〉 まないた（俎板）。
じぇぁんべぁ（名）〈仙〉 づばいもゝ（油桃）。
しぇんぼぐ（固）〈河〉 せんぼく（仙北）。
じぇんみぇぁ（名）〈仙〉 ぜんまい（蕨）。
しょ（名）〈鹿、山、北、南、河、仙、平、由〉 鹽。
しょ（代）〈平、雄〉 君。
しょー（代）〈雄〉 君。
じょー（名）〈平〉 女兒。
じょー（助）〈平〉 と云ふ（てふ）。
「山へ行がねじょーもの。」
しょい（ゆ）（名）〈仙〉 醬油。
じょい（名）〈鹿〉 ゐま（居間）。
しょいこあきねぁ（名）〈仙〉 ぎやうしやう にん（行商人）。
「兄はしょいこあきねぁである。」
しょう（動四）〈市、河、平、雄、由〉 負ふ。
「米しょう。」
じょえ（名）〈平〉 居間の名。
しょがら（名）〈南、市、仙、平、由〉 鹽辛。
しょがらごえ（名）〈市〉 しわがれ聲。
「しょがらごえをはりあげて歌ふ。」
しょがらむし（名）〈河、由〉 けむし（毛蟲）
「しょがらむしはきらえだ。」
じょぎ（名）〈南〉 雜巾。
しょぎばる（動）〈平〉 こはばる（硬張る）。
「餘り凍って手拭がしょぎばてしまった。」
じょげぁ（名）〈南、河〉 大槌（かけや）。
じょげする（連）〈鹿〉 あきる。
「先刻から本を讀み續けたらじょげした。」

じょげる（動四）〈平〉 寄る。
「びゃっこじょげる。」
じょげる（動下一）〈北〉 飽きる。
「じょげる丈け喰った。」
じょこ（名）〈平〉 女兒。
じょこ（名）〈北〉 競技。
しょっこ（名）〈雄〉 鹽。
じょっこ（名）〈山、河、仙、平、雄、由〉 孃さん。
じょこじょご（名）〈鹿〉 竹馬。
しょーことなし（連）〈平〉 爲方なし。
「否であったがしょーことなしに勉強した。」
じょさねぁ（連）〈河、平、雄〉 ざうさない（造作ない）。
「こしらへるにじよさねぁ」
じょっさねぁ（連）〈南〉 造作ない。
「おれ方の試驗はじょっさながった。」
じょーさねえ（連）〈雄〉 ざうさない（容易）。
「そんなことじょーさねえ。」
しょーしがる（連）〈由〉 はにかむ（羞む）。
「とてもしょーしくてらちあかない。」
しょし（形）〈由〉 はづかし（恥かし）。
「しょしくてしょしくて。」
しょしがった（連）〈平〉 きまりわるかった。
「あの場合何だかしょしかった。」
じょしき（副）〈市、仙、平、雄〉 必定。
「じょしき、さうです。」
じょっしき（副）〈南、平〉 きっと。
「じょっしき彼の人は活動へいった。」
じょしぎ（副）〈仙〉 かならず（必ず）。
「じょしぎ持ってくる。」
しょしくて（副）〈南〉 恥かし。
「しょしくて人の前に行かれない。」

じょしゃねぁ（連）〈平〉 手抜がない。
「じょしゃねぁ人だ。」
じょじょ（名）〈北、仙〉 魚。
じょじょ（名）〈市、河、仙、平、雄〉 草履。
じょじょこ（名）〈山〉 魚。
しょしょする（連）〈南、河〉 謝罪する。
「あの聟しょしょして戻ったさうだ。」
しょーじんだ（連）〈市、仙〉 そっくりだ。
「あの人は父親にしょーじんだ。」
しょーす（名）〈平〉 氣の毒。
じょーすぎ（副）〈平〉 必ず。
「あの人じょーすぎ來る。」
しょた（連）〈由〉 さういった（然う言った）。
「彼はほんたうにしょた。」
じょだ（連）〈平〉 上手だ。
「あの人は手工じょだ。」

じょーだ（連）〈雄〉 上手だ。
しょんだ（形）〈平〉 變な。
「しょんだ姿。」
じょっちょ（名）〈河〉 孃ちゃん。
しょで（名）〈雄〉 最初。
じょでぁ（副）〈平〉 度々。
「じょでぁに貰ってめんぼくない。」
しょでに（副）〈南、市、河、平、雄、由〉 先に、前に。
「その本はしょでに讀んだ。」
じょーどばこ（名）〈由〉 錢箱。
しょとめ（名）〈仙、平、由〉 燕子花（かきつばた）。
しょどめ（名）〈市、河、仙〉 はなしゃうぶ（花菖蒲）。
しょねわり（連）〈由〉 はくじゃうな（薄情）。
しょねぁわり（名）〈平〉 意地悪者。
じょんばじ（名）〈河〉 飯櫃。

しょぱだれ（名）〈河〉 意地わるもの。
じょっぱり（名）〈鹿、北〉 がうじゃうはり（强情張）
しょーぶ（名）〈平、雄〉 落着のときいふ。
しょーぶした（連）〈雄〉 僥倖する。
「これが、こはれないでしょーぶした。」
しょーぶする（連）〈平〉 大勝利する。
「それ出來たらおれしょーぶする。」
しょべ（名）〈南、市、仙、平、雄、由〉 せうべん（小便）。
しょべ（名）〈仙〉 はうねう（放尿）。
しょぺぁ（形）〈北、南、市、河、平、雄〉 鹽辛い。
「汁は非常にしょぺぁ。」
しょべぁ（名）〈鹿〉 しゃうばい（商賣）。
しょーべぁ（名）〈仙〉 商賣。
しょっぺぁ（形）〈鹿、雄〉 しほからい。
「この澤庵はしょっぺぁ。」

しょべんじゃ（名）〈北〉 小便所。
しょべつぼ（名）〈仙・平〉 小便所。
しょべばつ（名）〈平、雄〉 せうべんじょ（小便所）。
しょーべんじゃ（名）〈由〉 小便所。
しょっぽね（名）〈南〉 根性。
しょみ（名）〈南、河〉 本當、眞實。
しょーみ（副）〈平、由〉 たしかに（確に）
「しょーみ一圓價ある。」
しょむ（動四）〈山、河、由〉 しみ込む。
「この藥は馬鹿にしょむ。」
じょみず（名）〈鹿、北〉 雜水（ざふみづ）。
じょめぁ（名）〈平〉 錠。
じょや（副）〈鹿〉 きっと。
「じょやあるごった。」
じょーや（副）〈雄〉 きっと。
「じょーや來るとおもった。」

じょやぐ〔名〕〔北〕 めうま(牝馬)。
しゅ〔名〕〔山〕 醬油。
しょり〔名〕〔鹿、山、南、平、雄、由〕 そり(橇)。
じょり〔名〕〔山、南、河、雄、由〕 ざうり(草履)。
じょーり〔名〕〔北、平〕 草履。
じょろじょろ〔副〕〔平〕 たくさん(澤山)。
「川の中を見ると雜魚がじょろじょろゐる。」
じょろり〔名〕〔平、由〕 淨瑠埚(義太夫)。
じょうーり〔名〕〔仙〕 淨瑠璃。
しょわしねぁ〔連〕〔河〕 うるさい。
「しょわしねぁ子供だ。」
じょんご〔名〕〔由〕 漏斗。
じょんだ〔名〕〔平、雄〕 **じょうず**(上手)。
しょんだだ〔連〕〔仙〕 變である。
「今日は體がしょんだだ。」
じょんばん〔名〕〔平〕 物の押へとする重い平かな木。

じょんぶ〔名〕〔雄〕 ぢゃうぶ(丈夫)。
しょんぶする〔連〕〔河〕 僥倖する。
「こはれないでしょんぶした。」
じょんべ〔名〕〔河〕 孃ちゃん又は坊ちゃん。
しょんべ〔名〕〔鹿、市〕 せうべん(小便)。
しらがつぶれ〔名〕〔市〕 白髮の人。
しらけもの〔名〕〔平〕 ふざけもの。
しらける〔動下一〕〔河、仙、平、雄〕 ふざける。
「しらける女だ。」
しらごぼ〔名〕〔山〕 白癬。
じらっとして〔副〕〔仙、平〕 知らぬふりして。
「じらっとして居るねあの人。」
しらねぁ〔連〕〔平〕 ふしょうち(不承知)。
「そんなことは少しもしらねぁ。」
しらねぁんす〔連〕〔平〕 知りません。
「昨夜の地震を知って居るか、知らねぁんす。」

しりこじゃり〔名〕〔雄〕 しりごみ(尻込)。
しりたぐり〔名〕〔市、河、雄〕 尻からげ。
しりたぐる〔動四〕〔河、雄〕 尻からげる。
「しりたぐるといけない。」
しりぱしょり〔名〕〔市〕 尻からげ。
じゅーさん〔名〕〔河、平〕 巡査。
しらや〔名〕〔南〕 雄物川產の白い小魚。
しるま〔名〕〔鹿〕 ひる(ま晝間)。
しれ〔形〕〔市〕 白い。
「此の紙はしれ色だ。」
じれ〔形〕〔雄〕 ずるい。
「じれ奴である。」
じれ〔名〕〔鹿〕 惡口雜言。
じれこ〔名〕〔鹿、平〕 なまいき(生意氣)。
じれこたげる〔連〕〔雄〕 ずるいことをする。
「またじれこたげて蜂にいたづらする。」
しれよ〔名〕〔南〕 八郎湖產の白魚。
しれる〔動下一〕〔河〕 殖える。
「鷄がしれる。」
じろ〔名〕〔平〕 ずるいもの。
しろこ〔名〕〔仙〕 蒜。
じろける〔動下一〕〔由〕 なまける(怠)。
「じろける、下女だ。」
しろなぷさ〔名〕〔鹿〕 青大將(蛇)。
しろよ〔名〕〔南〕 しれよに同じ。
しわる〔動四〕〔河〕 たわむ、(撓)。
「この鞭すわる。」
しわっぽ〔名〕〔市、河〕 しみったれ。
しんか〔連〕〔山〕 死にませうか。
「私達の肺病は直るまい、しんか。」
しんけ〔副〕〔北〕 眞劍に。

「しんけ働く。」
じんこ（名）（平） きんたま。
じんじ（名）（鹿、雄） 祖父。
じんじき（名）（市） 地鎭。
じんじょ（名）（平） 正直。
じんじょ（形）（平） おとなしい。
「じんじよだ娘だ。」
じんじょ（副）（北、市、河、平、雄、由） きっと。
「じんじょ雨になると思うた。」
しんだで（連）（雄） 死んだ。
「今年はこれで人死んだで。」
じんちぁ（名）（平） ぢいさま（爺様）。
しんと（副）（河） 急いで。
「しんと行け。」
しんばご（名）（雄） 脫腸。
しんばや（名）（南、平、由） しばゐ（芝居）。
しんばやし（名）（由） はいいう（俳優）。
じんぴ（名）（仙） おしやれ（洒落）。
じんぴこく（動）（北） しやれる。
「あれぁじんぴこく人だ。」
しんべ（名）（仙） 雪靴。
じんべ（名）（市） 油桃。
しんぺぁ（名）（平） しんぱい（心配）。
しんぺぁする（連）（平） 心配する。
「父がしんぺぁして困る。」

◆**す** の 部

す（感）（接尾） ねえ。
「あのす。」
す（接尾）（仙、雄） ます。
「行くす。」
ず（接尾）（雄） といふ。
「東京に行くず話がある。」

ずぁ（助）（北） （といふの意）。
「帰ってもえずぇぁ。」
ずえぁ（名）（市、平） 末枝。
すいか（名）（河） しか（鹿）。
すが（名）（市、仙、平） つらら（氷柱）氷。
すーが（名）（平） 西瓜。
すが（名）（南、平） 氷。
すがいと（市、雄） きいと（生絲）。
すがいど（名）（平） 生絲。
すかえ（形）（平） 酸い。
「ああすかえ。」
すいがぐ（名）（河） すうがく（數學）。
すかすか（名）（北） すかんぽ。
ずがばじ（名）（平） すがる蜂。
すがる（動四）（河） 取りかゝる、組付く、たてつく。
「彼は先生にすがる。」
すがま（名）（北） 氷。
ずっかり（助）（市、仙、平） より以上。
「あれよりずっかり良い。」
すがわり（名）（鹿） ゑんどう（豌豆）。
すかん（名）（平） すかな。
すかんこ（名）（市、平） かたばみ。
すかんぺ（名）（山） 鳴らないこと。
すかんぽ（名）（平） かたばみ（酸漿）。
すき（名）（平、雄） しきゐ（敷居）。
ずぎ（名）（鹿、平） こえ、糞の肥料。
ずぎ（名）（南、雄、由） とき（時）。
ずぎ（名）（鹿） 遠慮。
すいぎ（名）（河） すき（鋤）。
ずっき（名）（河） 山吹（植物）。
すきずる（動四）（平） ひきずる。